

坪、山林四丁步、田一丁步等を寄附せらる。寺寶に傳教大師作  
鬼子母神像あり。

石妙寺

京妙顯寺末 平、二六 川邊村北田中 鈴木 惠徳  
由緒沿革 鶴林山と號す、開山諦智院日健上人、創立延享四年。

▲佐用郡

了清寺

大光山末 平、二五 平福村平福 前田 本壽  
由緒沿革 榮妙山と號す、開山日充僧正、創立享保元年二月。

▲加西郡

圓融寺

兵庫圓光寺末 平、二六 北條町 長崎 泰章  
由緒沿革 一妙山と號す、開基多田ヒサ山野五右衛門福岡榮七、  
開山隆妙院日進上人、創立明治十三年一月九日。

圓林寺

兵庫圓光寺末 平、等外 多加野村和泉 草野 玄秀  
由緒沿革 一乘山と號す、開基井上市左衛門、開山本土院日進  
上人、創立明治十三年一月廿二日。

報恩寺

大阪一乘寺末 平、二七 富合村玉野 齋藤 學進  
由緒沿革 開基内藤龜三郎深田喜左衛門、開山惠徳院日驗上人、  
創立明治十三年三月。

▲加古郡

妙福寺

立本寺末 平、二七 三方村觀音寺 中川 惠進  
由緒沿革 大乘山と號す、開山圓妙院日榮上人、創立寛正五年  
三月廿五日。

▲出石郡

本高寺

立本寺末 緋、一八 出石町魚屋  
由緒沿革 舟橋山と號す、開山佛性院日會上人(相州鎌倉妙本  
寺開居)、創立康正元年四月。

經王寺

京妙顯寺末 緋、二〇 出石町谷山 三好 能淳  
由緒沿革 一乘山と號す、開山法音院日導上人、創立天正十八  
年九月。

法華寺

京妙顯寺末 紫、一八 資母村赤花 長谷川泰導  
由緒沿革 圓融山と號す、開基河末宗助並子息久右衛門父子は  
丹後中郡の人、初め眞言を信ず、後、出石町經王寺二世實成院  
日政上人に歸依して改宗し、同寺三世自性院日音上人の資、南  
曉院日榮上人を開祖として元和四年當山を開創す。

▲養父郡

法華寺

妙傳寺末 緋、一七 大屋村加保 松村 貫貞  
由緒沿革 加保山と號す、初め眞言なりしも、開山實成院日養  
上人(身延日學上人の資)の巡化により改宗す。創立永享五年四  
月、當時大乘山學養寺と云ふ。二世の時俗稱に従ひ、法華寺と

日蓮宗寺院 兵庫縣第三部 城崎郡 出石郡

大圓寺

京妙顯寺末 平、等外 野口村野口 大川内英亮  
由緒沿革 開山智眼院日逞上人。

▲加東郡

妙見寺

兵庫本要寺末 平、二六 加茂村多井田 南條 岡俊  
由緒沿革 朝日山と號す、開基蓬萊寅三郎東田平左衛門三峯宗  
平、開山西山惠誠上人、創立明治十三年二月十七日。

兵庫縣 第三部 (但馬組)

▲城崎郡

勝妙寺

京妙顯寺末 緋、一六 八條村九日市 野村 能忍  
由緒沿革 法養山と號す、開基初持院日宣、開山大備正妙實上  
人、創立永正元年三月。

立正寺

立本寺末 緋、一五 豐岡町寺町 清水 慈宣  
由緒沿革 長遠山と號す、開山善性院日會上人、創立元和五年  
五月。

立光寺

立本寺末 紫、二三 日高村江原 江龍 英明  
由緒沿革 榮昌山と號す、開山法性院日忍上人、創立元和四年  
五月。

妙光寺

立本寺末 平、二九 日高村鶴岡 弓木 能靜

實行寺

妙傳寺末 紫、二一 高柳村八木 横須賀日珖  
由緒沿革 八木山と號す、開山本實院日秀上人、創立長祿元年  
三月。

實相寺

妙傳寺末 平、二三 廣谷村十二所 佐々 泰山  
由緒沿革 寶聚山と號す、開山實相院日顯上人、創立明應九年  
三月廿八日。

妙法寺

立本寺末 平、二九 糸井村高生田 鈴木 純教  
由緒沿革 廣布山と號す、開山日順上人、創立慶安二年四月。

寶泉寺

妙傳寺末 平、等外 關宮村中瀬 松浦 慈孝  
由緒沿革 長久山と號す、開山妙行院日摩上人、創立文祿二年  
三月。

▲美方郡

榮福寺

鳥取芳心寺末 平、二四 濱坂町濱坂 飯島 義源  
由緒沿革 光徳山と號す、開山慈雲院日徳上人、創立元和元年  
四月。

大運寺

妙傳寺末 紫、二五 村岡町村岡 池内 日經  
由緒沿革 長照山と號す、開山自性院日恒上人、創立慶安三年  
八月。

養父郡 美方郡

▲朝來郡

深高寺 妙傳寺末 山口村佐囊 平賀 英顯

由緒沿革 法天山と號す、開山智光院日達上人、創立正徳四年四月。

妙泉寺 京妙顯寺末 竹田町竹田 松本 智研

由緒沿革 法延山と號す、開山本城院日眞上人、創立永正十七年。

覺性寺 京妙顯寺末 東河村久田和 田中 啓妙

由緒沿革 圓龍山と號す、開山清淨院日宥上人、創立正保二年。

本行寺 京妙顯寺末 生野町口銀谷 平賀 日承

由緒沿革 正福山と號す、開山妙法院日勝上人、創立嘉吉元年四月。

本源寺 大光山末 生野町奥銀谷 鈴木 常道

由緒沿革 開山妙音院日祥上人、創立天正八年四月。

◎和歌山縣

▲和歌山市

本山 報恩寺 十八寺 眞砂町 園岡 日新

由緒沿革 白雲山と號し、四十四ヶ本山の一、開基紀伊國主南龍院殿賴宣公にして、公の夫人瑠璃院、加藤清正公の息女、菩提のため、二代藩主光貞公、大僧都日順上人を開山として、寛文九年七月創建し徳川家の香華寺として寺領二百五十石を寄す。開山は當山に住持して、特に參内を許され、大僧都に勅許せられ、尋て將軍に謁し、時服を賜ふ、爾來累世の任職交代の永式となる。靈寶に宗祖御眞蹟斷片二通、其他を藏す。

感應寺 身延末、中末三 島崎町 岡本 龍門

由緒沿革 開基徳川賴宣公、開山正覺院日陽上人、創立元和六年。

本行院 和歌山感應寺末 車阪南ノ町 島 惠謙

蓮心寺 玉澤末、中末三 小松原通五 田中 日萌

由緒沿革 善藏山と號す、開基養珠院殿阿萬の方、開山良應院日産上人、慶長十四年靜岡縣駿河國に創立せらる。藩祖賴宣公、紀州封任の當時、現地に移轉す、實に元和五年とす。塔中の七ヶ院は明治五年本寺へ併合す。寺寶に宗祖御消息四通、その他古書畫等の多くを藏す。

日蓮宗寺院 ◎和歌山縣 ◎和歌山市 ◎那賀郡

通照寺 和歌山蓮心寺末 屋形町四丁

由緒沿革 明治卅三年一月八日創立許可せられ、同縣海草郡湊村大字今福より現地に移轉す。

宣經寺 和歌山蓮心寺末 毛草屋町 武内 潮泰

由緒沿革 妙儀山と號す、開山圓雄院日格上人は本寺二世たり、その資寛永年中に當山を創立し自ら二世となる(統記廿一參照)。天明三卯年、回祿に罹り、同年再建して現今に到る。伏虎城へ八丁、和歌浦へ一里十丁とす。

正住寺 京妙覺寺末、中末二 東長町二 中井 享運

由緒沿革 開山眞如院日住上人。

妙法寺 中山末 寺町 上木 卽隆

由緒沿革 開山佛性院日榮上人、創立慶長十六年。

本光寺 京妙覺寺末 寺町 久保 惠光

由緒沿革 開山實成院日典上人、創立天正十九年三月。

▲那賀郡

隆昌寺 和歌山感應寺末 西貴志村長 宇野 龍信

由緒沿革 開山常教院日律上人。

龍光寺 和歌山蓮心寺末 東野上村動 山本 日桐

由緒沿革 遠嶺山と號す、開山智泉院日利大徳、創立延寶三年正月廿七日。

**蓮華寺** 和歌山養珠寺末 東野上村下 西川 榮智

由緒沿革 開基定環齋、開山安如院日義上人、創立寛永十三年三月。

**誠證寺** 報恩寺末 根來村西阪本 廣長 泰堂

由緒沿革 開基徳川頼宣公、開山阿成院日應上人、創立寛永十五年四月。

**蓮經寺** 和歌山養珠寺末 根來村西阪 森 泰誠

由緒沿革 開基徳川頼宣公、開山觀明院日存上人、創立寛永十五年四月。

**法華寺** 和歌山養珠寺末 九栖村北山 稻垣 即妙

由緒沿革 開山慈眼院日眼上人、創立寛文八年五月十九日。

**正福寺** 報恩寺末 山崎村會屋 新井 泰量

▲海草郡

**養珠寺** 身延末、中末四 和歌浦町 島田 慈秀

由緒沿革 開基徳川頼宣公、開山中正院日護上人、創立承應三年八月廿一日、初め慶安の頃、開基の生母、養珠院殿阿滿の方、開山をして妹背山を開き、題目石を藏して、東照宮の冥福を祈らしむ。養珠院殿入寂の後、開基は、生母草創の地なるを以て、新に寶塔を建て佛像を安じ、並に靈骨を瘞む。又側らに一字を造り、養珠院と號し、佛殿僧堂悉く備る。多寶塔は阿滿の方の

遺髪を埋めたるころ、風光の明媚南海に冠たり。附近に吹上濱、片岡辨天等あり。

**本久寺** 和歌山感應寺末 岡町村鹽道 魚井 龍嚴

由緒沿革 萬部山と號す、開山本覺院日支上人、創立慶長年中。

**淨心寺** 報恩寺末 雜賀村字須 山本 智照

由緒沿革 開基徳川頼宣公、開山心性院日遠上人、創立元和九年八月十日。

**妙宣寺** 和歌山養珠寺末 雜賀村字須 芦田 惠觀

由緒沿革 覺王山と號す、開山稱知院日禪上人。

**妙臺寺** 京妙覺寺末 龜川村多田 山家 惠潤

由緒沿革 南照山と號し、建保二年壬生野の城主平田冠者貞繼（大橋太郎通貞の叔父）法華經修行の地にして、文永二年日朗上人は寺山號を給ひ、且つ貞繼に日長の名を贈り開基たらしむ。觀應二年大覺大僧正、南紀弘通の砌、更に一大伽藍を建立して開山となり、天正十三年豊公南征の兵燹に烏有に歸し、永享十年日蓮上人再建して中興す。像師本尊、大覺大僧正同及同御作宗祖像、同雨請の傘、蓮師本尊、その他普公法華經等を藏し、紀三井寺に近し。

**安樂寺** 報恩寺末 中ノ島村 山崎 俊榮

由緒沿革 開基妙道、創立弘化二年正月。

**應供寺** 報恩寺末 安原村相阪 川口 惠諦

由緒沿革 開山日順上人。

**法紹寺** 報恩寺末 岡崎村神前 中村 慈圓

由緒沿革 開山仁慈院日理大徳、創立寛文五年六月。

**本惠寺** 身延末 直川村 西 海存

由緒沿革 開基新宮舊領主水野土佐守源重公、開山日忠上人、創立延寶八年三月。

▲東牟婁郡

**本廣寺** 身延末 新宮町口山際 荻野 日照

由緒沿革 開基新宮舊領主水野對馬守源重公（直川本惠寺には土佐守とあり不審の儘）、開山日忠上人、創立延寶年中。

▲西牟婁郡

**本正寺** 京妙覺寺末 田邊町 青木 泰良

由緒沿革 開山理性院日廣上人、創立元和五年四月廿八日。

▲有田郡

**養源寺** 京妙覺寺末 廣村 守法 惠運

由緒沿革 開基朝妙上人、開山日寛上人、創立寶永四年十月廿三日。

◎岡山縣 第一部 (備前組)

▲岡山市

蓮昌寺

京妙覺寺末、中末一四 東田町 高見 慈悅

由緒沿革 佛住山と號す、開基大覺大僧正、開山日像菩薩、創立  
康永三甲申年十二月四日、開基檀那當國金川城主松田左近將監  
元賢公(法號蓮昌院殿秀哲日妙大居士)、中興智鑑院日遙上人。  
初め眞言に屬し、岡山城森下町にあり、福輪寺と云ふ。開基の  
當時改宗し、後現地に移る。本堂、祖師堂、表門、二王門、客  
殿、庫裡、書院、鐘樓、鎮守堂、三重寶塔、香神堂、寶藏、藏、  
位牌堂、七面堂等具備し、陰陽第一の巨刹なり。寺寶に日像上  
人七十五枚纏の大曼荼羅、大覺大僧正の本尊、消息文等を藏し、  
後樂園へ七丁、東山公園へ十一丁の處にあり。

妙善院

岡山蓮昌寺末 東田町

由緒沿革 開山日遙上人、創立元祿三年。

本成院

岡山蓮昌寺末 東田町 玉井 慈船

由緒沿革 佛住山と號す、開山日遙上人、創立元祿三年。

不染院

岡山蓮昌寺末 東田町 田井 義温

由緒沿革 開基不染院日也上人、開山日遙上人、創立元祿三年。

林照院

岡山蓮昌寺末 東田町 柴田 良明

由緒沿革 佛住山と號す、開山日遙上人、元祿三年創立。

瑞雲寺

小湊末 三番町 日種 廣抽

由緒沿革 黃門山と號す、開山大覺大僧正、創立曆應年中。寺  
内に小早川金吾中納言秀秋公の廟あり。一如院日遙上人廟側に  
一庵を結び、二世本行院日宥上人の時に到て今の寺山號を稱ふ。  
蓋し最初願滿山成就寺と稱へ大覺大僧正の開山なりしが慶長の  
初め燒寺となりしによる。現住寺門經營を怠らず、寺運隆昌に  
向ふ。寺寶に高麗遙師開眼の清正公尊像を祀る。

▲御津郡

妙法寺

小湊末 福濱村濱野 岡崎 觀是

由緒沿革 感善山と號す、開山常住院日教上人、創立寛永十一  
年、當時安宅山教善寺と云ひ、寛文六年現寺山號に改む。九世日  
照上人改築し、十二世日晴上人中興し、明治六年燒失、大正元年  
本堂を新築す。寺寶に大覺大僧正の繪曼荼羅を藏す。

宗善寺

岡山正福寺末 白石村今保 友光 學暢

由緒沿革 明圓山と號す、開基日眞上人、開山日成上人、創立  
元龜二年三月十日。

太然寺

京妙覺寺末 大野村大安寺 大野 董秀

由緒沿革 巖根山と號す、初め禪宗なりしが、大覺大僧正巡教  
の砌、寺と共に改宗し、時の住職日鏡上人開山となる。寺寶に  
傳教大師作女身像帝釋天王、年代不詳寶珠金神あり。

成就寺

京妙覺寺末、中末二 上建部村 獅子原昌音

日蓮宗寺院 ◎岡山縣第一部 ◎御津郡

覺善院

岡山蓮昌寺末 東田町 楠 慈運

由緒沿革 佛住山と號す、開山日遙上人、創立元祿三年。

實如院

岡山蓮昌寺末 東田町 鳥越 潮法

由緒沿革 開山日遙上人、創立元祿三年。

大乘院

廣島本立寺末 東田町

由緒沿革 佛住山と號す、開山日遙上人、創立元祿三年。もと  
當市蓮昌寺末なりしも明治年間忠海町本立寺末となる。

妙勝寺

京妙覺寺末 船頭町

由緒沿革 明光山と號す、開山大覺大僧正。

正福寺

京妙顯寺末、中末一 瓦町 日下部學禪

由緒沿革 智光山と號す、開山本妙院日宥上人、創立寛永二年  
四月八日。

妙福寺

京妙顯寺末 小原町 高橋 探禪

由緒沿革 惠日山と號す、開山圓立院日運上人、創立寛永九年  
十二月。

妙應寺

大光山末 難波町

由緒沿革 峯林山と號す、開基華光院日正上人、開山本山五世  
建立院日傳上人、創立應永年中。寛政二年、類焼の厄あり、文  
化年中再興して、今日に到る。寺寶に傳教大師作鬼子母神像あ  
り。

由緒沿革 藤田山と號す、開山報恩大師、創立天平勝寶元年。

孝德寺

岡山成就寺末 上建部村品田 林口 順正

由緒沿革 開基松田左近將監公、開山自性院日善上人、創立天  
正年中。

妙淨寺

岡山成就寺末 上建部村建部 河内 顯山

龍淵寺

京妙覺寺末 建部村中田 宮崎 玄養

由緒沿革 開山大乘院日香大和尚、創立永正二年。

道林寺

京妙覺寺末 牧山村中山 東 日昇

由緒沿革 臥龍山と號す、開基備前國金川城主松田左近將監元  
方公、法號慈愍院道林日覺居士、城内三の丸に建立。天正十七  
五年、松田家没落と共に寺亦兵火に罹る。依て同年現地に移轉  
再興す。當時末寺二十ヶ寺を有せしも、寛文六年、國主の命によ  
り破却せられ、十三世日運上人代より妙覺寺末となる。寺寶に  
傳教大師作開山隨身の妙見尊あり。龍王の瀧、妙見山、風光佳  
なり。

日應寺

大光山末 馬屋上村日應寺 中島 通念

由緒沿革 吉祥山と號す、開基報恩大師、開山多寶坊、創立養  
老二年。開基勅許を得て四十八ヶ寺を建つ、當山はその最初根  
本の創立に係る、依て勅命山の稱あり。初め三論宗に屬し、貞  
觀十八年、天台宗に轉じ、永祿二年宗門となる。極大僧都日耀  
上人は改宗の祖なり。寺寶に宗祖及期師本尊、行基菩薩作桓武  
帝寄附二王並不動、毘沙門各像、報恩大師所持出山の釋迦、清

正公の香爐、その他梵鐘等あり、二王門、鎮守堂の二棟は明治二十五年保護建造物となる。

**妙林寺** 小湊末、中末一 伊島村上伊福 長澤 日桓  
由緒沿革 大乘山と號す、開山慈雲院日意上人、創立寛永九年四月。

**幸福寺** 小湊末 紫、一五 野谷村菅野 安國 一審  
由緒沿革 正保山と號す、開基自雲院日滿上人、開山報恩大師、創立永祿五年。

▲上道郡

**妙龍寺** 岡山蓮昌寺末 平、二〇 宇野村竹田 丹澤 日境  
由緒沿革 華用山と號す、開山日瑞上人、創立慶長十二年。

**大林寺** 京妙覺寺末 紫、二二 宇野村西川原 高木 廣朝  
由緒沿革 法昌山と號す、開基實成院日典上人、開山大覺大僧正。

**大光院** 岡山蓮昌寺末 平、二八 富山村圓山 玉村 智法  
由緒沿革 佛住山と號す、開山智鑑院日遙上人、創立元祿十一年五月。

**妙樂寺** 岡山妙廣寺末 平、二一 平井村平井 平尾 啓文  
由緒沿革 沖色山と號す、開基善性院日有上人、開山常林院日祥上人、創立天正年中。

**蓮現寺** 岡山蓮昌寺末 平、二三 周田村周田 森田 慈宏  
由緒沿革 日榮山と號す、開山眞住院日信上人、創立天正十五年九月九日。

**妙法寺** 身延末 素、二六 仁堀村仁堀東 印 觀山  
由緒沿革 正氣山と號す、開山日依上人、創立永祿三年。

**慶立寺** 岡山蓮昌寺末 平、二五 山方村瀧山 貫名 隆達  
由緒沿革 仁王山と號す、開山日祐上人、創立天正十九年。

**實教寺** 京妙覺寺末 平、二五 太田村鍛冶屋 田中 堂玉  
由緒沿革 本住山と號す、初め大覺大僧正、備前邑久郡福岡に來り、岸左衛門丞清兼の家に入る。化を受くるもの多く、永和中當山を建立し、期源僧都二世を嗣ぐ。後、幾變遷あり明治三十年現地に移轉す。寺寶に宗祖及大覺大僧正の御本尊あり、覺師腰掛石亦寺内に存す。

**香雲寺** 岡山蓮昌寺末 平、二五 葛城村國ヶ原 粗 智研  
由緒沿革 瑞輪山と號す、改宗開基瑞林院日徳上人、初め天平勝寶年間、報恩大師の創立するところ、大永七年四月八日、改宗して今日に到る。寺寶に大覺大僧正の宗祖御像、日像菩薩の本尊等を藏す。

**圓立寺** 岡山蓮昌寺末 平、二七 葛城村芳谷 菊地 觀龍  
由緒沿革 妙見山と號す、開山林光院日賀上人。

**妙應寺** 身延末 平、二七 石生村田原上濱  
由緒沿革 妙見山と號す、開山林光院日賀上人。

**妙廣寺** 京妙覺寺末、中末一 平井村 友光 察習  
由緒沿革 平井山と號す、開基常住院日教上人、開山龍花院日實上人、創立永和中。

▲赤磐郡

**蓮光寺** 京妙覺寺末 素、一九 竹枝村吉田 逸見 通漢  
由緒沿革 開山丹生坊民部日了上人。

**妙圓寺** 京妙覺寺末 平、二五 竹枝村太田 藤川 高山  
由緒沿革 開基田淵氏光、開山期源大僧都、創立貞治元年。

**本久寺** 小湊末 紫、二二 佐伯本村佐伯 岡 觀廣  
由緒沿革 太王山と號す、初め大寶元年役の行者海抜二千餘尺の高峯頻頭庵陀嚴上に開創し、鑑眞和尚再興して高星山青蓮寺と名く。弘仁年間、空海法師、其徒眞雅と共に來て太王山密嚴寺と改む。元龜三年の秋、當所眞神山の城主喜多土佐守、深く本宗に歸依し、領土一宗の制を布き太王山の衆徒に改宗を命ず、肯せず、依て退却を嚴命す。天正十一年九月、公、政を世子に譲り、太王山の諸堂宇を現地に移し、日景上人を請して開山に仰ぎ、改て太王山本久寺と名け附するに支院十一房を以てす。寛文六年不受不施の厄に破却せられ、貞享四年六月、本院の一字のみを復興す。往時より寺領を受くる事なく、唯だ特別の禮遇と、境内四周十七丁内の殺生禁制の札を受く、寺寶に石造九層の塔等あり。

由緒沿革 時正山と號す、明治三十七年四月一日脱漏編入す。

▲和氣郡

**妙園寺** 大光山末、中末三 伊部町浦伊 西田 日輝  
由緒沿革 淨光山と號す、開基大圓院日傳上人、開山圓覺僧正、創立永長元年正月十五日。

**中正院** 岡山妙園寺末 平、三〇 伊部町浦伊部  
由緒沿革 淨光山と號す、開基大圓院日傳和尚。

**圓立坊** 岡山妙園寺末 平、三〇 伊部町浦伊部  
由緒沿革 淨光山と號す、開基大圓院日傳和尚。

**實成寺** 岡山蓮昌寺末 平、二二 藤野村藤野 河内 日遺  
由緒沿革 福昌山と號す、開山實成院日典上人、創立天正十四年二月。

**法鏡寺** 京妙覺寺末 平、二七 片上町西片上 竹政 學圓  
由緒沿革 常照山と號す、開山大覺大僧正、創立康永年中(又は文和元年)、天正年間豊公中國攻の時、當寺を旅宿に當てしと傳ふ。後池田光政公、寺領を附す。現住當山に住職以來専ら寺門の經營に力を注ぐ。寺寶に期源僧都作涅槃像等あり。

**長泉寺** 岡山妙興寺末 平、二二 日笠村日笠上 本住 日説  
由緒沿革 常立山と號す、開基宇喜田家臣藤田甚左衛門、開山本行院日有上人、創立天正十四年三月二十八日。

▲邑久郡

妙興寺

小湊末、中末三、紫、一四

行幸村福岡 岡田 榮雄

由緒沿革 教意山と號す、開山權大僧都大教阿闍梨日傳上人、創立應永十年三月、開山は播磨の國主、赤松右京大夫則興(法號教意宗興)の子なり。亡文菩提のため當山を建立す。寛文建寶の頃一度廢寺の厄に遭ひしも後再興せられ、寛保元年十三世日芳上人は二王門を、安永三年十五世日領上人は本堂客殿を新築し、寛政二年十六世日眞上人更に客殿を改築すると共に、支院眞淨院本住院を再興し以て現今に到る。寺寶に宗祖阿佛房へ授與の木尊、菅公の紺紙金泥法華經、徳川秀忠公書翰、明晃筆温樂像等を藏す。

本住院

岡山妙興寺末、平、二八

行幸村福岡 芹ヶ野泰隆

眞淨院

岡山妙興寺末、平、二九

行幸村福岡 西森 通軒

妙光寺

岡山妙興寺末、平、二七

美和村飯井 河合 高澄

正福寺

京妙顯寺末、平、無等

藤戸村天城

由緒沿革 惠光山と號す、開山日宿上人、創立承應年中。

常昌院

身延末、素、二三

高松村立田

由緒沿革 明治二十六年二月一日長野縣上伊那郡長藤村より移轉す。

龍泉寺

岡山石塔寺末、平、二三

足守町下足守 阪本 圓進

由緒沿革 大溪山と號す、開山日言上人、創立元和七辛酉年二月。明治五年日護上人教田を開き、同廿二年四月成る。境内に霞溪瀑布あり。

不變院

小湊末、中末一〇、紫、二三

庭瀬町 河村 日燈

正善院

岡山不變院末、平、二四

庭瀬町 小見山惠音

本了院

岡山不變院末、平、二七

庭瀬町 原田 慈教

中正院

岡山不變院末、平、二〇

庭瀬町 秋田 龍觀

大乘院

岡山不變院末、平、二九

庭瀬町

僧城寺

小湊末、紫、一九

庭瀬町庭瀬 矢吹 是秀

由緒沿革 法正山と號す、開山城國院日鳳上人、創立寛永元年三月、開基月川肥後守正安公、中興遠如院日上人、本堂建立

日蓮宗寺院 岡山縣第二部 吉備郡

岡山縣 第二部 (備中東組)

▲吉備郡

妙教寺

京妙顯寺末、緋、一

高松村稻荷 稻荷 日勝

由緒沿革 稻荷山と號す、元龍王山と號し報恩大師の古跡たり、天正十年豊公高松城を略するの日、三里の水堤を湛へて之を陷る。此時寺亦水災に罹りた。報恩大師親刻の所根尼天のみを存す。開山妙智院日圓上人、此古蹟を惜み、眞言の教法を以て同天を祭り、今の寺山號に改む。後我宗に屬してより寺運益々隆盛し、享保の頃寶鏡寺宮より額字及若干帖を賜ひて祈願所となる。

妙玄寺

京妙顯寺末、平、無等

高松村稻荷

一乘寺

京妙顯寺末、平、等外

高松村稻荷

妙立寺

京石塔寺末、平、三〇

高松村稻荷

星友寺

京石塔寺末、平、二三

高松村稻荷 佐伯 隨圓

由緒沿革 惠雲山と號す、開山妙藏院日運上人、創立元和三年八月。

妙傳寺

小湊末、平、二一

庭瀬町東花尻 井上 潮秀

立成寺

岡山不變院末、平、二四

庭瀬町東花尻 友光 察英

正法寺

岡山不變院末、平、二六

庭瀬町西花尻 赤木 是觀

了性寺

岡山不變院末、平、二五

庭瀬町平野 織田 慈鏡

妙本寺

京妙顯寺末、中末七、緋、一八

大和村北 長瀬 日應

妙仙寺

岡山妙本寺末、平、二三

大和村北 田中 龍峰

妙香寺

岡山妙本寺末、平、二六

大和村北

本迹寺

岡山妙本寺末、平、二六

大和村西 坪井 順鏡

圓滿寺

岡山妙本寺末、平、等外

大和村西

由緒沿革 妙足山と號す、開山日正上人、創立嘉元二年。

眞城寺 岡山妙本寺末 大和村岨谷

妙教寺 岡山妙本寺末 大和村岨谷 宮田 學玄

由緒沿革 天久山と號す、開山日信上人、創立嘉元二年三月。

和泉寺 岡山妙本寺末 大和村宮地 難波 學靜

由緒沿革 寶塔山と號す、開山日持上人、創立嘉元年中。

道立寺 岡山道源寺末 日和村

▲淺口郡

妙立寺 京妙顯寺末 黑崎村本村 安田 龍玄

由緒沿革 海雲山と號す、開山大覺大僧正、創立延文二年八月。

法福寺 京妙顯寺末 黑崎村本村

由緒沿革 龍雲山と號す、開山大覺大僧正、創立延文二年九月。

佛乘寺 京妙顯寺末 黑崎村本村 國府島慈廣

由緒沿革 龍雲山と號す、開山大覺大僧正、創立延文二年八月。

妙任寺 大阪妙福寺末 河内村片島 難波 隨仙

由緒沿革 本政山と號す、開山中島安之丞、開山比企の常照院日教上人、寛永三年三月十五日客殿を建立し、爾後祝融の災あり、假本堂とす。寺寶に宗祖御本尊等を藏す。

智應院 岡山盛隆寺末 妹尾町妹尾 東 寶政

由緒沿革 開山日忍上人。

善立院 岡山盛隆寺末 妹尾町妹尾 林 隆哉

由緒沿革 啓運山と號す、開山日性上人。

淨園院 岡山盛隆寺末 妹尾町妹尾 櫻井 元祐

由緒沿革 啓運山と號す、開山日意上人。

觀行院 岡山盛隆寺末 妹尾町妹尾 高杉 通觀

由緒沿革 西磯山と號す、開山日照上人、創立寶永八年三月。

安祥院 岡山盛隆寺末 妹尾町妹尾 大洞 慈澄

由緒沿革 啓運山と號す、開基尾崎傳右衛門妻妙善、開山日慶上人。

吞海寺 京石塔寺末 妹尾町箕島 石井 智天

由緒沿革 如意山と號す、元禪宗に屬し、京都東福寺末たり。

開山は東福寺聖一國師の弟子禮學禪師にして貞治三年四月廿八日創立す(禪師は當國早島の人)。慶長年間領主花房助兵衛公の時、領内擧て改宗を命ぜらる、依て當山亦改宗す。本宗開山を獨尊院日仁上人とす。寺に開山自作の木像(長三尺)あり。

正福寺 京石塔寺末、小末一 妹尾町 吉田 啓壽

由緒沿革 海母山と號す、天正十九辛卯年領主花房助兵衛職之殿、誓願あり改宗せしむ。元眞言を宗とせるなり。開山海母院日

▲都窪郡

本榮寺 小湊末、中末七 倉敷町 安井 智教

由緒沿革 長興山と號す、開基堀傳右衛門、開山殘育日悟上人、創立寛永二年。

妙忍寺 身延末、中末七 帶江村羽島 鎌倉 榮仁

由緒沿革 休岸山と號す、天正八九年頃、當山大檀越平松九郎右衛門盛次氏、法號安全院休忍日意大居士、兩親(父到翁院休岸禪定門、母慶玉院妙忍禪定尼)菩提の爲め一字建立を思ひ立ち、之を領主戸川備州公に謀る、公大に喜び自ら茶屋町新田の上田三丁歩を附して公の香華寺とす。從てその家臣檀越となるもの多し。寺は慶長二年四月竣工し、津宇郡早島妙法寺哲道院日唱上人開山たり。戸川公、後帶江新田三千石を開き、農民を移す。民皆その徳を慕ひ、帶江新田庵を建て公の靈を祭り、當山の所轄に屬し、現今遊園地となる。本堂は八世唯禪定院日壽上人再建し、十一世顯本院日明上人亦庫裏等を再建し、現住更に寺門の經營に努力す。附近に帶江銅山、源平古戰場藤戸の渡し、小野小町の舊址等あり。

盛隆寺 小湊末、中末七 妹尾町妹尾 山本 隆海

由緒沿革 啓運山と號す、開山城國院日鳳上人、初め眞言に屬す。慶長十年領主戸川肥後守達安公の力により改宗す。現本堂は安永四年八世日眞上人の改築に係る。

玄上人(字玄秀)、改宗開山五世勝壽院日然上人とす。

正住坊 岡山正福寺末 妹尾町箕島 林 台靜

由緒沿革 赤松山と號す、開山日圓上人、正徳三年創立。

妙泉寺 岡山盛隆寺末 福田村古新田 竹本 隆學

由緒沿革 本覺山と號す、開基吉田三良右衛門、開山本覺院日感上人、創立寛永十一年三月。

淨泉寺 岡山不變院末 福田村山田 笠石 隆寬

由緒沿革 妙法山と號す、開基岡又十郎、開山日受上人、創立寛永五年二月廿五日。

淨安寺 岡山不變院末 庄村日畑 三宅 學勵

由緒沿革 鷲林山と號す、開山日相上人。

受法寺 岡山不變院末 庄村山地 岡本 隆顯

由緒沿革 妙信山と號す、開山日領上人、創立延寶七年四月。

蓮休寺 京石塔寺末 加茂村加茂 谷口 玄淨

由緒沿革 法意山と號す、天正七年創立。

宗蓮寺 京石塔寺末 加茂村津寺

由緒沿革 都宇山と號す、開山日伊上人。

妙法寺 京石塔寺末 早島町 佐藤 學秀

由緒沿革 壽永山と號す、開山日唱上人、寛永年中創立。

◎岡山縣 第三部 (備中西組)

▲阿哲郡

- 泉福寺** 京妙願寺末 新見町 平、等外  
由緒沿革 妙法山と號す、開山助泉日助上人、創立元文三年八月。
- 妙玄院** 岡山盛隆寺末 刑部村小坂部 菊野 智道 平、二七  
由緒沿革 啓運山と號す、開山日鳳上人、明治廿六年十月十三日宇都宮より現地に移轉す。

▲小田郡

- 妙乘寺** 京妙願寺末 笠岡町笠岡 伊藤 寛妙 緋、二〇  
由緒沿革 開山大覺大僧正。
- 覺林寺** 京妙願寺末 美山村三山 足立 體隆 紫、二四  
由緒沿革 岸本山と號す、開基大雲日鏡、開山大覺大僧正、創立曆應四年二月七日。
- 法音寺** 京妙願寺末 美山村三山 大西 慈修 紫、二二  
由緒沿革 獅子吼山と號す、開基正行坊日正上人、大覺大僧正を開山とす、慶長十八年十月創立。
- 善勝寺** 京妙願寺末 美山村大倉 押野 淳成 平、二三

由緒沿革 布東山と號す、慶長十三年三月創立。

◎川上郡

- 圓融寺** 京妙願寺末 小田村中小田 平井 完靜 紫、一九  
由緒沿革 光應山と號す、開山大覺大僧正、曆應三年三月創立。
- 乘福寺** 京妙願寺末 大井村小平井 菅原 學靜 平、二六  
由緒沿革 春日山と號す、開基日繼上人、開山大覺大僧止妙實上人、創立正平十五年四月(又は文和四年三月十三日)。天文年間領主渡邊季之元正再興して今日に至る。
- 妙泉寺** 京妙願寺末 三谷村横谷 谷口 即成 平、二五  
由緒沿革 法悟山と號す、開基當所猿掛城主花房志摩守正成公、法鏡法悟院殿祝山宗悅大居士、開山上行院日顯上人、元和元年五月創立。開基の廟、寺内にあり。

◎川上郡

- 法德寺** 京妙願寺末 北川村走出 平、等外  
由緒沿革 尾上山と號す、開山義諦上人、慶應元年四月創立。
- 法華寺** 京妙願寺末 神島内村神島 井口 智鏡 紫、二二  
由緒沿革 圓明山と號す、開山大覺大僧正、曆應四年二月創立、元真言に屬し、圓明寺と云ふ。元弘年間開山に依て時の住持改宗し二世と成て本明院日正と名く。享保年間本堂修理鐘堂を再築し、現住明治三十七年以來六に寺門經營に努力し、寺觀備る。
- 本光寺** 京妙願寺末 成羽町下原 三宅 日順 紫、二六

由緒沿革 松王山と號す、開基日慈上人、開山を大覺大僧正とす。元祿二年三月創立。

**長遠寺** 京妙願寺末 平川村 三宅 啓深 紫、二三  
由緒沿革 長命山と號す、開基大法院日從上人、開山大覺大僧正。

**妙光寺** 京妙願寺末 日里村明治 門田 孝壽 紫、二三  
由緒沿革 鳴石山と號す、開山大覺大僧正。

**妙積寺** 京妙願寺末 日里村明治 三宅 靜海 紫、二三  
由緒沿革 定長山と號す、開基本覺坊實祐、開山大覺大僧正、康永三年六月一日創立。

**妙泉寺** 京妙願寺末 日里村黒忠 八木 泰演 平、二四  
由緒沿革 榮昌山と號す、開基圓照實榮、開山を大覺大僧正とす。正保二年正月創立。

**妙典寺** 本法寺末 井原町 紫、二二  
由緒沿革 長照山と號す、開基日達上人、開山日親上人。

**蓮華寺** 京妙願寺末 西江原村 平、等外  
由緒沿革 妙法山と號す、開山大覺大僧正、延文中創立。

**長泉寺** 京妙願寺末 明治村花籠 三宅 慈精 紫、二五  
由緒沿革 永潤山と號す、開基福泉坊日滿上人、開山大覺大僧正。

**道源寺** 京妙願寺末、中末一 松山村 緋、二六  
由緒沿革 法榮山と號す、開山理性院日莊上人、文祿四年創立。

正、貞治元年二月創立。

**妙善寺** 京妙願寺末 芳井村築瀬 畑野 日禎 緋、一五  
由緒沿革 金昌山と號す、開山大覺大僧正、康安元年十月創立。

**圓信寺** 京妙願寺末 芳井村川相 赤木 慈宣 緋、二〇  
由緒沿革 漆原山と號す、開基金剛院日勇上人、開山大覺大僧正、文和三年五月創立。

**妙福寺** 京妙願寺末 共和村上嶋 伊藤 寛勇 紫、二二  
由緒沿革 高原山と號す、開山大覺大僧正、康安元年中創立、往古は眞言に屬し、清瀧山圓明寺と云ふ。文和元年開山中圓弘通の砌り改宗し、爾來今日に到る。寺寶に宗祖及日朗菩薩、清正公の眞跡、開山乾師の御本尊等を藏し。寺内に小島左近大夫藤原直重の太鉈の墓あり。天可翁先生の所謂「新耶馬溪」に近し。

**妙石寺** 京妙願寺末 共和村上嶋 其和村上嶋 平、二八  
由緒沿革 本光山と號す、開山大覺大僧正、寶曆二年創立。

**妙源寺** 岡山巨福寺末 中津井村下 中津井 平、二〇  
由緒沿革 正木山と號す、開山大覺大僧正、貞治二年十月三日創立。

**道源寺** 京妙願寺末、中末一 松山村 緋、二六  
由緒沿革 法榮山と號す、開山理性院日莊上人、文祿四年創立。

**妙源寺** 岡山巨福寺末 中津井村下 中津井 平、二〇  
由緒沿革 正木山と號す、開山大覺大僧正、貞治二年十月三日創立。



巨福寺

京妙覺寺末、中末一 松山村 藤澤 玄妙  
素、二七

由緒沿革 素南山と號す、慶長年中創立。

▲吉備郡

本住寺

京妙顯寺末 穂井田村服部 水島 學信  
平、二四

由緒沿革 妙見山と號す、開山大覺大僧正、延文三年中創立。

慈源寺

京妙顯寺末 箭田村 小田 學玄  
平、二五

由緒沿革 大覺山と號す、開山大覺大僧正、延文三年創立。

法華寺

京妙顯寺末 箭田村 山下 憲雅  
紫、二四

由緒沿革 大覺山と號す、開山大覺大僧正、延文三年創立。

妙傳寺

岡山妙林寺末 箭田村 藥師寺學美  
平、二七

由緒沿革 有緣山と號す、開山日教上人、天正元年創立。

◎岡山縣 第四部 (美作組)

▲吉田郡

妙法寺

京妙覺寺末、中末四 津山町 貫名 見祐  
緋、一六

由緒沿革 長昌山と號す、開山法音院日充上人、初め妙王院と云ふ。嘉吉元年九月、足利義勝公、山名教清を以て本州の守護とす。教清、鶴山城を築き山名判官忠政を置く。忠政入道して

全力を注ぎ、鐘樓堂を建立し、庫裡を改築し、玄關、表門及寺有道路等々新設す。寺寶に日法上人作宗祖木像、本園寺日解上人持佛宗祖木像、開山木像、日像菩薩本尊等を藏す。

無量寺

岡山妙法寺末 中谷村入 岡本 學英  
平、二三

由緒沿革 開山法音院日充上人、永正十三年三月三日創立。

萬福寺

岡山本行寺末 高野村本郷 汪野 學慈  
平、二八

由緒沿革 開山良心院日明上人、寛保元年創立。

▲眞庭郡

妙圓寺

京妙覺寺末 勝山町高田 本多 智岡  
紫、二二

由緒沿革 開基三浦下野守貞宗、開山大覺大僧正、延元五年の創立。

興善寺

京妙覺寺末 久世町久世 淺沼 惠海  
紫、二二

由緒沿革 正法山と號す、開基杉山三郎右衛門爲次、開山自性院日元上人、慶長八年創立。寶曆十四年十三世唯信院日壽上人永代聖跡の寺格を得ん爲め寺田悉皆を賣却し、金千兩を本山に納む。寛政年中重田又兵衛再建す。

蓮祐寺

京妙覺寺末 久世町草加部  
平、二七

由緒沿革 開山盧三日形上人、慶長十九年三月創立。

法光寺

京妙覺寺末 川東村大庭 土井 見要  
平、二四

由緒沿革 開基金田七郎右衛門、開山教林院日從上人、明應三

孝庵と稱し、一字を城内柳の壇に創建し、妙王院と名け、日光上人を開山とす。慶長八年三月、森忠政封につき、鶴山城を改築するに當り、寺を新座に移し、妙法寺と改め寺領百石を付す。

時の住持日譽上人、不受不施なるを以て固辭して受けざりき。慶長十七年、土第を新座に造るに及て寺亦西寺町なる現地に移る。承應元年、日龍上人、本堂を改築し、七面堂を創建す。寶永三年、城主松平長矩公、七面堂を再建し、祭祀料米十石を寄せ、享保十九年八月、山門裏門を改築す。寶曆四年日廣上人庫裡其他を改築し、現住明治三十年山門を再建する等、大に經營に努む。附近に鶴山城趾(十五丁)、聚樂公園(二十丁)、作樂神社(一里)あり。

本行寺

京妙覺寺末、中末三 津山町 大村 學深  
緋、二三

由緒沿革 延壽山と號す、開山照智院日立上人、創立文明年間。當時本宗篤信の一武人、關東より來りて東南條郡林田郷に住す。該地未だ本宗なきを慨き本山日察上人に圖り、開山を請じて當山を開く、慶長九甲辰年、津山市成るに及び、地を南新座に領し、尋て現地に移る。附近に鶴山城趾(公園)あり。

妙勝寺

京妙覺寺末 津山町西寺町  
平、二三

由緒沿革 開山智光院日照上人、慶應十七年九月創立。

蓮光寺

京妙覺寺末 津山町上ノ町 瀬川 學進  
平、二五

由緒沿革 明星山と號す、開基金谷左大夫、開山本光院日秀上人、創立寛永元年五月。五世是音院日嚴上人再興。天保年間本堂等焼失し、嘉永元年日誠上人本堂再建。現住寺門經營に

年二月創立。

妙蓮寺

京妙覺寺末 川東村大庭  
平、三〇

本覺寺

京妙覺寺末 落合町垂水  
平、二〇

由緒沿革 開山大覺大僧正、延文五年中の創立。

▲勝田郡

法光寺

岡山本行寺末 新野村西中 小谷 惠朝  
平、二八

由緒沿革 開山日仙上人。

經王寺

岡山妙法寺末 勝加茂村下  
平、二九

由緒沿革 開山日隨上人、元和六年三月創立。

禪眞寺

岡山妙福寺末 豐並村關本  
平、等外

由緒沿革 善行院日養上人の開山、永祿七年四月創立。

▲英田郡

壽林寺

京妙覺寺末 倉敷町倉敷 蓮海 惠妙  
平、二一

由緒沿革 福榮山と號す、開基小林與三衛門、開山圓住院日仙上人。壽永二年、當國の城主從四位上藤原親信公、賴朝公武運長久のため、當郡打尾村山頂に一字を建て打尾山長大寺と稱す。此時觀山明雲座主を聘して法華八講を修せり。文治元年、賴朝公、總追捕使となるや、親信の德に酬ゆるため七堂伽藍を建立し、支院四坊、末寺八ヶ寺を付す。應仁二年六月、山名宗全、

赤松圓信、兵を交ゆるや、僧兵山名を援く、利あらず、赤松氏のため山門悉く灰燼に歸す。後、同郡北原村天神山の城主岡崎氏名利の廢絶を嘆き、打尾山叙福寺を建立す。天正十年八月、開山當寺に巡錫し改宗せしむ。文祿元年四月、倉敷の南隅、吉野川沿岸の地に福榮山壽林寺と名け移る。天正年間岡山の城主浮田氏菅公の紺紙金泥の法華經(一名除雷法華經)を寄附し、その他寺寶に日法上人作宗祖像、同大黒天、大覺大僧正略本尊、蓮絲織唐繪涅槃像等を藏し、附近に鷺沼温泉、四方鐵山等あり。

**宗國寺** 京妙覺寺末 倉敷町倉敷 清山 觀惠  
由緒沿革 開山妙藏院日忍上人。

**隨緣寺** 京妙覺寺末 江見村鯨 森本 正徳  
由緒沿革 開基江見若狹守末孫江見休夢、開山恕雲院日頼上人。

**本妙寺** 京妙覺寺末 巨勢村海田 遠藤 湛靜  
由緒沿革 開基小林重兵衛、開山圓藏院日養上人、天正元年四月創立。

久米郡

**圓通寺** 岡山眞淨寺末 鶴田村角石畝 岡村 見孝  
由緒沿革 開山日禪上人、天正六年八月十六日創立。

**眞淨寺** 京妙覺寺末、中末二鶴田村角 和田 惠照  
由緒沿革 柏尾山と號す、初め法相宗に屬し、自風年間由羅和尚開闢す。爾來禪宗に轉じ、寛正元年十一月、天台の心榮和尚

にあり、屢々兵火に犯さる。元龜三年開基開山を請じてその舊趾に建立せしものを當山とす。寺寶に日講上人御本尊、玉造日浣上人(上人は當地宇上弓削の出)御本尊及歷代本尊等を藏し、洗顏瀧に近く、圓光大師の誕生寺は一里とす。

**學永寺** 岡山妙法寺末 加美村原田  
由緒沿革 開山日了上人、元和二年四月廿八日創立。

**妙福寺** 岡山本行寺末 大井西村中 岡村 學明  
由緒沿革 開山俊應院日了上人、文明五年七月創立。

**龍泉寺** 岡山妙福寺末 神目村上神目 林 觀海  
由緒沿革 開山大智院法意日龍上人、寛永三年三月創立。

再興し、永祿元年十月、本成院日禪上人、改宗開山となる。寺寶に行基菩薩の釋尊像及馬角等を藏す。

**定林寺** 京妙覺寺末 鶴田村和田南 河合 惠明  
由緒沿革 鶴田山と號す、開山善作院日元上人、天文元年八月創立。初め禪宗に屬し、眞名子にあり、眞名子山西來寺と稱す。當時の住職靈夢により法華に歸し、二度地を替へ現地に移り自ら開山となる。寺寶に帝釋天を祀り、狩野法眼乗信の掛軸等を藏す。

**妙福寺** 京妙覺寺末、中末四 福渡村 柴山 日慈  
由緒沿革 金福山と號す、開基沼本與太郎久家、開山壽福院日存上人、天正元年三月創立。寺寶に日像菩薩御本尊、同大黒天宵像本尊及び伏見宮貞親王第二王女常子内親王御親書等を藏し、旭川の向岸には、一文字に米一斗五升を入れ得と云ふ題目岩あり。

**妙泉寺** 岡山妙福寺末 福渡村川口 佐野 寶雲  
由緒沿革 開山壽福院日存上人、天正八年創立。

**東光寺** 岡山眞淨寺末 大塚和村和 河村 惠教  
由緒沿革 開山日清上人、延寶八年創立。

**蓮久寺** 岡山妙福寺末 弓削町下弓 渡邊 勵道  
由緒沿革 千間山と號す、開基沼本彦左衛門入道宗蓮、開山要林院日要上人。往古天台宗に屬し、菅家の建つるところ、土地廣博にして、密房相聯るを以て千間寺と稱す。中世美作の通路

●愛媛縣 第一部 (甲部)

▲松山市

妙圓寺

身延末、中末一  
紫、一三

萱町 米村 泰淳

由緒沿革 開山行學院日潤上人。

妙清寺

立本寺末、中末一  
紫、一八

出淵町 平地 樞恩

由緒沿革 開山日鷲上人。

大法寺

本法寺末  
紫、一九

魚町 中臣 日融

由緒沿革 開山大僧都日藝上人。

長久寺

本法寺末、中末一  
紫、二四

木屋町五 木村 享謙

由緒沿革 開山慈眼院日歡上人、天正三年十一月一日創立。

妙有寺

身延末  
平、二五

松前町 森 海淨

由緒沿革 開山久成院日詮上人。

延立寺

愛媛妙清寺末  
平、二四

港町三丁目 米村 泰園

由緒沿革 開山覺禪院日耀上人。

▲温泉郡

法華寺

身延末、中末一  
紫、二八

御幸村山越 中臣 泰純

由緒沿革 開基松山舊領主久松家再建、開山了瑞院日院上人、天和三年創立。

瑞應寺

妙傳寺末  
紫、二四

雄群村針田 二宮 日暢

由緒沿革 開山瑞應院日甚上人。

妙見寺

愛媛法華寺末  
平、二七

潮見村大内 井上 圓長

由緒沿革 開山柔和院日順上人、明治十二年十月創立。

正念寺

愛媛長久寺末  
平、二二

三津濱町古 三津

由緒沿革 開山淨心院日性上人、享保三年創立。

妙法寺

身延末  
平、二五

三津濱町住 古川 聰達

由緒沿革 開山實名日理上人、明治十二年創立。

積善寺

頂妙寺末  
素、二〇

粟井村鹿峰 小倉 泰耀

由緒沿革 彼岸山と號す、開山本具院日達上人、元文五年(又は寛永十年)創立。寺寶に立像釋尊あり。

法善寺

立本寺末  
紫、二四

北條町辻 眞能 日啓

由緒沿革 開山日妙上人。

▲伊豫郡

妙寬寺

愛媛妙圓寺末  
平、二八

松前村筒井 村口 泰應

上行寺

本法寺末  
素、二四

郡中町本町 香川 信妙

由緒沿革 開山實正院日了上人、延寶元年創立。

▲越智郡

法華寺

立本寺末  
紫、一五

今治町中濱町 戸田 聰察

由緒沿革 開山本住院日虞上人、天正年中創立。

▲周桑郡

本妙寺

本法寺末  
平、二〇

國安村國安 讃岐 麗妙

由緒沿革 久成山と號す、文明十二年三月創立、開山久遠成院日親上人、二祖通玄院日感上人、嘉吉三年三月本堂建立す。相傳ふ、寺に後花園天皇の繪旨あり、今より七十年前までは、毎年六月十五日。繪旨祭あり、盛儀を極めしも、嘉永二年十二月類焼に遭ひてより廢ると。文久元年廿三世日端上人、現本堂を再建す。寺は高山不鏈山の麓にあり、風光佳し。

▲新居郡

林昌寺

立本寺末  
紫、一五

水見町水見 岡本 親教

由緒沿革 開基馬場平左右衛門、開山法性院日惠上人、寛文五年十月創立。

妙昌寺

立本寺末  
紫、一五

西條町東町 千 韻秀

由緒沿革 日榮山と號す、開基領主一柳監物公、開山讃岐高松妙朝寺の弟子法性院日惠上人、創立寛永十三年十一月、開基の母君妙昌日繁大姉菩提のため建立し、家老門川八左衛門大に幹旋す。延寶二年八月、暴風のため本堂大破す、依て憲政五年四月再建す。寺寶に日朝、日審各上の本尊を藏す。

瑞應寺

妙傳寺末  
紫、二四

雄群村針田 二宮 日暢

由緒沿革 開山瑞應院日甚上人。

妙見寺

愛媛法華寺末  
平、二七

潮見村大内 井上 圓長

由緒沿革 開山柔和院日順上人、明治十二年十月創立。

正念寺

愛媛長久寺末  
平、二二

三津濱町古 三津

由緒沿革 開山淨心院日性上人、享保三年創立。

妙法寺

身延末  
平、二五

三津濱町住 古川 聰達

由緒沿革 開山實名日理上人、明治十二年創立。

積善寺

頂妙寺末  
素、二〇

粟井村鹿峰 小倉 泰耀

由緒沿革 彼岸山と號す、開山本具院日達上人、元文五年(又は寛永十年)創立。寺寶に立像釋尊あり。

法善寺

立本寺末  
紫、二四

北條町辻 眞能 日啓

由緒沿革 開山日妙上人。

▲伊豫郡

妙寬寺

愛媛妙圓寺末  
平、二八

松前村筒井 村口 泰應

上行寺

本法寺末  
素、二四

郡中町本町 香川 信妙

由緒沿革 開山實正院日了上人、延寶元年創立。

▲越智郡

經王寺

立本寺末  
平、二四

豐岡村大町 橋本 貫行

由緒沿革 開基鈴木日清、開山一之院願延上人、明治十二年八月創立。

●愛媛縣 第二部 (乙部)

▲西宇和郡

法眼院

本法寺末  
緋、一五

喜須來村須川

由緒沿革 開山日能上人、明治八年再興。

成就寺

京妙顯寺末  
素、二〇

八幡濱町 山田 淳正

由緒沿革 開山觀世院日就上人、明治十三年三月一日創立。

持珠院

大光山末  
素、二〇

三机村三机 隱岐 龍海

由緒沿革 開山日絶上人、曆應元年五月創立。

▲北宇和郡

一乘寺

京妙顯寺末  
素、一九

立間尻村立間 石橋 慶照

由緒沿革 最上山と號す、開基吉田藩主伊達宗純公室(酒井宮内大輔忠勝公息女)、開山律師最上院日要上人、萬治元年三月十日創立、大正二年本堂を再建す。

法圓寺

身延末  
素、二一

宇和島町神田川 服部 晴山

日蓮宗寺院 ◎愛媛縣第二部 ◎東宇和郡 ◎喜多郡

由緒沿革 妙長山と號す、伊達遠江守の老女比企の局の心願により、國守に聞え上げ、寛文四年十月十三日、家老鈴木信好と相圖て圓節山の麓に當山を建立し、身延より江府谷中感應寺同等の寺格を得、同十一年秋感應寺十三世日英上人の弟子日員上人法灯を挑げ、同寺十二世僧都日純上人を開山に、師日英上人を二世に、自ら三世となる。寺寶に日護上人作宗祖像、親、重、乾、遠各上の本尊、國守の親筆等を藏し、伊達秀宗公の忠臣山家公頼、萩森宥綱等の墳墓寺内にあり。

**妙興寺** 京妙顯寺末 宇和島町本物 上木 日妙  
由緒沿革 開基不詳、開山現授院日相上人、文祿三甲午年八月創立、安政元年六月六日堂宇焼失、目下再建準備中。元祿十五壬午の年夏、大に旱す。時に宇和島藩主當山九世日泰上人に雨を祈らしむ、六月廿六日より一七日、七月二日に至て滋雨沛然たり。藩主喜て米五十石を賜へりと云ふ。

▲東宇和郡

**本如院** 和歌山正住寺末 宇和町鬼窪 河端 啓戒  
由緒沿革 もと和歌山市東長町二丁目にあり、明治二十八年一月二十二日現地に移る。

▲喜多郡

**光明照院** 本法寺末 大洲町大洲 富永 龍昇  
由緒沿革 小倉山と號す、開基光明照院殿入道前關白太政大臣

◎香川縣

▲高松市

**妙朝寺** 京妙覺寺末 三番町 南原 義抽  
由緒沿革 開基小橋平左衛門、開山日然上人、正徳元年三月創立。

**善昌寺** 京妙覺寺末 三番町 五水井榮俊  
由緒沿革 開基木村氏、開山日遊上人、天文十一年四月創立。

**日妙寺** 京妙覺寺末 濱野町  
由緒沿革 開基小笠原民部大輔、開山日慧上人、天文十七年三月創立。

**泉立寺** 身延末 西通町  
由緒沿革 高松山と號す、開基當國家老肥田和泉守政勝、開山相模小田原本久寺中道院日然上人、寛文二年十月四日（又は承應三年）創立、寺寶に宗祖消息斷片、孝謙天皇勅作塔あり。海濱に近く瀬戸内海の群島を望む。

**廣昌寺** 身延末 天神前町 貫野 日迎  
由緒沿革 開基松原讀岐守頼重公、開山日儀上人、寛文元年創立。

▲丸龜市

日蓮宗寺院 ◎香川縣 ◎高松市 ◎丸龜郡 ◎三豐郡 ◎木田郡

三七四

兼基公、建武元年八月廿三日創立。初め禪宗に屬し、全理高阿和尚（又は絶海慈宗和尚）開山たり。二條齊敬公舍弟釋持妙院日敬上人に依て改宗す。明治廿六年洛北細川より現地に移轉す。寺寶に日女御前御消息斷片四十一字を藏す。

**法眼寺** 本法寺末 新谷村新谷  
由緒沿革 開基加藤織部藤原朝臣泰直、開山惠龍院日登上人、萬治三年創立。

**長久寺** 本法寺末 長濱町長濱 清水 是教  
由緒沿革 武運山と號す、開基加藤遠江守、開山實正院日了上人、天和元酉年十月創立。今より二百餘年前、天草亂の初開基の出征に際し戦捷を祈り、武運長久のため建立せしを以てこの寺山號を名く。

**宗泉寺** 京妙顯寺末 南條町 成田 智顯  
由緒沿革 開山律師日雄上人。

▲三豐郡

**慈雲寺** 大光山末 大野原村大野原  
由緒沿革 開基平田源治正重、開山日慧上人、正保二年創立。

▲木田郡

**妙德寺** 京妙覺寺末 平井村平木 徳見 至學  
由緒沿革 開山日教上人。

三七五

●高知縣

▲土佐郡

妙國寺

頂妙寺末、中末五、潮江村高見 蓮乘院日船

由緒沿革 天高山と號す、開基細川遠江守勝益公曾祖父菩提のため妙國院日祝上人を請じ、元龜元康午年香我美郡田村に建立し、天高山桂昌寺と呼ぶ。天正の初、五世即妙院日願上人の時、長曾我部元親、當國平定の後、吾川郡浦戸港へ移り、六世勤行院日證上人の慶長六年正月八日、山内一豊公入城後、高知市朝倉町へ、更に十一世元聚院日純上人の貞亨四丁卯年十二月廿七日亥刻要法寺より類焼のため、元祿元戊辰年、覆載院山内豊昌公の命により現地に轉す。十二世元理院日圓上人の正徳二年祝融の災あり再建し、廿三世壽量院日壽上人の文化十四年改築し、爾來今日に到る。現寺山號は後に稱ふる所なり。寺寶に宗祖法華經斷片、後水尾天皇宸翰、傳教大師、大燈國師各眞筆、定家卿筆、狩野法眼畫、清正公奉納鰐口等を藏し、五台山等の眺望佳なり。

寶藏寺

高知要法寺末、潮江村高見

要法寺

身延末、中末八、潮江村上町 川崎 日忍

日祝上人、元龜元年三月十三日創立。

本正寺

高知妙國寺末、田村 河野 榮俊

藏福寺

高知妙國寺末、田村

大願寺

高知妙國寺末、德王子村刈谷 文野 智妙

▲安藝郡

中道寺

高知妙國寺末、室戸町浮津

萬福寺

本法寺末、甲浦村甲浦 愛宕 廣忍

淨眼寺

高知要法寺末、安藝町横山

▲高岡郡

妙像寺

身延末、佐川町東町 金澤 誠愿

日蓮宗寺院 ●高知縣 ●安藝郡 ●高岡郡 ●幡多郡

日仁上人、天正二年開基の封地に創立す、爾來其移封に隨ひ轉轉現地に及ぶ、世々山内家香華寺たり。

妙修寺

高知要法寺末、潮江村上町

由緒沿革 開基一要院妙修日行尼、開山皆常院日惣上人、寛永二年七月創立。

本明院

高知要法寺末、潮江村上町

由緒沿革 開山了惠院日願上人、寛永六年創立。

▲吾川郡

善法寺

高知要法寺末、池川町土居

由緒沿革 開山覺性院日秀上人。

▲長岡郡

藤榮寺

高知要法寺末、後免町

由緒沿革 開山體蓮院日輝上人、嘉永五年六月廿九日創立。

壽仙院

高知要法寺末、三里村種崎 瀨川 良朝

由緒沿革 開山壽仙院日等上人。

▲香美郡

細勝寺

高知妙國寺末、田村 釋 教澄

由緒沿革 天高山と號す、開基細川遠江守勝益公、開山妙國院

像日性、開山眞善院日妙大徳、元和八壬戌年創立。後延寶十年二世深尾重昌側室阿呂久、當所に庵を結び、深尾家鬼門除の祈禱寺となし、その子の中興開基とす。後三度同様に罹り、明治十二年十五世蓮乘院日船上人本堂を、十七世眞鏡院日省上人客殿を改築す。境内に阿呂久手植の京都高尾の紅葉の大樹あり。附近には深尾氏第地、和樂園、猿丸大夫等の故跡多し。

▲幡多郡

眞靜寺

京妙顯寺末、中末二、中筋村有岡

由緒沿革 有岡山と號す、開基有岡地頭民部少輔上落して、開山日像菩薩に歸依し、元亨元辛酉年己が邸宅を轉じて當山を創む。寺寶に開山の開基に授與せられたる曼茶羅を藏す。

妙藏寺

高知眞靜寺末、中筋村有岡 川田 教直

妙本寺

高知眞靜寺末、山奈村芳奈 金子 智呈

法蓮寺

京妙顯寺末、奥内村柏島 春藤 智正

妙榮寺

身延末、宿毛町宿毛土居 柴岡 智玄

由緒沿革 開基山内但馬守盛豐の女通夫人、開山久遠院日悦上人、慶長六年創立。

●德島縣

▲德島市

妙永寺

大光山末 紫、二三

寺町 兒島 日顯

由緒沿革 感應山と號す、開山實相院日長大徳、開基開法院日讀、初め板野郡章瑞村にあり、寛永年間、現地に移轉再興す。本堂庫裡妙見堂山門等あり、寺寶に宗祖建治の本尊を藏す。

本覺寺

妙覺寺末 平、三〇

寺町

妙長寺

京妙顯寺末 平、二三

寺町 江草 朗貞

壽量寺

身延末 素、二二

寺町 野口 智清

由緒沿革 妙覺山と號す、開山美濃國主齋藤道三次男日鏡上人、元和二年六月創立。開山初め伊勢桑名壽量寺にあり、其寺世々田村城主(又は加良洲崎城主とも傳ふ)樋口家の香華寺たり。阿波國主蜂須賀蓬庵公當地に始封の際、樋口内藏助長正、公を欣慕し此地に來り、祿七千石を以て仕ふ。開山亦桑名の任職を棄て此地に來る、長正爲めに公に請ひ、一字を建立せしもの當山たり。後身延末となる。宗祖弘安三年日辨上人への御本尊等を藏す。  
善學寺 立本寺末 紫、二六 寺町 美馬 至雄  
由緒沿革 長久山と號す、開基久米氏、開山善學院日形上人、

●廣島縣 第一部 (備後組)

▲尾道市

妙宣寺

京妙顯寺末 紫、一七

十四日町

由緒沿革 本覺山と號す、開基久成院日覺上人、開山大覺大僧正、文和三年創立。

▲福山市

妙法寺

京妙顯寺末 紫、一九

西町 翁野 日睿

由緒沿革 本性山と號す、開山本迹院日意上人、元和六年十一月創立。

通安寺

備後常國寺末 紫、一九

西町 兼志田原靈孝

由緒沿革 桃林山と號す、開基水野美作守、開山功德院日通上人、慶長十二年正月創立。

長正寺

大光山末 平、二〇

西町 志田原靈孝

光政寺

京妙覺寺末 紫、二三

東町 塚田 寶鏡

由緒沿革 樹榮山と號す、開基水野日向守、開山智善院日鳳上人。

▲御調郡

日蓮宗寺院 ●廣島縣第一部 ●尾道市 ●福山市 ●御調郡 ●沼隈郡

文祿二癸巳年五月創立、元眞言宗に屬し、法光寺と名け蘆原村にあり。三好長治公によりて改宗す。安永六年本堂を再建す。

本行寺

京妙覺寺末、中末一 紫、二六

寺町 小倉 海靜

由緒沿革 高雲山と號す、開山日永上人、開基板野郡章瑞城主三好長治公菩提のため慶長八年九月十七日創立。寛永年間現地に移轉再興す。寺寶に宗祖法華經一卷を藏す。

松岳寺

本法寺末 平、等外

富田浦町北山路

由緒沿革 開山日順上人、正保三年十二月十五日創立。

▲那賀郡

妙泉寺

妙國寺末 平、二九

富岡町石塚 佐藤 慈勝

由緒沿革 龍江山と號す、開山日位上人、慶長三年八月二十六日創立。

▲名東郡

清涼寺

身延末 平、三〇

八萬村下八萬

妙見庵

德島本行寺末 平、等外

八萬村下八萬

▲海部郡

法華寺

本滿寺末 紫、二五

鞆奥村鞆浦 平澤 自省

由緒沿革 開基眞下豐後守、開山寂照院日乾上人、寛永三年創立。

壽德寺

本法寺末 紫、二八

三原町三原 友光 文海

由緒沿革 妙榮山と號す、開基玉藏院日演上人、開山久遠成院日親上人、長祿元年創立。

妙正寺

京妙顯寺末 紫、二九

三原町三原 島崎 惠登

由緒沿革 無量山と號す、開基一雲院日進上人、開山養雲院律師日忠上人、享保九年六月二十八日創立。元禪宗の寺なり、延寶二甲寅年淺野忠眞、改て法華となす。初め米田山麓にあり、後現地に轉す。

本照寺

備後常國寺末 平、等外

市村 石川 潮英

由緒沿革 城本山と號す、開基日應上人、開山久遠成院日親上人、永正元年一月創立。

▲沼隈郡

妙蓮寺

京妙顯寺末 紫、一九

鞆町後地 佐野 韻應

由緒沿革 法昌山と號す、開基實相院日形上人、開山日像菩薩。

法宣寺

京妙顯寺末 紫、二五

鞆町後地 堤 智漢

由緒沿革 大覺山と號す、開山大覺大僧正、延文三年創立。

顯政寺

備後常國寺末 紫、二〇

鞆町後地 鈴木 日運

由緒沿革 壽福山と號す、開基正善院日實上人、開山久遠成院日親上人。

顯應寺

京妙顯寺末 紫、二一

田尻村 丹原 韻詮

由緒沿革 小杏山と號す、開基乘道院日源上人、開山日像菩薩。  
**妙顯寺** 京妙顯寺末、中末七 水呑村 丹原 日隨

由緒沿革 妙性山と號す、開基三原一乘、開山日像菩薩、延文元年四月創立。  
**重顯寺** 京妙顯寺末 紫、一九 水呑村 小林 林靜

由緒沿革 清光山と號す、徳治元年三月創立、もと眞言にして、開山戒善院日行上人、京都に行き、偶々日像上人の化を受けて弟子となり、日行と名づけ、翌二年春檀方を説示して寺と共に改宗す。寺寶に像師の本尊等を藏す。  
**善住寺** 廣島妙顯寺末 素、二〇 水呑村 曾我 慈温

由緒沿革 安立山と號す、開山大智院重兼、永正十三年六月創立。  
**玄祥坊** 廣島妙顯寺末 平、二三 水呑村 井上 頤膽

由緒沿革 妙性山と號す、開山本迹院日意上人、正保四年四月創立。  
**玉泉坊** 廣島妙顯寺末 素、一九 水呑村 内田 辨靜

由緒沿革 開山本迹院日意上人、正保四年十月創立。  
**壽仙坊** 廣島妙顯寺末 平、二四 水呑村 長瀬 頤正

由緒沿革 開山本迹院日意上人。  
**本光寺** 廣島妙顯寺末 素、二二 山南村下山南 楠 智教

中之坊 備後常國寺末 平、二五 熊野村 矢木 智淳

山本坊 備後常國寺末 平、二五 熊野村 小川 惠進

谷之坊 備後常國寺末 平、二五 熊野村 村上 順亮

竹之坊 備後常國寺末 平、二八 熊野村

松之坊 備後常國寺末 平、二七 熊野村 笠原 學貞

▲深安郡

妙政寺 妙傳寺末、中末二 吉津村吉津 宇野 海辨

由緒沿革 長久山と號す、開基舊領主水野美作守、開山恕正院日宥上人、創立正保年間、本堂、庫裡、位牌所、二天門等具備し、寺寶に宗祖御眞筆その他を藏す。  
**實相寺** 身延末 素、二三 吉津村吉津 井上 日了

由緒沿革 法鏡山と號す、開基水野家臣上田支蕃、開山妙了院日達上人、寛永十年八月創立。  
**守妙院** 廣島妙政寺末 平、等外 川口村 安藤 慈良

由緒沿革 開基阿部家臣青木親義、開山修妙院日登上人、嘉永  
**日蓮宗寺院** ●廣島縣第一部 ●深安郡 ●神石郡

律師、寛正元年三月二十三日創立。  
**北辰庵** 廣島妙顯寺末 平、等外 郷分村石原

由緒沿革 明治十六年創立許可、爾來届出漏なりしも大正五年届出編入す。  
**妙藏寺** 廣島妙顯寺末 平、三〇 柳津村 門田 是勇

由緒沿革 顯本山と號す、開山本迹院日意上人、正保四年四月創立。  
**常國寺** 本法寺末、中末九 熊野村 岡 觀亮

由緒沿革 光照山と號す、發願人宮近門民部左衛門尉藤原信定、開基領主渡邊家四代越中守兼、二人、開山久遠成院日親上人に歸依し、文明十八年創立。福島正則入國して寺領召離され、寺運衰微す。渡邊家六代出雲守房再興す。同家八代四郎左衛門の三男出家し、七世寂照院日保上人となる。元福山城主水野日向守の次男亦出家す。八世通天院日感上人これなり。上人客殿、開山堂等を再建す。寺寶に開山の木尊、圓頓章、その他足利義昭公の遺品等を藏す。  
**法縁寺** 備後常國寺末 平、二 熊野村 古賀 英輝

由緒沿革 四大山と號す、開基渡邊信濃守、開山日祇上人、長享二年二月創立。  
**壽量寺** 備後常國寺末 平、等外 熊野村 釋 妙信

由緒沿革 藥王山と號す、開山日感上人。  
**岸之坊** 備後常國寺末 平、二六 熊野村 内田 泰現

蓮瑞寺 本法寺末 平、等外 大津野村大門 井出 惠信

由緒沿革 見塔山と號す、開山本住院日善上人、寺寶に本山功徳院通師作宗祖尊像を安置す。  
**本覺寺** 京妙顯寺末 平、二七 山野村山野 藤原 三敬

由緒沿革 蓮長山と號す、開山妙實上人、文和四年六月十三日創立。  
**妙永寺** 京妙顯寺末 紫、一八 加茂村栗根 本良 惠戒

由緒沿革 大覺山と號す、開山大覺大僧正、延享二年七月創立。  
**一乘寺** 京妙顯寺末 平、二七 湯田村箱田

由緒沿革 法昌山と號す、開山日親上人、文明十八年九月創立。  
**妙立寺** 本法寺末 紫、一九 川南村神邊

▲神石郡

由緒沿革 曼延山と號す、開基實乘律師、開山大覺大僧正。  
**妙樂寺** 京妙顯寺末 素、二〇 豊松村笹尾 渡邊 泰隆

由緒沿革 金田山と號す、開基實乘律師、開山大覺大僧正。  
**東福寺** 京妙顯寺末 平、二八 豊松村笹尾 石井 泰旭

由緒沿革 開山本行院日淨上人、寛永十三年創立。  
**上妙樂寺** 京妙顯寺末 平、二四 豊松村笹尾 大出 智玄

由緒沿革 開山本行院日淨上人、寛永十三年創立。

**正覺寺** 京妙顯寺末 平、二四 上村 荒川 英實

由緒沿革 明光山と號す、開山智同院日開上人、寶徳二年三月創立。

▲**豐田郡**

**本立寺** 身延末、中末一 紫、二〇 忠海町 鈴木 泰亮

▲**芦品郡**

**法音寺** 京妙顯寺末 素、二三 府中町府中 佐崎 孝遵

由緒沿革 豐饒山と號す、開基府中市村秋山左衛門、開山大覺大僧正、貞和二年二月創立。

◎**廣島縣 第二部 (雙三組)**

▲**雙三郡**

**光善寺** 京妙顯寺末 素、一五 三良坂村三良坂 飯尾 日曉

由緒沿革 王平山と號す、開山成就院日言上人、文龜二年四月八日創立。

**法音寺** 京妙顯寺末 素、一九 三次町五日市 山田 英妙

由緒沿革 壽延山と號す、開基近藤園清、開山成就院日言法印、初め安藝國高田郡小田村にあり。後、備後雙三郡櫃田村へ移り、天正十年現地へ轉じ、同十一年四月八日再建す。

**妙榮寺** 國前寺末 平、二四 三次町五日市 日柳 義鞭

由緒沿革 壽正山と號す、開基淺野家故壽正院、開山善學院日高上人、慶安三年三月創立。

**重林寺** 京妙顯寺末 素、二二 和田村向江田 中尾 日承

由緒沿革 樹王山と號す、開基和田治右衛門由明、同德藏、開山常隆院日珠上人、天和二年四月八日創立。明和七年三月五日再建。

**顯德寺** 京妙顯寺末 素、二三 萩原村灰塚 住江 智運

由緒沿革 永照山と號す、開基廣澤文八郎、開山延照院日達上人、天文十五年三月四日創立。

**妙音寺** 京妙顯寺末 平、二八 十日市町 門屋 泰妙

由緒沿革 法華山と號す、開山蓮種院日周上人、寛永九年十二月二十二日創立。

**妙眼寺** 京妙顯寺末 平、三〇 神杉村廻神 吉川 泰明

由緒沿革 法隆山と號す、開山妙覺院日法上人、永正十七年三月十五日。

▲**比婆郡**

**金福寺** 身延末 素、二五 庄原町庄原 増田 鳳淳

**妙善寺** 京妙顯寺末 素、二二 西城町入江 野崎 學實

由緒沿革 萩野山と號す、開基荒木對馬守盛正公、開山玉林院日藝上人、天文八年十月創立。

**妙玄寺** 京妙顯寺末 平、二七 比和村比和 中平 智教

由緒沿革 壽榮山と號す、開山妙實上人。

▲**甲奴郡**

**妙光寺** 京妙顯寺末 平、二八 上下町上下 西家 慈觀

由緒沿革 寶塔山と號す、開基片岡啓次郎、開山至誠院日實上人、延享四年十月十三日創立。

**實相寺** 京妙顯寺末 平、二四 矢野村矢多田 北村 龍教

由緒沿革 慶永山と號す、岡山蓮乘院日祇上人、天正十二年八月十六日。

▲**世羅郡**

**圓龍寺** 京妙顯寺末 平、二九 東村別迫 山根 龍勝

由緒沿革 藤春山と號す、開山楞嚴院日貞上人、天文十二年十二月十三日創立。

◎**廣島縣 第三部 (安藝組)**

▲**廣島市**

**本山 國前寺** 十四等末寺六 尾長町 疋田 英恩

日蓮宗寺院 ◎廣島縣第二部 ◎甲奴郡 ◎世羅郡 ◎廣島縣第三部 ◎廣島市

**本覺寺** 本法寺末 緋、一五 左官町 佐藤 元延

由緒沿革 廣布山と號す、開基神支院日深上人、開山自性院日朝上人、天正十八寅年九月十八日創立、初め高田郡吉田にあり、後現地に轉ず。寺寶に傳教大師作鬼子母神等あり、寺觀備り、風景亦佳。

**妙頂寺** 京妙顯寺末 紫、一四 左官町 頂岳 龍觀

由緒沿革 經王山と號す、初め日遊上人、本縣高田郡吉田村に創立す、四世壽福院權大僧都日詮上人の天文年間、現地に移轉し、上人を中興とす。三原城主淺野男爵家の香華寺たり。本堂、祖師堂、庫裡、清正公堂等輪奐美を極め、寺寶に、宗祖御本尊、同御消息、同御自作御像、涅槃大幅、釋尊一代記繪像等を藏し、寺運興隆す。

**妙風寺** 大光山末 紫、一八 東白鳥町 白井 秀旭

由緒沿革 開基本行院日意上人、開山妙藏院日經上人。

**妙法寺** 京妙覺寺末 紫、一五 材木町 中島 龍溫

由緒沿革 開基十如院日運上人、開山寂光院日安上人、元和三



日蓮宗寺院 ●廣島縣第三部 ●吳市 ●佐伯郡

年十月十三日創立。

圓隆寺

京妙覺寺末  
紫、一八

三川町兼疋田 英恩

由緒沿革 福昌山と號す、開山慈善院日音上人、康健院日蓮上人中興、創立明曆年間、開山は本山國前寺十八世に瑞世す。寺内に赤穂四十七士の一人原惣右衛門信仰の稻荷大明神あり。

▲吳市

法華寺

廣島妙政寺末  
平、一五

寺本町 峠山 潮廣

由緒沿革 廣本山と號す、開基水野家々老上田玄蕃、開山惠明院日行上人、永祿十年四月創立。もと惠了坊と稱し本寺塔中にして爾後廢絶せしを明治卅五年春、丘湖仙上人初めて當市に移轉再興し、現住は二世を嗣ぐ。

養運院

高知要法寺末  
平、二〇

今西町 長谷川日正

由緒沿革 開山養運院日長上人、文祿二年創立、元高知市外潮江村要法寺塔中に在りしが、大正二年二月現地に移轉す。

▲佐伯郡

常國寺

大光山末  
素、一九

二十日市町 中谷 慈經

由緒沿革 長榮山と號し、永正二年開基山田治右衛門、本山廿四世常寂院日周上人を開山として改宗再興す。爾來大破せしを、明治卅二年、廿世久遠院日慈上人嗣法し、大正三年本堂、庫裡等を大修繕して再興す。寺寶の宗祖尊像は、身延奥の院、堀ノ

●山口縣

▲下關市

法正院

大光山末  
緋、一〇

本町 山本 龍成

由緒沿革 清光山と號す、開基立川日行、開山釋日禎上人、明治九年五月創立。

護國寺

小湊末  
紫、一五

新町 吉田 日詣

由緒沿革 佛來山と號す、開基玉江利兵衛、開山日諦上人、明治十三年四月十九日創立。附近に大賀常樂園あり。

▲吉敷郡

常妙寺

立本寺末  
緋、一九

山口町米殿小路 山本 日耕

瑞相寺

福岡龍潛寺末  
平、二一

嘉川村江崎 西 智海

本興寺

池上末  
平、二三

東岐波村黒崎 竹若 觀峰

由緒沿革 開山日行上人、永享年中創立、寛文中再建、初め東京府荏原郡池上村にあり、明治十六年三月現地に移轉し、同時に舊稱坂本院を現寺號に改稱す。

圓滿寺

大光山末  
平、二四

吉敷村吉敷 赤川 慈溫

日蓮宗寺院 ●山口縣 ●下關市 ●吉敷郡 ●佐波郡 ●玖珂郡 ●阿武郡

三八四

内妙法寺と併せて一木三體の靈像とす。廿日市場は瀬戸内海に臨めるところ、極樂寺山、四十八坂、櫻尾城趾皆近く、安藝宮、島海上約一里とす。

慈光寺

京蒲願寺末  
紫、一九

草津町 丘 龍潮

由緒沿革 普門山と號す、開山普門院日周上人、初め禪宗に屬し大破す。元祿十四辛巳年、開山に依て改宗し、同十五年十一月創立す。寺寶に海中出現の妙見大士、平清盛作不動尊あり。寺は瀬戸内海の海岸に沿ひ、嚴島に對し、江波公園を一眸に集む。

由緒沿革 開基毛利市正元直公室、開山惠光院權律師、元祿十四年四月創立。

▲佐波郡

本因寺

大光山末  
平、二三

右田村田ノ口 桂 泰眞

由緒沿革 開基天野六良左衛門元政、開山泰慶院日舜上人、元和三年創立。

▲玖珂郡

清泰院

身延末  
緋、二〇

岩國町川西 清野 威立

由緒沿革 開基吉川廣嘉公夫人天長院殿、開山遠沾院日亨上人、文祿七年三月創立。

欽明寺

大光山末  
平、一五

玖珂村欽明路

由緒沿革 開山忠性院日仁上人、天文五年創立。

▲阿武郡

法華寺

本法寺末  
紫、一八

萩町戎町 秋田 本定

由緒沿革 松原山と號す、開基深野太郎左衛門、開山中山十一世日典上人、慶長九年十一月創立、明治三十六年九月祝融の災あり、本堂庫裡焼失、同四十二年本堂庫裡を再建す、寺寶に後光嚴帝の日蓮大菩薩號、宗祖水鏡繪像、十羅刹女三光天子像、中山日常上人本尊等を藏す。

三八五

妙繁寺

身延末 平、二一

嘉年村嘉年下 安野 了温

由緒沿革 一乗山と號す、開山蓮信房日回、享保八年三月創立、もと甲斐國南巨摩郡本建村にありて中適坊と稱す、大正二年十月廿五日現地に移轉妙繁寺と改稱す。依て移轉功勞者秋法華寺秋田了順上人を移轉開山とし、現住三世たり。

▲美禰郡

經王寺

小湊末 素、二〇

共和村嘉萬

由緒沿革 南石山と號す、開山山本日誦上人、明治十二年落成。

常在寺

池上末 紫、二〇

伊佐村河原 清水 文秀

由緒沿革 明治三十年十月四日千葉縣上埴生郡五郷村より現地に移轉し、同時に藻原寺末より現本山に轉末せるものなり。

▲厚狹郡

妙德寺

大光山末 紫、一八

厚西村 畠中 智量

由緒沿革 清涼山と號す、開山山本久院日性上人、寛永元年創立。

蓮成寺

千葉妙嚴寺末 紫、一九

王喜村松屋 出口 智勇

由緒沿革 開敷山と號す、創立天正年間、開山日相上人、もと千葉縣夷隅郡西畑村にあり大正二年現地に移轉し、同時に平僧跡より紫金彌跡に昇格す。本寺は移轉功勞者常阿智光上人を開山に推す。現住卅二世たり。

●島根縣 第一部 (石見組)

▲通摩郡

惠光寺

京妙顯寺末 緋、一九

溫泉津町 藤原 周學

由緒沿革 延命山と號し、初め眞言に屬す、開山寶塔院日慈上人、大永三年春、加賀より銀山妙像寺に巡錫の砌信者歸嚮して當時の小庵に寶塔院と名け迎ふ。上人和歌を能くし、天正年間、細川幽齋公當寺に立寄り、百首連歌を催し、相樂めりと云ふ。附近に新舊二温泉あり、日露役に名高き日本海戰場亦一眸の裡にあり。寺寶に宗祖本尊、菅公法華經、運慶作二王等を藏す。

本善寺

島根惠光寺末 平、無等

溫泉津町 泉津

由緒沿革 開山速成院日道上人、享保十一年創立。

妙正寺

京妙覺寺末 素、二八

大森町銀山 樋ヶ 潮圓

由緒沿革 開山本教院日忠上人、永正十一年五月十五日。

妙像寺

京妙顯寺末 素、二七

大森町銀山 後藤 榮修

由緒沿革 開基難波甚左衛門、開山法淨院日眞上人、元龜二年三月十三日創立。

▲安濃郡

妙光寺

大光山末 紫、一八

大田町大田 高林 柔元

日蓮宗寺院 ●島根縣第一部 ●通摩郡 ●安濃郡 ●那智郡 ●鹿足郡 ●美濃郡

由緒沿革 烏帽子山と號す、開山理性院日信上人、永享元己酉年坊山隱林に創立、十世權大僧都日香上人、永祿三庚申年、隣寺淨土宗大願寺の境内を所望し、こゝに移轉再興す、依て上人を移轉開山とす。十六世智徳院日達上人の時永聖跡となり、爾來寺運隆昌す。寺寶に宗祖建治の本尊等を藏し、四境幽雅なり。

▲那智郡

妙智寺

京妙顯寺末 素、二七

石見村淺井 上野 智徳

由緒沿革 法林山と號す、開山淨智院日印上人、慶長八(又は二)年八月七日創立。寺は有名なる鏡山と相對し、寺内に舊藩主松平家の御廟所あり。賽者絶えず。

龍泉寺

京妙顯寺末 素、一八

濱田町淺井 笹部 日要

由緒沿革 陽光山と號す、開基川上孫右衛門尉、開山圓教院日仁僧都、文祿四年五月創立。陸軍廿一聯隊は當寺より八丁、神史加賀見山烈女お初の墳墓は三丁とす。

▲鹿足郡

本性寺

大光山末 平、二五

津和野町森 西川 孝淳

由緒沿革 開基舊津和野藩主龜井政矩侯、開山唯常院日繼上人、元和三年創立。明治年間同地顯照寺(大光山末開山大乘院日狀上人、開基齋藤十右衛門、寛永年中創立)を合併す。

▲美濃郡

**妙法寺** 京妙顯寺末 紫、二四 益田町下市 山下 義療  
由緒沿革 慶長八年八月七日創立。

◎島根縣 第二部 (出雲組)

▲松江市

**常教寺** 大光山末 紫、一三 寺町 佐藤 日得

由緒沿革 妙法山と號す、開山守玄院日國上人、九世玄重院日  
幽上人中興す、永享六年現松江市田中に創立、後現地に移轉す。  
明治二十年祝融の災あり、現住檀信と相圖り、山門鐘樓を除く  
外、全建物を新築し輪奐美なり。寺寶に宗祖御本尊及妙法石等  
を藏し、尖道湖、千鳥遊園、松江城皆近く、出雲富士を望見す  
べし。

**久成寺** 京妙顯寺末 紫、二三 寺町 岡野 幸惠

由緒沿革 本妙山と號す、開山修善院日證上人、現住本堂を修  
繕し、庫裡を新築する等、寺門經營に力を盡す。

**長滿寺** 大光山末 平、二五 寺町 小林 亮精

由緒沿革 圓久山と號す、初め能義郡富田莊にあり、後松島周  
防守開基となり、本山十五世日柄上人の資乘圓院日眞上人、天  
正十年現地に移轉再興開山となる。

**慈雲寺** 身延末、中末一 紫、一〇 和多見町 落合 日慈

**本成寺** 身延末 紫、二四 飯梨村石原 關 惠精

由緒沿革 啓運山と號す、開基牧志摩守、開山慈雲院日新上人、  
天正十年創立。

**圓福寺** 身延末 平、二二 母里村西母里 庭田 文察

由緒沿革 開明山と號す、開山日祐上人、享保二十年五月創立。

**經王寺** 身延末 平、二九 安來町安來

由緒沿革 明治十二年九月創立、もと松江市慈雲寺末なりしも  
明治三十九年六月廿九日現本山に轉末す。

▲飯石郡

**妙法寺** 大光山末 紫、二三 三刀屋村三刀 太田 智目

由緒沿革 開山妙本院日教上人。

**高德寺** 大光山末 紫、等外 飯石村粟谷

由緒沿革 開山隨心院日英上人。

**妙法寺** 京妙顯寺末 紫、二三 赤名村下赤名 永井 實傳

由緒沿革 開基舊赤名城主松田左近將監吉久公、開山成就院日  
言上人。

▲周吉郡

**常妙寺** 中山末 平、二二 西郷町西田 宇中 智振

日蓮宗寺院 ◎島根縣第二部 ◎飯石郡 ◎周吉郡 ◎海士郡 ◎知夫郡

由緒沿革 啓運山と號す、開基堀尾家七家老の一人牧志摩守、開  
山慈雲院日新上人、天正十二年創立。本堂玄關庫裡等寺觀備ふ。

▲八束郡

**安樂寺** 島根慈雲寺末 平、等外 津田村

由緒沿革 開山日寬上人。

▲簸川郡

**妙本寺** 大光山末 平、二八 東村小境

由緒沿革 明治卅四年中同縣遷摩郡大森町より現地に移轉す。

**法恩寺** 京妙覺寺末 紫、二〇 平田町平田 橋 泰善

由緒沿革 妙光山と號す、開山本迹院日祇上人、享保八年燒失  
後再建。十二世慈讓院日謙上人字は道光、聽松庵と號し、詩書  
を能くし、菅茶山、賴一族等と親交あり、其著聽松庵詩抄三卷世  
に行はる。寺寶に同上人の五景詩並に本尊あり。寺は出雲大社、  
一畑藥師、鰯淵寺に近く、碧雲湖開展して風光佳なり。

**連紹寺** 京妙覺寺末 紫、一六 今市町今市 加納 廣淳

由緒沿革 妙法山と號す、開山本迹院日祇上人、天文元年創立。

**大慶寺** 本法寺末 紫、一四 檜山村多久 佐藤 日明

由緒沿革 開山日親上人、永享六年創立。

▲能義郡

▲海士郡

**法久寺** 中山末 平、二五 海士村寄 細川 圓省

由緒沿革 歡喜山と號す、開山日納上人、もと神奈川縣足柄下  
郡酒匂村にあり、同地本光寺三宅日鐘上人、明治十一年以來當  
地に布教し、十四年説教所を設け、大正元年當寺を移轉せるも  
のなり。

▲知夫郡

**妙經寺** 中山末 平、二六 知夫村

由緒沿革 妙榮山と號す、開基柳川正朝、開山日忍上人、元應  
元年十月十三日創立、もと神奈川縣足柄下郡二川村にあり、同  
郡酒匂本光寺三宅日鐘上人、明治十一年以來當地に開教し、同  
十二年教會所を設け、明治三十五年(四十年許可)當寺を移轉せ  
るものなり。

●鳥取縣 第一部 (因幡組)

▲鳥取市

芳心寺 京妙顯寺末、中末七 馬場町 河合 啓俊  
由緒沿革 開基日廣上人、開山日像菩薩、寛永九年三月創立。

本慈院 鳥取芳心寺末 馬場町 平岡 日明  
由緒沿革 開基日春上人、開山日廣上人、享祿三年二月創立。

完龍院 鳥取芳心寺末 馬場町 谷口 啓温  
由緒沿革 開基日淵上人、開山日廣上人、享保十一年三月創立。

本淨寺 大光山末 川外大工町  
由緒沿革 開基日如上人、宗祖を開山に仰ぐ。

覺成寺 京妙覺寺末 新品治町 藤田 淳善  
由緒沿革 開基成就院日賢上人、開山日實上人、天正十七年四月二日創立。

長榮寺 京妙覺寺末 新品治町 石井 實然  
由緒沿革 久遠山と號す、開基尊秀院日妙、開山日實上人、寛永九年三月創立。初め備前岡山にあり、慶安年中現地に轉す。

因幡八景あり。  
吉祥寺 鳥取芳心寺末 智頭村市瀬 植木 啓勝  
由緒沿革 醫王山と號す、開山日照上人、享保二年創立。

●鳥取縣 第二部 (伯耆組)

▲日野郡

解脱寺 身延末 阿毘緣村下阿 野村 薩運  
由緒沿革 阿毘緣山と號す、開基日要上人、小右衛門、善右衛門、開山日感上人。傳ふ、當山安置の宗祖尊像は、足利氏一族日野中將の、本國寺日靜上人より請ひ受けたる尊像にして、中將初め當山附近に法華坊を建て、安置す。後慶安元年十一月、米子本教寺日要上人、信士長尾善右衛門(法號日解)、雲州松江榎屋小左衛門(法號日脱)の二人と力を協せ、身延境上の資日感上人を開山と仰ぎて再興し、法要山解脱寺と名く。又阿毘緣村にあるを以て阿毘緣山と名く。本堂、庫裡、客殿、鐘樓等備はり、寺寶に宗祖御眞筆三軸を藏す。

正法寺 鳥取感應寺末 黒坂村 生田 圓照  
由緒沿革 開山龍巖院日長上人、慶長八年八月創立。

▲西伯郡

日蓮宗寺院 ●鳥取縣第二部 ●日野郡 ●西伯郡

▲岩美郡

常忍寺 中山末 富桑村西品治 奥野 日妙  
由緒沿革 開基日常上人、宗祖を開山に仰ぐ、永仁年中創立。

▲氣高郡

清照寺 鳥取芳心寺末 美穗村上味野 星合 孔章  
由緒沿革 開基法泉院日任上人、開山日廣上人、寛永十一年創立。

妙行寺 千葉妙嚴寺末 瑞穂村下坂本 木村 玉嶽  
由緒沿革 開基日廣上人、開山日廣上人、元祿五年三月創立。

朝日寺 鳥取芳心寺末 大和村横枕 廣瀬 智順  
由緒沿革 開山精進院日勇上人、元祿五年三月創立。

▲八頭郡

圓教寺 鳥取芳心寺末 用ヶ瀬村用 田中 啓徳  
由緒沿革 開山日廣上人、開山日廣上人、元祿五年三月創立。

蓮教寺 鳥取芳心寺末 若櫻町 田中 智儀  
由緒沿革 白毫山と號す、開山身延十二世圓行院日意上人、數度の火災に七堂伽藍焼失す。初め身延末たり、後現本寺に改む。寺寶に大覺大僧正の宗祖像、行學朝師の本尊等を藏し、附近に

感應寺 身延末、中末四 米子町大工町 關 日通  
由緒沿革 開基中村伯耆守忠一公、開山龍巖院日長上人、慶長五年十一月創立。

本教寺 京妙顯寺末 米子町立町 本田 孝敬  
由緒沿革 開基古曳長門守吉種公、開山實報院日窓上人、天正二年四月八日創立。

寶成寺 京妙顯寺末 米子町寺町 長瀬 惠明  
由緒沿革 久遠山と號す、開山玉泉院日實上人、慶長元年四月八日創立。初め倉吉町にあり、三百年以前當地に移轉す。大覺大僧正自作像、朗上の本尊等を藏す。

妙善寺 京妙顯寺末 米子町寺町 瀧 惠詮  
由緒沿革 開山寶樹院日受上人、慶長年中創立。

妙興寺 妙國寺末 米子町寺町 關 孝順  
由緒沿革 開基横田内膳正村政公、開山日暹上人、永祿七年三月二十八日創立。

本紹寺 京妙顯寺末 法勝寺村 遠藤 慈請  
由緒沿革 開基法勝寺殿本紹大居士、開山一乘院日覺上人。

妙春寺 鳥取感應寺末 縣村川岡 大東 惠憐  
由緒沿革 開基日眼禪尼、開山金山院日斑上人、永祿六年創立。

吉祥院 大光山末 淀江町 佐藤 良然  
由緒沿革 開基日眼禪尼、開山金山院日斑上人、永祿六年創立。

由緒沿革 開山日喜上人、承應二年七月創立。

清淨院 立本寺末 御來屋町 遠藤 幸圓 平、二八

由緒沿革 開山日眞上人、永正十四年五月創立。

淨蓮院 鳥取感應寺末 崎津村大崎 那須 孝俊 平、等外

由緒沿革 當寺はもと岡山市東田町蓮昌寺末なりしも大正元年十月五日現本山に轉換す。

▲東伯郡

學仙寺 大光山末 倉吉町新町 坂本 惠大 紫、一七

由緒沿革 妙照山と號す、開山玉泉院日實上人、天正七己卯年創立、寶曆九年秋類焼し、同十年再建す。本堂、庫裡等寺觀具備し、現住經營に努力す。

法輪寺 鳥取感應寺末 八橋町八橋 石指 惠仙 紫、二三

由緒沿革 開山一如院日重上人、慶長二年創立。

實相寺 京妙顯寺末 橋津村 安達 惠宏 紫、二〇

由緒沿革 眞如山と號す、開基市川氏、開山淳警院日堯上人、享保十年創立、當寺は明治四年廢寺となりしも同十五年六月十四日復興す。開山一二院日堯上人、中興二世義休院日陣上人、再中興三世慈善院日明上人にして十一世日淳上人は當山の經營に力を注げり。初め會見郡一部村にあり、享保十三年當所住人市川七郎右衛門氏深く本宗を信じ、中興二世等と相謀り、自ら不動産を寄せて現地に移轉再興す。明治五年廢佛毀釋の厄あり

●熊本縣

▲熊本市

蓮政寺 熊本本妙寺末、小末四 手取 佐藤 玄靜 紫、一七

由緒沿革 妙光山と號す、開山佛乘院日清上人、慶長三年、加藤喜左衛門清重氏、菩提のため建立す。三世本住院日選上人は本寺三世高麗造師と談合し、選上は本寺に逢上は當山に閑居す。肥後國細川侯就封の砌爲めに兩上に御土産知行として、各一百石を寄す。爾來本寺との關係深し。十一世止靜院日觀上人の時永聖跡となり、十六世本孝院日深上人の安政六年二月本堂庫裡等を再建し、明治十年兵燹に罹り、同二十一年十九世禪妙院日勇上人(本寺三世)現本堂を再建す。熊本城は附近にあり。

長延寺 熊本本妙寺末 東外坪井町 松田 惠德 平、一九

由緒沿革 久成山と號す、開基通念院日解上人、開山日行人、寛永十年十一月創立、明治十三年廿三世謙光院日慶上人再興し寺運昌くなり。

妙體寺 熊本蓮政寺末 妙體寺町 馬場 本壽 平、一五

由緒沿革 開山會應院日覺上人、承應二年創立。

東光寺 熊本蓮政寺末 東子飼町 岩見 不染 平、二〇

由緒沿革 開山日選上人、承應元年九月創立。

日蓮宗寺院 ●熊本縣 ●熊本市 ●飽託郡

一時廢寺となりしも、同十四年、九代市川氏祖先の遺志を嗣て十世日明上人と協力再興し、以て今日に到れり。附近に馬山公園、日本海、東郷湖等あり。

慈雲院 頂妙寺末 南谷村安歩 瀧本 慈精 平、二四

本行寺 熊本蓮政寺末 千反町 今村 義禪 平、二〇

由緒沿革 開山日利上人、元和元年八月創立。

法蓮寺 熊本蓮政寺末 松原町 庄林 英皚 平、一七

由緒沿革 妙喜山と號す、初め天台に屬す。寛永五年九月本寺三世日選上人再興す、依て開山とす(或は圓行院日性上人を開山と云ふ)。明治十年兵火に罹り、前住本警院日照上人再興せり。清正公を祀り、市の公園に近し。

妙乘寺 熊本妙立寺末 慶徳堀町 平、二〇

由緒沿革 開山日登上人、寛文三年創立。

眞淨寺 京妙顯寺末 北新坪井町 高濱 義遵 紫、一九

由緒沿革 開基細川忠利公、開山要善院日富上人、寛永二年十一月創立。

▲飽託郡

本妙寺 大光山末、中末四七 花園村 金崎 惠厚 緋、三

由緒沿革 發星山と號す、開山本國寺日眞上人、開基加藤清正公。公深く法華經を信じ、天正十三年、開山の爲めに難波に一字を創す。後、肥後に封ぜらるゝや上人を請じて城下三の丸に道場を建つ。慶長五年十月十四日、難波の本妙寺を此地に移し、法性山本妙寺と名く。現山號は開山の祥星の池中に映ずる靈夢に依て名くる所なり。同十一年紫衣を勅許せられ、同十六年當山を二世日曉に譲り妙永寺に閑居して専ら開基母堂聖林院殿

の追福を事とす。同年開基覺し、副子忠廣公、其靈を城西中尾山腹に營み、次之當山を該所に移す。現堂宇は明治十年兵燹後の再建に成るもの、寺寶に宗祖本尊、開基最初の靈像及同甲冑を藏し、法鼓鑿々賽者止む事なし。

**東光院** 熊本本妙寺末、小末一 花園村 塚本 啓達

由緒沿革 開山日俊上人、元和二年四月創立。

**仙乘院** 熊本本妙寺末 花園村 鹽田 惠運

由緒沿革 開山日輝上人、天正三年三月創立。

**龍淵院** 熊本本妙寺末 花園村 山口 辨淨

由緒沿革 開山日通上人、元和三年六月創立。

**智運院** 熊本本妙寺末 花園村 山田 義導

由緒沿革 開山日意上人、元和五年四月創立。

**常住院** 熊本本妙寺末 花園村 水上 義啓

由緒沿革 元和三年四月創立。

**靜明院** 熊本本妙寺末 花園村 落水 泰忍

由緒沿革 開山日領上人、慶長十九年六月創立。

**妙心院** 熊本本妙寺末 花園村 八尋 惠昭

由緒沿革 開山日陽上人、元和二年六月創立。

**延壽院** 熊本本妙寺末 花園村 山中 貞信

由緒沿革 開山日純上人、元和中創立。

**本地院** 熊本本妙寺末 花園村 小淵 本光

由緒沿革 開山日慶上人、萬治元年十月創立。

**雲晴院** 熊本本妙寺末 花園村 平川 光顯

由緒沿革 開山日道上人、寛永三年九月創立。

**正善院** 熊本本妙寺末 花園村 兼八尋 惠昭

由緒沿革 開山日助上人、寛永二年四月創立。

**堯心院** 熊本本妙寺末 花園村 江淵 啓勇

由緒沿革 開山觀行坊、元和三年五月創立。

**妙教寺** 熊本本妙寺末 池田村 小出 泰山

由緒沿革 開山日勝上人、天正十六年創立。

**本光寺** 熊本本妙寺末 黒髮村 西都 戒光

由緒沿革 開山日眞上人、承應元年四月創立。

**正立寺** 池上末 横手村 岩永 義騰

由緒沿革 開山日禪上人、寛文二年四月創立。

**長國寺** 熊本本妙寺末、小末一 横手村 佐藤 義晃

由緒沿革 開山日助上人、慶長十一年五月創立。

**瑞光寺** 熊本本妙寺末 横手村 馬渡 辨邊

由緒沿革 開山日如上人、萬治二年十月創立。

**妙立寺** 熊本本妙寺末、小末二 横手村 渡邊 圓諦

由緒沿革 開山日純上人、元和中創立。

**常清寺** 熊本本妙寺末 川尻町 岩永 泰玉

由緒沿革 開山日及上人、正保二年三月創立。

**本立寺** 熊本本妙寺末 川尻町 坂崎 諦道

由緒沿革 開山日潤上人、延寶三年四月創立。

▲玉名郡

**妙法寺** 熊本本妙寺末 高瀬町 高瀬 鹽田 義守

由緒沿革 開山行學院日政上人、文明十六年三月。

**妙性寺** 熊本本妙寺末 彌富村 中 森 顯禎

由緒沿革 開山日養上人、寛永十一年正月創立。

**東陽寺** 熊本本妙寺末 春富村 上和仁 柿原 惠健

由緒沿革 南關山と號す、開山日芳上人、元祿五年五月創立。

**妙福寺** 熊本本妙寺末 南關町 兼柿原 惠健

由緒沿革 南關山と號す、明治卅八年以來、東陽寺住職柿原惠健之を經營せり。

▲鹿本郡

**圓頓寺** 熊本本妙寺末 山鹿町 山鹿 北村 本雄

由緒沿革 開山日受上人。

▲菊池郡

**法宣寺** 熊本本妙寺末 川尻町 廣川 圓定

由緒沿革 開基藤井六彌太、開山日眞上人、慶長五年創立。

日蓮宗寺院 ●熊本縣 ●玉名郡 ●鹿本郡 ●菊池郡

妙蓮寺

熊本本妙寺末  
平、一九

隈府町

馬場

慈觀

興福寺

熊本本妙寺末  
平、二六

迫間村大平

秋永

智光

廣濟寺

熊本本妙寺末  
平、一九

大津町

由緒沿革 開山日圓上人、天和元年五月三日創立。

▲阿蘇郡

淨信寺

熊本本妙寺末  
平、二〇

内牧町

叶

啓淨

由緒沿革 了覺山と號す、開基加藤右馬允可重公、法號了覺院殿淨信日敬尊儀、開山成就院日玄上人、慶長十一年八月廿八日創立。附近に内牧温泉及開基の墳墓あり、阿蘇神社に二里、阿蘇山に三里。

妙宣寺

熊本本妙寺末  
平、二五

白水村吉田

磯野

本精

妙遷寺

熊本本妙寺末  
平、二五

野尻村尾下

妙光寺

熊本本妙寺末  
平、等外

波野村小園

石川

辨淨

▲上益城郡

玉祥寺

佐賀觀照院末  
平、二三

白旗村早川

東

心敬

由緒沿革 玉登山と號す、開山日等上人。

正福寺

熊本本妙寺末  
平、一七

濱町村下馬尾

金井

俊淨

由緒沿革 開山日明上人、天和二年九月創立。

▲下益城郡

中正院

熊本長國寺末  
平、二六

隈庄町

松尾

守道

由緒沿革 妙法山と號す、開基加藤清正公、開山中正院日龜上人、創立慶長五年。附近に名所多く、風光佳なり。

圓立寺

熊本本妙寺末  
平、二八

小川町上荳

松尾

泰隆

由緒沿革 開山日德上人、明曆元年二月創立。

▲宇土郡

法華寺

身延末  
素、二五

宇土町

上村

智覺

由緒沿革 開山日收上人、寛永二年四月創立。

壽量寺

熊本本妙寺末  
平、二五

宇土町

星野

惺光

由緒沿革 開山日請上人、文祿二年八月創立。

▲八代郡

本成寺

熊本本妙寺末  
素、一五

八代町

木ノ田義忠

由緒沿革 開山日領上人、慶長十二年創立。

淨信寺

熊本本妙寺末  
平、二二

八代町

山野

貫英

由緒沿革 開山日近上人、元和三年六月廿四日創立。

宗覺寺

熊本本妙寺末  
平、二二

宮地村

谷本

義純

由緒沿革 開山日領上人、慶長十二年創立。

▲球磨郡

林鹿寺

熊本本妙寺末  
平、二三

人吉町麓町

安永

辨明

由緒沿革 明治十二年十一月創立。

延壽院

和歌山正住寺末  
平、二〇

多良木村  
中村

松本

勇猛

由緒沿革 當寺はもと和歌山縣にあり、明治三十二年七月現地に移轉す。同卅六年現住法灯を挑げてより大に寺門の經營に力を注ぎ、寺運興隆す。

榮立寺

靜岡本成寺末  
平、二四

湯前村

村井

信行

由緒沿革 開山善住坊日授、天正元年創立。もと駿河國富士郡沼久保村にあり、明治三十三年十月十九日現地に移轉す。

▲葦北郡

寶照寺

熊本本妙寺末  
平、二六

佐敷町花岡

梶原

清勇

由緒沿革 天長山と號す、開基加藤大和守重次公、主君清正公菩提のため蓮光院日眞(或は日也)上人を開山として、慶長十七年創立す。後廢絶せしを貞亨年中甚明院日涼居士再興す。寺寶に十一面觀音、毘沙門天、不動尊及運慶作と傳ふる仁王尊等あり。

●長崎縣 第一部 (東部)

▲長崎市

本蓮寺

大光山末、中末三

西上町 渡邊 日蓮

由緒沿革 開基徳川秀忠公、開山本瑞院日慧上人、元和六年五月創立。開山の當山を開くや、開基は西阪の傍なる切支丹寺跡(現地)を上人に屬し、特に四段九畝十九歩の地及白銀五十兩を寄せ、三代將軍更に八段二畝二十九歩の地を附す。元祿十一年四月二十三日類焼の厄あり、同十五年九世心是院日隨上人再建し、明治三十一年春慈航院日達上人三たび寺觀を新にして愈々宗風を揚ぐ。

長照寺

長崎本蓮寺末、小末三

伊良林 淺井 圓淳

由緒沿革 光榮山と號す、開基本瑞院日慧上人、開山本通院日與上人、寛永八年創立。

誠孝院

長崎本經寺末

大浦町 松尾 辨我

由緒沿革 開基金澤喜兵衛、開山善長院日建上人、寛保三年六月創立。

▲佐世保市

延壽寺

身延末

太田町 兼柴田 嶺秀

由緒沿革 身延別院と號す、もと山梨縣南巨摩郡硯島村にあり、

由緒沿革 福聚山と號す、もと靜岡縣富士郡岩松村岩本にあり、地は開山六老日持上人の舊趾たり、天文年間(又は文永年中)創立す。明治三十五年七月五日焼失、依て同四十一年三月六日、現住現地に移轉再興し、桑原法經開基檀越となる。

▲南高來郡

正妙寺

長崎本蓮寺末

口ノ津村 西林 玄覺

由緒沿革 明治四十五年四月本堂、庫裡、位牌堂新築落成す。

光傳寺

光勝寺末、中末二

島原村 池田 辨禪

由緒沿革 松島山と號す、開基松倉豐後守公、開山日德上人、元和二年創立。

護國寺

熊本本妙寺末

島原村上原 岩永 泰成

由緒沿革 長久山と號す、開基高力攝津守内室光明院殿、開山本寺三世本行院日遙上人(所謂高麗達師)、慶安四年創立。享保七年領主松平忠祝公、靈夢に感じ、米屋市兵衛を召して番神堂を建立せしめ、京師の佛工をして一人一體に三十番神像を彫刻せしめ、國祿七萬石を標して法華經の小軸七萬部と共に當山に納めらる。彫刻の妙神に迫り、詣者絶えず。九州松島の稱ある島原湊の九十九島の絶景は寺より八丁にして達す。

永昌寺

長崎護國寺末

東有家村 末吉 元良

由緒沿革 妙法華山と號す、寛永年間、切支丹一揆平定の後、高力攝津守島原より來り領するや、異教防遏民心慰撫の爲め、領

日蓮宗寺院 ●長崎縣第一部 ●南高來郡

妙勤坊と稱し、開山妙勤坊、慶安四年創立、明治四十四年六月廿八日當市赤松免松永原に移轉し蓮經寺と改稱す。後大正二年五月身延法主日慧上人現住を特派し經營せしめ(兼住許可大正四、一、二二)、大正四年七月六日市内四教會所を合せ現地に轉じ、更に延壽寺と改稱す。依て日慧上人を再興開山とす。寺寶に宗祖本尊、同靈像(日慧上人讓與)、宗祖御眞蹟斷片(甲州妙了寺加茂顯透上人寄附)、日與上人本尊等を藏す。寺は鎮守府及軍港を望み、市の中央や、高燥の地にあり。

▲西彼杵郡

妙光寺

中山末、中末三

上長崎村中 楠本 雲俊

圓成寺

長崎長照寺末

茂木村 加藤 雲通

久本寺

長崎長照寺末

神浦村 若杉 雲陽

得城寺

國前寺末

神浦村江川郷 大橋 勉識

由緒沿革 圓教山と號す、もと千葉縣香取郡常盤村南玉造にあり、初め元和元年七月日進上人其地に草庵を結び、同四年遂に一字を創立し日音上人を開山とす。後嘉永三年九月本堂庫裡を修理し、明治十二年三月廿六日火災に遇うて復振はず、依て同四十二年八月現地に移轉再興す。

眞乘院

實相寺末

蚊燒村蚊燒 松田 智徳

内三十三ヶ村に卅三ヶ所の觀音堂を創立す。その所屬は曹洞宗たり。後延享年間、信士松島長池の兩氏、時貨二貫目を以て該堂宇を購ひ、本宗勸請に改む。これ當山の前身にして當時圓通庵と稱せり。明治十五年杉本慈教上人寺號に改稱し爾來寺運隆昌なり。附近に温泉山(公園)、有明海不知火あり。

一妙寺

長崎光傳寺末

小濱村本村 森下 日誠

日誠寺

長崎光傳寺末

南串山村 森下 龍盛

妙福寺

千葉妙宣寺末

南串山村 井上 龍淵

妙法寺

京妙顯寺末

布津村飯野 吉岡 惠秀

由緒沿革 一乘山と號す、明治十八年開基野口龍三郎の發願により、肥後本妙寺卅二世一心院日觀上人開山と成りて、新寺建立せしもの。

徳性寺

正法寺末

山田村燒森 馬場 通正

廣宣寺

千葉妙光寺末

南有馬村浦 酒井 專敬

由緒沿革 有馬山と號す、開山日祐上人、もと千葉縣香取郡多



日蓮宗寺院 ●長崎縣第一部 ●北松浦郡 ●南松浦郡 ●壹岐郡 ●下縣郡

四〇〇

古町にありて合法山と稱せしもの、明治四十二年五月六日現地に移轉し有馬山と改む。寺寶に印度鑄造の寶石莊嚴なる釋尊銅像、總長一尺三寸を安置す。附近に有明灣浦田港等あり。

▲北松浦郡

妙照寺 長崎長照寺末 中津良村提免 堀尾 雲蓋  
平、二〇

由緒沿革 慧日山と號す、嘉永二三年の頃、本化の宗徒、萬助なるもの此地に來り偶々地人甚之助なるもの、息の病を癒してより、村民法華に歸するもの多く、明治七年長照寺教會所を創め、後八木日法師を経て明治十一年山本辨玉師來り、遂に明治十六年寺號公稱す。依て同師を開山とす。寺は平戸島の南西にありて風光佳なり。

本立寺 長崎本蓮寺末 小佐々村田 志水 要秀  
素、一六 原免

由緒沿革 開山日敬上人、延享二年四月創立。

本興寺 京妙覺寺末 大野村田中 福山 智英  
素、一五

由緒沿革 もと石川縣能登國鹿島郡西澳村にあり、明治三十二年八月十日現地に轉す。

玄祥院 京妙傳寺末 生月村生月 高野 惠山  
平、二〇

由緒沿革 もと本山塔中にあり、明治三十二年中現地に移轉す。

圓徳寺 大光山末 鹿野村深江免 金崎 學辨  
平、二三 片淵

由緒沿革 寶生山と號す、開山究竟院日禎上人、元和三年創立。

●長崎縣 第二部 (西部)

▲西彼杵郡

妙經寺 長崎本經寺末 龜岳村下岳 加藤 惠能  
緋、一〇

由緒沿革 法輪山と號す、開山常隆院日迢上人、寛永元年大村藩主純信公代に創立す。始め廣林山と呼び、後今の山號に改む。寺領十六石を寄せらる。附近に日本三瀬の内、伊の浦瀬戸あり、風光頗る佳。

寶相寺 長崎本經寺末 瀬川村川内 梶原 辨曉  
緋、一〇

由緒沿革 不滅山と號す、開基大村彦右衛門、開山日貞上人、萬治元年九月創立。

自證寺 長崎本經寺末 村松村戸根 今村 文雅  
緋、一〇

由緒沿革 本住山と號す、開基大村公臣淺田左門、開山十如院日圓上人、萬治元年創立。

法妙寺 長崎本經寺末 長與村齋藤 丹羽 智靜  
緋、一〇

由緒沿革 長昌山と號す、開基大村丹後守、開山日忠上人、寛永四年創立。

遠照院 京妙傳寺末 面高村本郷 藤本 智順  
紫、二一

由緒沿革 開山蓮光院日立上人、慶長元年創立。もと京都市上京區北門前町にあり、明治二十八年現地に移轉再興す。

日蓮宗寺院 ●長崎縣第二部 ●西彼杵郡 ●東彼杵郡

もと新潟縣佐渡郡相川町下寺町にあり、明治三十四年中現地に移る。

妙覺寺 福岡本興寺末 神浦村鬼坂  
素、二二

長遠寺 身延末 津吉村古田中 八木 照遠  
平、二四

由緒沿革 開山肝心房日行上人、天明二年六月創立。もと甲斐國南巨摩郡本建村にあり、肝心坊と稱せしを大正二年十二月現地に移轉改稱す。

▲南松浦郡

慶林寺 本覺寺末 有川村濱郷 増田 智融  
平、二〇

由緒沿革 有川山と號す、初め靜岡縣安部郡豊田村池田にあり、明治卅一年十二月現地に移轉す、附近風景最も佳なり。

▲壹岐郡

霜田寺 福岡妙乘寺末 渡良村東 三富 是眞  
平、二一

由緒沿革 もと福岡縣筑前國嘉麻郡(現嘉穂郡)笠松村餘田にあり、明治二十六年現地に移轉す。

▲下縣郡

國昌寺 京妙覺寺末 嚴原町大手橋 杉原 慈觀  
平、二一

由緒沿革 開山妙覺寺大黒日典上人、元祿二年創立。もと田淵町字丸山にあり、明治三十六年現地に轉す。

▲東彼杵郡

本經寺 大光山末、中末九 西大村古 祖父江亮精  
緋、一〇 町

由緒沿革 萬歳山と號す、開基舊領主大村丹後守藤原喜前公、開山法性院日眞上人、慶長七壬寅年創立、天正年間耶蘇教徒蜂起して神社佛閣を燒棄し、勢盛なり。開基乃ち家臣千々石清左衛門を呂宋、馬尼刺に遣し、該教の真相を窮めしめ、遂に領内に禁教し、宗門に歸依して加藤清正公に謀り、開山を肥後より迎へて當山を建立すと云ふ。寺寶に宗祖本尊、同御眞筆等を藏し、寺内に大村家及舊臣の廟所あり。

妙法寺 長崎本經寺末 彼杵村三根 湯川 泰雅  
緋、一〇

由緒沿革 番守山と號す、開基大村丹後守純信公、開山聖林院日忠上人、寛永四年十一月十四日創立。後靈鷲院日審上人、當山に掛錫する事一年有餘、開基深く上人に歸依し、當山の絶頂に三十番神を勧請し武運長久を祈ると云ふ。寺寶に宗祖御本尊を藏し、寺は虚空藏ヶ岳を負ひ大村灣に臨み風光明眉なり。

常在寺 長崎本經寺末 川棚村中組 清水 麗昇  
緋、一〇

由緒沿革 要法山と號す、開基大村純長公、開山性善院日清上人、元祿十年創立。現本堂は明治四十年の頃、本應院日通上人再建す。新谷郷より大村灣を望む、風光絶佳曾て有栖川宮殿下の賞覽せられたる所なり。

妙宣寺 長崎本經寺末 福重村矢上 小佐々惠照  
緋、一〇

由緒沿革 深重山と號す、開基大村喜前公、開山仙乘院日順上人、慶長七年三月二十五日創立。開山は文祿元年、清正公に従て朝鮮に従軍布教し、後開基の請に依て當國に邪法を退治し妙法を弘通す。

**本地寺** 長崎本經寺末 千綿村江ノ串 鎌田 麗嶽

由緒沿革 壽量山と號す、開基兒玉久左衛門、開山本地院日選上人、寛永十八年二月創立。

▲北高來郡

**本清寺** 長崎本經寺末 北諫早村下 宇宙 龍轟  
素、二四 本明

由緒沿革 法華山と號す、開山本寺歴代天眞院日壽上人、明治十三年創立。高城神社、眼鏡橋附近にあり。

◎大分縣

▲大分市

**本光寺** 本法寺末 寺町 野原 日亮  
紫、一八

由緒沿革 瑞相山と號す、開山福壽院日賢上人、永祿七年大友義統公の請に依つて創立す。明治三年十月十二日、鎮守堂、鐘堂の外、悉く焼失し、同廿六年、二十世慶禮院日讓上人の時、本堂を再建す。寺寶に重乾遠三師の本尊等を藏し、高峰山、由布山(豐後富士) 鶴見山等一眸の下に鍾る。

**常妙寺** 頂妙寺末 寺町 高橋 惠京  
紫、一九

由緒沿革 本宮山と號す、開山權大僧都日諱上人、享祿二己丑年城主開山をして天満宮の邊に建立せしめたるを當山とす。

▲大分郡

**法心寺** 大光山末、中末一〇 鶴崎町鶴 高岡 日虔  
緋、一〇

由緒沿革 雲鶴山と號す、開基肥後の大守加藤主計頭清正公、征韓の役に際し、開山常林院日榮上人從軍し、役終りて歸朝するや、慶長六辛丑年二月、開基の鶴崎總監加藤平左衛門尉淨春公に命じて創立せられたるを當山とす。現今の本堂は創立以來享保五庚子年十一月、天保元己丑年正月修補し、嘉永七甲寅年十一月、震災のため大修繕を加へ、明治四十四年四月再築せるもの。寺寶に生御影の清正公像を奉祀し、山門には雲慶作二王

日蓮宗寺院 ◎大分縣 ◎大分市 ◎大分郡

尊あり、境内には開基手植の銀杏及鬼將梅、往時を語り、鶴崎公園、行儀松の林、皆附近とす。

**常照庵** 鶴崎法心寺末 鶴崎町鶴崎 甲斐 一要  
平、等外

**親蓮寺** 本法寺末 植田村木上 埴谷 詮諒  
緋、一五

由緒沿革 開基大友家九代修理大夫親世公室一乘院妙教日壽大姊、開山日親上人、正長元年十月十二日創立。

**妙瑞寺** 本法寺末 植田村宗方 甲斐 學明  
平、二八

由緒沿革 開山支通院日允上人、元祿年中創立。

**妙見庵** 鶴崎法心寺末 竹中村冬田 杉本 智正  
平、二六

**神力寺** 鶴崎法心寺末 竹中村冬田  
素、二二

由緒沿革 開基善寂坊日修、開山守支院日達上人、寛文二年五月八日創立。

**法護寺** 鶴崎法心寺末 野津原村野 掛橋 泰眞  
紫、二二

由緒沿革 開山守支院日達上人、寛文四年五月十日創立。

**一乘寺** 鶴崎法心寺末 高田村鶴瀬  
紫、二六

由緒沿革 開基長野伊兵衛、開山守支院日達上人、寛文二年四月二十八日創立。

**常仙寺** 鶴崎法心寺末 高田村常行 原 智旭  
紫、一九

由緒沿革 開基藤原行長公、開山學泉院日泰上人、寛文九年十

日蓮宗寺院 ①大分縣 ②速見郡 ③南海部郡 ④北海道郡  
月十五日創立。

▲速見郡

延隆寺

身延末  
素、二一

立石町立石 河野 智文

由緒沿革 開基木下右京公室、開山法音院日養上人、承應三年五月十五日創立。

妙經寺

大光山末、中末一  
緋、二〇

杵築町 釋 泰如

由緒沿革 開基松平大隅守公、開山眞淨院日純上人、慶長十二年四月二十八日創立。

妙光寺

頂妙寺末  
素、二四

日出町堀 石橋 智鑑

由緒沿革 圓明山と號す、開基木下瑞慶院殿俊忠公及恆川十左衛門、開山正住院日立上人、慶長六年四月八日創立。寺寶に宗祖念珠を藏す。

本光寺

藤原寺末  
平、二五

別府町別府 岩津 照哲

由緒沿革 慈照山と號す、開山本山五世日悟上人、應永廿一年九月二日創立、初め千葉縣長生郡關村北高根にあり、大正二年五月十六日現地に轉す。附近に山水園あり。

▲南海部郡

久成寺

大光山末  
緋、一四

佐伯町 江島 智圓

由緒沿革 碧松山と號す、開基大賀宗味、開山壽遠院日普上人、正保元年、熊本本妙寺より來り開創す。享保二年、七間に六間

蓮華寺

鶴崎法心寺末  
平、二九

川添村種具 水田 泰靜

由緒沿革 開山守玄院日達上人、承應二年二月十六日創立。

大乘庵

鶴崎法心寺末  
平、等外

川添村迫

▲大野郡

親敬寺

大光山末  
紫、二三

東大野村杉園 原 智溫

由緒沿革 開山妙心院日完上人。

圓乘院

大光山末  
平、二七

東大野村屋原 首藤 貞敬

久成寺

大分妙經寺末  
平、二六

犬飼町下津尾 姫野 泰運

由緒沿革 開山道花院日經上人、元祿八年四月八日創立。もと縣下速見郡東村猪尾にあり、後明治四十年七月現地に移る。

蓮光寺

身延末  
平、二七

小野市村木浦 鑛山

由緒沿革 明治二十六年八月十三日同祿の災あり舊記を失す。

心行院

大光山末  
平、二五

野津市村都原 龜山 智辨

由緒沿革 開山日範上人、文祿二年八月創立にして、もと京都市下京區柿本町にあり、明治三十年現地に移轉す。

▲下毛郡

大法寺

京妙顯寺末、中末一  
紫、一五

中津町 太田 誠鑑

由緒沿革 眞淨山と號す、開基紙屋傳右衛門、開山大法院日周

日蓮宗寺院 ①大分縣 ②大野郡 ③下毛郡 ④日田郡 ⑤玖珠郡

の本堂建立しそのまゝ今日に到る。開山の勸請せる碧松明神を鎮守として祀る。附近に佐伯公園あり。

本行坊

靜岡滿勝寺末  
平、二六

東上浦村蒲戸 上木 龍堅

由緒沿革 開山本寺吉良山九世行法院日宥上人、寛永三年六月本寺塔中に創立す、後明治三十四年七月現地に移轉す。

▲北海道郡

是相寺

鶴崎法心寺末  
素、二五

大在村政所 正木 泰山

由緒沿革 開山守玄院日達上人、萬治三年三月二十八日創立。

法音寺

頂妙寺末  
緋、一三

白杵町二王座 足立 日瑩

由緒沿革 竹林山と號す、開基稻葉能登守信通公、開山瑞祥院日行上人(大分常妙寺開山權大僧都日諦上人の資)、慶長七年開基、臣中島正治に命じて創立せしむ。當時、境内叢竹あり依て山に銘し、誦經絶えず故に寺に號す。寛永十八年三月、開基の夫人光淨院殿一月日性大姉逝去し、その靈牌を當山に納めて香華寺となり、新に殿堂を經營し同二十癸未年寺領五十石を寄す。寛文五年三世日恕權律師新に鐘樓を建て梵鐘を鑄る、銘は元政上人の作に係る。元祿十一年、七世日義上人二天樓門を建て、鐘樓とす。竹林山の額字は正二位内大臣花山院正誠公の筆に成る。明和二年類焼し、文化年間日關日圓兩上庫裡を再築し、圓上亦二天門を經營し、天保三年日經上人の代に成功す。嘉永元年十七世日靜上人の時、藩主觀通公の本願に依つて本堂を再築し、爾來寺運隆昌にして教光愈々輝く。

秋月寺

大分大法寺末  
素、二〇

小楠村大新田 奥ノ 智然

▲日田郡

妙法寺

大分法心寺末  
紫、二〇

三芳村田島 水田 泰溫

由緒沿革 開山唯信院日厚上人、明治十二年九月十五日創立。

▲玖珠郡

成覺寺

大光山末  
平、二五

森町森 小野 徳山

●佐賀縣

▲佐賀市

觀照院 中山末、中末一七 高木町 松村 韻抽

由緒沿革 中道山と號す、開基日正導師、開山日傳上人、應永年中創立。

本行寺 中山末、中末二 西田代町 松野 聚德

由緒沿革 常住山と號す、開基龍造寺胤家公(常住院殿本行日圓大神祇)、開山行學院日政上人、永正十五戊寅年十月八日創立。應永年中小城郡三ヶ月村久米ヶ里にあり、後現地に移轉再興す。寺寶に宗祖尊像、天台大師像、傳教大師作毘沙門天、親師本尊等を藏し。寺内に清正公堂及成富兵庫頭茂安、江藤新平、鍋島家等の墓所あり、現住本堂庫裡を増築する等大に寺門の隆昌を圖る。附近に日峯社、縣廳、五十五聯隊等あり。

本經寺 佐賀觀照院末 材木町 高野 惠信

由緒沿革 福聚山と號す、開山壽德院日精上人。

妙覺寺 佐賀妙福寺末 岸川町 岡田 顯明

由緒沿革 竹原山と號す、開山日親上人。

賀昌院 佐賀觀照院末 與賀町 德富 聚學

由緒沿革 妙法山と號す、開基龍造寺胤久内室、開山行學院日政上人、永正十五年十月創立。

▲佐賀郡

妙福寺 本法寺末、中末三 嘉瀬村 荻野 太田尾泰郁

由緒沿革 石岡山と號す、開山久遠成院日親上人、應永三十三年創立。

淨圓寺 佐賀觀照院末 本庄村 鹿子 兼石井 智賢

由緒沿革 飯盛山と號す、開基石井忠繁公、開山日來上人、天文八年二月創立。

妙玉寺 佐賀觀照院末、小末一 本庄村 鹿子 石井 智賢

由緒沿革 大寶山と號す、開基石井新左衛門、開山法印日就上人、元龜元年十月創立。

常照院 佐賀觀照院末 本庄村 鹿子 山田 智眞

由緒沿革 妙光山と號す、開山水立院日字上人、開基千葉胤繼公副將越後守忠國公、永享元年九月創立。初め本善寺と稱す、天正八年、開基五代の孫(鍋島初代直茂公室陽泰院の父)石井兵部少輔常延公逝去す、法號を常照院と云ふ、後鍋島藩主の命に依て常照院と改む。蓋し當院元龜年中一時、當村の南方にあり、元和元年藩主鍋島勝茂公、之を現地に移轉再興して同家の祈願所准菩提寺とし寺祿六十二石を付せしによる。寺寶に如水初祖の作宗祖尊像、精薩諸師の本尊等を藏す。

昌善寺 佐賀勝妙寺末 新北村 爲重 鴨宮 英逞

由緒沿革 安靜山と號す、開基鍋島孫六郎、開山日崇上人、天和三年創立。

蓮盛寺 佐賀修善院末 鍋島村 木角 鶴 精遠

由緒沿革 福岡山と號す、開基杉町備中守、開山日釋上人。

妙常寺 佐賀觀照院末 兵庫村 淵 眞木 聚孝

由緒沿革 淵州山と號す、開基千葉助殿、開山日見上人、永正元年創立。

本通寺 佐賀觀照院末 高木瀬村 東 岸田 智勝

由緒沿革 弘法山と號す、開基千葉助平朝臣胤俊公、開山日解上人、長享元年八月十五日創立。

一祥寺 身延末 久保泉村 下和泉

由緒沿革 大富山と號す、開山日靈上人。もと神奈川縣中郡高部屋村西宮岡にあり、一乗寺と稱せしもの、後明治年中現寺號に改稱し、大正三年四月現地に移る。

▲小城郡

本山 光勝寺 十四等 岩松村 松尾 神代 智明

由緒沿革 松尾山と號し、四十四ヶ本山の一。開基九州探題千葉胤貞公、開山中山三世日祐上人、建武年中の創立たり。中山十四世久遠成院日親上人、中興して弘通盛んなり。十九世日億上人、烏丸大納言を介して、三たび、禁裡に大法を奏し、後水尾天皇は 勅願寺の御給旨、御勅額並に紫衣を賜ふ。爾來寺運

由緒沿革 安住山と號す、開基久保六良助、開山日親上人、永享八年八月八日創立。

妙誓寺 佐賀觀照院末 新北村 爲重 末永 學山

由緒沿革 寶榮山と號す、開基志岐木工之助、開山日運上人、寛永二年正月十七日創立。

本能寺 光勝寺末 久保田村 德萬 石丸 龍應

由緒沿革 乙王山と號す、開山日親上人、應永三十三年創立。

龍光寺 佐賀妙福寺末 久保田村 德萬 石丸 量山

由緒沿革 昌永山と號す、開基塚原清房公、開山日親上人、永享二年創立。

正福寺 佐賀觀照院末 神野村 大財 藤本 智常

由緒沿革 經住山と號す、開基日甚上人、開山壽德院日清上人。

泰教寺 光勝寺末 神野村 多布施 平井 智恭

由緒沿革 光長山と號す、開山日潤上人、寛永十七辰年創立、開基谷口清左衛門長光、現住明治四十五年五月本堂芝蘭庫裡を改築し、寺運隆昌なり。

國相寺 佐賀勝妙寺末 神野村 神野 古川 海學

由緒沿革 安性山と號す、開基等覺院常在律師日序上人、開山本願大僧都法印日勝上人、萬治元年二月創立。

正傳寺 佐賀妙玉寺末 大訖間村 上 靜山 聚能

日蓮宗寺院 ●佐賀縣 ●小城郡

盛んに、維新に至るまで將軍の祈願所たりき。境内本堂、鐘堂、祖師堂、客殿、大中小各書院、總門、山門、正門等寺觀備り、靈寶として宗祖祈禱本尊、開山本尊法門目安、親師本尊、同傳燈抄、微塵抄、法難記念物、歷代本尊、勅額等を藏し。紙園溫泉、清水觀音、欄岡公園等皆近し。

親成寺 佐賀光勝寺末 岩松村松尾 萩尾 圓徳

由緒沿革 松尾山と號す、開山日親上人、永享二年創立。

教仙寺 佐賀觀照院末 岩松村松尾 中島 大忍

由緒沿革 松尾山と號す、開山日親上人、文安二年創立。

親立寺 佐賀修善院末 岩松村松尾 副島 智研

由緒沿革 諸富山と號す、開基平田小十郎、開山日親上人、應永五年創立。

延命寺 佐賀修善院末 岩松村松尾 持永 惠能

由緒沿革 長照山と號す、開山日慶上人、寛永二年八月十五日創立。

延福寺 佐賀修善院末 岩松村松尾 千葉 聚禎

由緒沿革 北浦山と號す、開山日能上人、元和六年創立。

法撰寺 京妙顯寺末 岩松村岩藏 峰松 日濟

由緒沿革 一本山と號す。

妙嚴寺 佐賀勝妙寺末 小城町 玉井 智海

由緒沿革 車堂山と號す、開山日嚴上人。

常滿寺 佐賀修善院末 小城町 加藤 智道

由緒沿革 福寶山と號す、開山日親上人、慶長二年九月創立。

妙藏寺 佐賀勝妙寺末 小城町 井上 智晃

由緒沿革 長崎山と號す、開山日達上人、享保十五年八月創立。

妙教寺 佐賀觀照院末 小城町 浦田 英進

由緒沿革 開山弘徳院、元祿二年八月創立。

等覺寺 佐賀觀照院末 多久村 永井 英修

由緒沿革 皆榮山と號す、開基鴨打六左衛門、開山日傳上人、慶長四年四月創立。

寶藏寺 佐賀勝妙寺末 東多久村別府 執行 海誓

由緒沿革 長榮山と號す、開基多久修膳公、開山日軍上人、寶永七年二月創立。

本覺寺 佐賀勝妙寺末 東多久村別府 吉永 惠潮

由緒沿革 吉谷山と號す、開基吉谷周防、開山日延上人、應永二十四年十一月創立。

妙海寺 佐賀觀照院末 東多久村別府 野口 龍學

由緒沿革 浦寺山と號す、開山日傳上人、嘉吉二年十月創立。

修善院 中山末、中末一二 三日月村桑 大平 智覺

由緒沿革 長教山と號す、開山日貞上人(慶安二四九)、中山日祐上人の命により、九州に下り、松尾第一世導師たり。後年本院

を建立せらる。初め松尾山内にあり、後肥前國主鍋島直茂公内室陽泰院殿、現地四反歩を寄附して中興せらる。

泰平寺 佐賀修善院末 三日月村桑 野口 龍恭

由緒沿革 天龍山と號す、開山日報上人、元祿元年六月創立。

常圓寺 佐賀修善院末 三日月村長 梅溪 英運

由緒沿革 增長山と號す、開山日如上人。

妙遷寺 佐賀修善院末 三日月村長 野口 英立

由緒沿革 武久山と號す、開山日遷上人。

圓教寺 佐賀修善院末 三日月村長 神田

由緒沿革 長妙山と號す、開山日淨上人。

大妙寺 佐賀勝妙寺末 三日月村長 淵上 泰清

由緒沿革 妙光山と號す、開山日調上人。

勝嚴寺 佐賀勝妙寺末 三日月村樋口 大野 龍靜

由緒沿革 仙道山と號す、開山日能上人。

光旭寺 佐賀勝妙寺末 三日月村樋口 田中 龍連

由緒沿革 玉照山と號す、開基千葉胤繼公、開山大僧都日光上人、應永五年三月創立、寺寶に日親上人の本尊等を藏す。

妙長寺 佐賀觀照院末 三日月村樋口 迎 精眞

由緒沿革 紫、二〇

常滿寺 佐賀修善院末 小城町 加藤 智道

由緒沿革 福寶山と號す、開山日親上人、慶長二年九月創立。

妙藏寺 佐賀勝妙寺末 小城町 井上 智晃

由緒沿革 長崎山と號す、開山日達上人、享保十五年八月創立。

妙教寺 佐賀觀照院末 小城町 浦田 英進

由緒沿革 開山弘徳院、元祿二年八月創立。

等覺寺 佐賀觀照院末 多久村 永井 英修

由緒沿革 皆榮山と號す、開基鴨打六左衛門、開山日傳上人、慶長四年四月創立。

寶藏寺 佐賀勝妙寺末 東多久村別府 執行 海誓

由緒沿革 長榮山と號す、開基多久修膳公、開山日軍上人、寶永七年二月創立。

本覺寺 佐賀勝妙寺末 東多久村別府 吉永 惠潮

由緒沿革 吉谷山と號す、開基吉谷周防、開山日延上人、應永二十四年十一月創立。

妙海寺 佐賀觀照院末 東多久村別府 野口 龍學

由緒沿革 浦寺山と號す、開山日傳上人、嘉吉二年十月創立。

修善院 中山末、中末一二 三日月村桑 大平 智覺

由緒沿革 長教山と號す、開山日貞上人(慶安二四九)、中山日祐上人の命により、九州に下り、松尾第一世導師たり。後年本院

由緒沿革 壽永山と號す、開山日耀上人(永享五年正月五日寂)、永享年間創立。

妙顯寺 佐賀修善院末 三日月村樋口 陣内 元靜

由緒沿革 泰藤山と號す、開山日朝上人。

法音寺 光勝寺末 三日月村道邊 原田 海純

由緒沿革 正中山と號す、開基丸田徳右衛門、開山日迄上人、延寶五年十二月創立。

長榮寺 佐賀勝妙寺末 三日月村道邊 森永 正順

由緒沿革 長照山と號す、開山日揚上人。

萬部寺 佐賀勝妙寺末 三日月村道邊 舟崎 辨要

由緒沿革 等外

勝妙寺 中山末、中末一五 三日月村 平山 海量

由緒沿革 龍王山と號す、開山日嚴上人、觀應元年創立。

弘行寺 佐賀勝妙寺末 三日月村織島

由緒沿革 龍王山と號す、開山日嚴上人、觀應元年創立。

妙勝寺 光勝寺末 三日月村三ヶ島 森 智遵

由緒沿革 長池山と號す、開山日親上人、應永卅四年五月創立。

妙圓寺 佐賀勝妙寺末 三日月村金田 前田 龍存

由緒沿革 寶泉山と號す、開山日圓上人、正徳元年七月創立。

妙蓮寺 佐賀勝妙寺末 砥川村蒲原 江頭 泰林

由緒沿革 紫、二二 片岡山と號す、開山日念上人。

▲杵島郡

圓満寺

佐賀勝妙寺末 武雄町武雄 貫名 英勇  
平、一四  
由緒沿革 廣岡山と號す、開基田中安藝守朝門公、開山一乘律師日粒上人、天正五年三月開基母子のために建立。明治廿二年、現住住職以來、大に寺門の經營に努力し、教光愈々輝く。寺寶に紺紙金泥法華經十卷、重乾遠三師本尊、日朝上人分骨等あり。御船山、蓬萊山、武雄温泉に近し。

妙善寺

京妙顯寺末 山口村八丁 大平 日輝  
紫、一九  
由緒沿革 開山大弘院日澄上人、天正二年二月創立。

梅林寺

佐賀勝妙寺末 北方村大島 山中 一精  
紫、一四  
由緒沿革 光得山と號す、開山萬部日元上人とて、生涯に於て法華經一萬部を讀誦せし人とす。元和元年三月創立。

妙高寺

佐賀觀照院末 六角村東郷 靜山 聚撰  
紫、一五  
由緒沿革 一乘山と號す、開基鈴山與左兵衛、開山泰禪院日定上人、元和二年五月創立。

福正寺

佐賀修善院末 佐留志村總 久保田英健  
平、二八  
由緒沿革 妙覺山と號す、開山日延上人。

▲藤津郡

本長寺

長崎本行寺末 鹿島村高津原 辻 洪誠  
平、二二

▲西松浦郡

法元寺

光勝寺末 有田町 中野 學園  
紫、一四  
由緒沿革 光瑞山と號す、開山日億上人、元和元年四月創立。

妙顯寺

佐賀勝妙寺末 大坪村町裏 松島 正泰  
紫、九  
由緒沿革 廣宣山と號す、開山妙顯院日性上人、足利義持時代創立(或曰天文二年十月)。曾て伊萬里立町にあり、明治三十二年三月廿六世遠照院日靜上人の時現地に移轉再建す。伊萬里富士近く雄姿を顯し、遙かに伊萬里灣頭の風光を専らにし、眺望佳なり。

由緒沿革 正立山と號す、開基久保白左衛門、開山遠成院日壽上人、慶安三年一月創立。

學成院

千葉長光寺末 五町田村 吉村 泰俊  
平、二四  
由緒沿革 開基井上筑後守政清公、開山日仙上人。もと千葉縣山武郡睦岡村埴谷にあり、明治三十二年七月現地に移る。

本覺寺

佐賀本行寺末 吉田村吉田 藤井 智曉  
紫、一四  
由緒沿革 眞如山と號す、開基吉田太郎左衛門尉藏人、開山圓藏院日良上人、永正元年九月創立。

▲東松浦郡

法蓮寺

小湊末 唐津町東 藤山 英燐  
紫、一四  
由緒沿革 高城山と號す、開基日悟上人、開山日親上人、應永二十三年創立。

大乘寺

長崎本蓮寺末、小末一 唐津町 頗羅多秀音  
紫、一五  
由緒沿革 名護屋山と號す、開基加藤清正公、開山受潤院日義上人、文祿元年創立。

本立寺

佐賀大乘寺末 嚴木村天川 於保 智勵  
平、二三  
由緒沿革 妙光山と號す、開基了學院日正上人、開山本住院日圓上人、明曆二年創立。

億昌寺

光勝寺末 濱崎村濱崎 中溝 潮珖  
平、二四  
由緒沿革 昌立山と號す、開山日億上人、元和三年正月創立。

●福岡縣 第一部 (筑前組)

▲福岡市

勝立寺

京妙覺寺末、中末四

渡邊 正道

由緒沿革 正興山と號す、開基黒田長政公、開山唯心院日忠上人、創立慶長八年四月。

香正寺

小湊末、中末一

樂院町 櫻井 日乘

由緒沿革 長光山と號す、開山本山十八世可觀院日延上人は、清正公朝鮮役凱旋の際、本國に同行せる兄弟三名の貴公子の一人たり。姉は月川土佐守の室となり、兄は肥後本妙寺三世、弟は即ち開山とす。寛永十八年、藩主忠之公の内命により、郡内禪宗の廢寺を移轉改築し、舊立國山を現山號に改む。寶永五年類焼し、正徳元年再建す。現今の本堂これなり。寺寶に宗祖一通首題清正公同、及書狀、赤梅檀の四菩薩、清正公念珠、文殊菩薩の畫像等を藏す。

大通寺

京妙顯寺末

西町 石田 春暹

由緒沿革 岡徳山と號す、開基黒田長政公、開山大通院日圓上人、創立元和五年八月。

妙安寺

小湊末

浪人町 桂 日深

由緒沿革 海福山と號す、開山可觀院日延上人、創立寛永九年八月。

▲筑紫郡

法性寺

京本法寺末、中末一

千代町 松島 日靜

由緒沿革 修昌山と號す、開基目津古彦右衛門、開山久遠成院日親上人、創立正長元年五月。もと福岡市博多蓮池町にあり、明治四十四年六月現地に移る。

蓮教寺

佛現寺末

岩戸村道善 大坪 耀瑞

由緒沿革 妙法山と號す、開山日顯上人、應永三十一年創立。もと千葉縣長生郡關村北高根にあり、藻原寺末なりしも、大正六年六月現本寺に轉末し、次て現地に移る。

▲宗像郡

妙圓寺

福岡妙典寺末、小末一

福岡町 深田 義海

由緒沿革 開基庄村喜助、開山義達院日圓上人、創立明治十三年五月十二日。

妙經寺

小湊末

東鄉村田熊 高崎 隨縁

由緒沿革 最勝山と號す、開基安部日悟上人、開山本山歴世大講義山本日諦上人、創立明治十三年五月。

▲遠賀郡

日蓮宗寺院 ●福岡縣第一部 ●筑紫郡 ●宗像郡

妙法寺

京本法寺末

東唐人町 島添 智善

由緒沿革 啓運山と號す、開基黒田忠之公、開山龍玄院日應上人、創立正保二年八月。

宗玖寺

福岡法性寺末

片土居町 中村 惠能

由緒沿革 榮昌山と號す、開山本壽院日勢上人、創立元和二年三月。

妙典寺

本法寺末、中末一

博多蓮池 西村 觀誠

由緒沿革 松林山と號す、開基立花三河守、開山戒光寺日秀上人、創立慶長八年四月二十八日。

本岳寺

本法寺末

博多蓮池町 立野 良瑞

由緒沿革 西昌山と號す、開山如蓮華院日因上人、創立永正十一年三月。

本興寺

本法寺末、中末二

博多蓮池町 仰木 圓徳

由緒沿革 起雲山と號す、開基原田家臣近藤某、開山寶樹院日傳上人、創立天文十七年三月。

本長寺

本法寺末

博多蓮池町

由緒沿革 松隣山と號す、開山南樂院日授上人、創立天文二十三年七月。

▲若松市

立宣寺

身延末

修多羅 金子 讓忍

龍澤寺

小湊末、中末一

黒崎町前田 高橋 日慈

由緒沿革 市川山と號す、開基上野與市、開山本山歴世大講義山本日諦上人、創立明治十一年九月。

正賢寺

千葉淨圓寺末

折尾村永卷 瀬崎 淨觀

由緒沿革 經藏山と號す、開山山本日諦上人、天文十九庚戌年正月創立。もと千葉縣夷隅郡西畑村押沼にあり、明治三十二年現地に移る、本堂及び庫裡は大正五年十二月、現住の建つところたり。

▲鞍手郡

長遠寺

福岡勝立寺末

直方町山部 栗原 正明

由緒沿革 顯壽山と號す、開山眞如院日存上人、創立寛永十年八月。

妙運寺

福岡勝立寺末

木屋ノ瀬町 山本 惠正

由緒沿革 正乘山と號す、開山妙壽院日性上人、創立慶長十二年九月。

▲嘉穂郡

善應寺

身延末

大隈町 西島 仁精

由緒沿革 松榮山と號す、開山了運坊日惠大徳、創立延寶八年。明治廿三年七月、青山慈惠繩田四郎七等と力を協せ、唱導院日振上人を再興開基として、山梨縣南巨摩郡増穂村より移轉建立

●遠賀郡 ●鞍手郡 ●嘉穂郡

日蓮宗寺院 ◎福岡縣第一部 ◎朝倉郡 ◎糸島郡  
す。大正五年現住清正公堂を建立し、寺運隆なり。

**圓滿寺** 福岡勝立寺末 穂波村太郎丸 山崎 誠音  
由緒沿革 法輪山と號す、開山妙玄院日舜上人、創立元和元年五月。

▲朝倉郡

**妙照寺**

福岡香正寺末 甘木町 矢次 耀實  
由緒沿革 常香山と號す、開山本光院日性上人、創立慶安元年十月。

**本證寺**

本満寺末 秋月町下秋月 谷内 辨孝  
由緒沿革 福王山と號す、開基黒田長興公、開山三光院日壽上人、創立寛永七年五月。

**圓誠寺**

福岡本佛寺末 宮野村比良松 前田 辨忠  
由緒沿革 開山養善坊日給大徳、もと圓誠坊と稱し靜岡縣濱名郡和田村橋羽にあり、同地妙恩寺末たりしも、明治二十九年中現地に移り、次て現本寺に轉じ、後同三十七年十二月現寺號に改む。

▲糸島郡

**寶珠寺**

福岡本興寺末 周船寺村徳永 森 觀光  
由緒沿革 徳永山と號す、開山俊光院日遷上人（又は眞如院日旋上人）、創立寛永十三年八月（或は舊曆元乙未年八月）。

由緒沿革 開基屋山掃部守、開山南正院日堯上人、創立寛永八年。  
**法泉寺** 身延末 稻荷町 田中 英連  
由緒沿革 長勝山と號す、開山東光院日詠上人、創立天文廿二年五月廿五日。もと山梨縣中巨摩郡五明村戸田にあり、同郡鏡中條村長遠寺末なりしもの、明治三十年五月現本寺に轉末し、次て同三十一年五月現地に移る。

▲山門郡

**台照院**

大光山末、中末一 柳河町西 宮崎 耀貞  
由緒沿革 開基小埜和泉守、開山妙乘院日恕上人、創立慶長十一年四月。

**尊壽寺**

大光山末、中末二 瀬高町下 有田 暎暉  
由緒沿革 日正山と號す、開山理性院日厚上人、創立文明五年三月。

**本淨寺**

尊壽寺末 瀬高町下ノ庄 水原 自宣  
由緒沿革 西延山と號す、開山理性院日厚上人。

**本長寺**

大光山末 瀬高町上ノ庄 里見 智照  
由緒沿革 開基矢島氏日芳尼、開山唯妙院日解上人、創立元文三年四月。

**妙海寺**

大光山末 大和村中島 野田 行承  
紫、二四

日蓮宗寺院 ◎福岡縣第二部 ◎山門郡 ◎浮羽郡

◎八女郡

◎福岡縣第二部 ◎久留米市 ◎大牟田市四一四

**妙立寺**

福岡勝立寺末 怡土村高祖 長谷尾前經  
由緒沿革 如意輪山と號す、開基明石四郎兵衛、開山妙立院日芳上人、創立寛永十一年六月。

◎福岡縣 第二部 (筑後組)

▲久留米市

**妙正寺**

頂妙寺末、中末三 寺町 藤本 日照  
由緒沿革 莊嚴山と號す、開基有馬玄蕃頭豐氏公、開山十如院日舜上人、創立元和（弘？）七百年七月。開山、開基の歸依を受け、元弘年間、丹波福知山より當地に移轉再興し、爾來藩主の祈願所たり。寺寶に日朗上人土籠中自作宗祖尊像を安置し、探龍筆十六羅漢十六軸等を藏す。

**妙善寺**

頂妙寺末 寺町 津田 辨正  
由緒沿革 開基有馬玄蕃頭豐氏公、開山佛行院日信上人、創立元和九壬申年八月。

**寂光寺**

福岡妙正寺末 開山究竟院日清上人、創立正保三年五月。  
由緒沿革 開山山末 素、一八

▲大牟田市

**南正寺**

中山末 稻荷町 吉持 泰進  
由緒沿革 開山前田日穩上人、創立明治七甲戌年八月。

▲浮羽郡

**本佛寺**

身延末、中末一 浮羽村流川 淺利 前嘉  
由緒沿革 鎮西身延山と號す、開基二世唱導院日振上人、開山身延日鑑上人、創立明治十三年一月二十九日。五世體精院日誓（佐野前勳）上人中興たり。宗祖御靈骨を奉安す。

▲八女郡

**福王寺**

頂妙寺末 古川村溝口 藤井 智猷  
由緒沿革 長壽山と號す、開基蒲池秋廣、文祿年中創立。開山常圓院日源上人は越前の人、遠く化を西海の邊陲に垂れ、大に宗風を發揚すると共に矢部川の清流、製紙に適するを見、郷里より兄弟を招致し、自ら技を教へ業を授け、斯業に盡瘁して九州製紙今日の盛大を致さしむ。今より二十年前、銅像を建立して其の偉勳を萬歳に傳ふ。碑文「九州製紙開祖日源上人之碑」の文字は榎本武揚子爵の揮毫とす。附近に船小屋の温泉、元吉清水寺等あり。

**大善坊**

尊壽寺末 笠原村鹿子尾 松本 良修  
由緒沿革 妙光山と號し、初め遠州長上郡橋羽妙恩寺末（開山養善坊日給）にして同寺塔中たり。現住舎兄彌市、伯父彌七等と胥謀り、流川本佛寺日振上人を屈請して開山とし、明治廿九年六月自ら開基となつて現地に移轉建立す。寺寶に審師本尊を藏す。



▲三池郡

法華寺

中山末 紫、二三

銀水村橋 石田 孝音

由緒沿革 妙蓮山と號す、開山妙五院日利上人創立。

▲三嶺郡

瑞泉院

頂妙寺末 平、二四

蒲池村金納 田中 潮勇

由緒沿革 當院は明治二十七年四月京都頂妙寺内より移轉せしものとす。

大道庵

福岡台照院末 平、三〇

久間田村間

由緒沿革 開山大道庵日悟上人、創立寛永十七年。

常清寺

福岡妙正寺末 平、二〇

大川町酒見 水上 泰山

由緒沿革 開基隈井助左衛門尉正廣公、開山妙乘院日授上人、創立寛文六年二月。

◎福岡縣 第三部 (豊前組)

▲小倉市

立法寺

小湊末 紫、一五

鑄物師町 矢野 日光

由緒沿革 安正山と號す、開基松平筑前守、開山蓮生院日法上人、創立天正十八年。

▲企救郡

本顯寺

大光山末 紫、二〇

曾根村吉田

由緒沿革 妙覺山と號す、開山清淨院日授上人、創立明曆二年。

妙眞寺

京妙顯寺末 平、二〇

西谷村徳吉 水上 普泰

由緒沿革 徳光山と號す、當地もと徳光と稱せしによる。開基宮本氏、開山清淨院日授上人、創立貞亨三年。

▲京都郡

普門寺

小倉妙乘寺末 平、二七

行橋町大橋 木村 圓具

由緒沿革 法照山と號す、開基村田吉造、開山泰良院日慈上人、創立明治十一年十月。

本立寺

大光山末 平、二二

豊津町丸山 松尾 周慶

由緒沿革 成道山と號す、開基小笠原忠貞公、開山究竟院日禎上人、創立寛永九年。もと縣下企救郡西鍛冶町にあり、明治二十年三月現地に移る。

▲築上郡

實成寺

大光山末 素、二一

椎田町湊 木庭 啓義

由緒沿革 創立明治十三年五月四日。

眞淨寺

京妙顯寺末 紫、一五

大阪町

由緒沿革 大法山と號す、開山大法院日周上人、創立天正十八年五月。

本就寺

立本寺末 紫、一六

米町 秋吉 龍靜

由緒沿革 長喜山と號す、開基毛利壹岐守成儀公、開山顯龍院日祐上人、創立慶長五年三月朔日。

妙法寺

身延末 紫、一五

米町 延本 敏雄

由緒沿革 弘宣山と號す、開山蓮光院日等上人、創立享保十年正月二日(慶長三年五月)火災に罹る。

妙乘寺

本法寺末、中末二 紫、一五

大門町 大江 慈昇

由緒沿革 海寶山と號す、開基平澤仙次良、開山久遠成院日親上人、創立應永卅二年三月十二日。創立の日、開山西國に弘通し、肥前松尾山に到らんとす。その夜偶々當海峽に於て暴風雨に遭ひ、海上安全の祈禱あるや、明星天子降臨の加護あり、當國に上陸弘教し創建せられたるを當山とす。寺内に明星天子降臨石あり。寺寶に開山本尊及び木像等を藏す。

▲田川郡

蓮華寺

京妙顯寺末 紫、一三

香春町宇土 貫名 圓徳

由緒沿革 妙法山と號す、開山學仙院日成上人、創立慶長七年四月。

常立寺

立本寺末 紫、一八

神田村神崎 山崎 圓叔

●新潟縣 第一部 (佐渡組)

▲佐渡郡

本山 妙宣寺 九等末寺七 眞野村阿佛 遠藤 日蓮

由緒沿革 蓮華王山と號し四十四ヶ本山の一、承久三年順徳上皇當國へ御遷幸ありし時、供奉の侍臣たりし遠藤左衛門尉爲盛の開基にして、仁治三年 上皇崩御せらるゝや、落髮して陵下に心喪を修する事三十餘年、念佛稱名懈らざりしを以て時人呼んで阿佛房と稱し、其妻千日女と共に在家の僧たり。文永八年十月宗祖當國に謫せられて大野村塚原にありしが、國中道俗の怨嫉甚しく、爲に衣食に窮乏し給ひ飢寒日に逼る。爲盛偶々其化に遇うて深く信服し、袴に衣食を饋りて供養の誠を致せり。文永十一年宗祖敕されて歸倉し更に延山に在しますや。爲盛老軀を厭はず屢々訪問し、號を日得と賜り中老僧の一人たり。其子藤九郎盛綱繼て厚く宗祖に歸依し、遂に其宅を捨て寺となし豊後房日滿と號す。阿佛房の二世たり。日滿上人又別に一字を建立す、目黒山妙滿寺これなり。當時寺は新保村にありしも、嘉暦年中雜太郷竹田の城主本間泰昌公之を居城の傍に移し、天正年中其の子高滋公田園を寄せて現地に創立す。爾來北陸道七ヶ國宗門の大棟梁として、法燈日に赫々たり。靈寶に女人成佛顯示之大本尊其他九幅、御親刻の釋迦多寶兩尊、三面大黒天、御袈裟法華經十卷、千日尼御前御返事三卷、日野資朝卿書寫法華經一卷(長一寸八九分幅數十丈)、興師本尊及置狀、滿師作日得上人千日尼

に發するものは序分なり。身延の聖默池上の摩頂は共にこれ流通分のみ。中間佐島の三ヶ年は實に其正宗分にして、當山正に正宗の第一齣たること宗史に明らかとす。當時宗祖の住まはせ給ひたる一間四面の陸堂は、そのかみ眞言宗弘樹寺の管理に屬し、現今三味堂の西部、戒壇塚と稱する地域にして、昔は此あたり一帶の屍陀林にして洛陽の蓮臺野の如く古墳累累々鬼火明滅せる塚原たりき。偶々天文年間大泉坊日成上人此に來り、昔ながらの古塚荒墳累累々として卑濕窮巷の屍陀林中僅に一小茅屋を結べる様を慨き、土人と謀りて之が興隆を發願し、天文廿一壬子年、東西一百三間、南北一百九十二間の地を構へ、遂に一間四面の陸堂を改築して祖師堂を創建す(上人は京都妙覺寺十三世本是院日護上人の門に出で、夙に弘化に志して伊東、小松原、龍口等の靈蹟を巡拜し、最後に塚原に至りて掛錫す)。乃ち宗祖を開山に仰ぎ、朗尊を二世に推し、已下堂守五人を數へ、自ら八世となる。後日守、日忍兩上を経て天正十八庚寅年三月、妙覺寺十八世實成院日典(字教典)上人來りて錫を留む。之より先、天正十七己丑年、越後大守上杉景勝佐渡を領す。偶々家老直江山城守景綱、法華を宗とし夙に日典上人と道交あり、乃ち景勝に告げて遙に上人をこゝに風請す。上人直江氏に靈蹟護持の事を謀るに、氏之を諒とし、其境内地を除地とし、更に田地三千六百疇(稻百束を以て百疇と)を寄す。現今西方一圓の田地これなり。一山の基礎を始めて確立し、上人勝を掲げて正教寺と稱し、直江氏以て官寺と爲す。既にして上人素願を果して京に歸る、特に其功を勅して十一世に列す。爾來文祿元年より慶長六年に至る十年間、容賢、種是の四師皆妙覺寺より來り相次で

兩像其他古文書等多く、例年八月十六日、御靈寶風入及大施餼鬼ありて公衆に拜せしむ。境内本堂、祖師堂、寶藏、庫裡、二王門、山門、五重塔、番神堂、土藏等具備し、阿佛房、千日尼の墓所、並に日野資朝卿の墳墓、阿新の隠松あり。資朝卿は正中元年後醍醐帝の詔を奉じて、逆臣北條高時を滅さんと謀りしに、却て北條の爲めに悟られ、同二年十二月、當國に流罪され、次て元弘元年夏、本間三郎の爲めに殺害せらる。寺寶の同卿法華經は、卿が在島中父母幽儀のために書寫せられたるもの、一子阿新九年齒僅に十三歳、遙に當國に來りて父の讐を報ぜんとして美譚は況く人口に膾炙する所なり。明治十九年卿は正二位を追贈せられ、永へに忠臣孝子の龜鑑を留む。附近に眞野山陵、戀ヶ浦、甚盤波、日野資朝卿父子遺蹟、壇風城等あり。

圓靜寺 妙宣寺末 眞野村新町 平野 順靜

由緒沿革 佛住山と號す、開山圓靜院日蓮上人の創立。

圓隆寺 京妙顯寺末 眞野村竹田 遠藤 順快

由緒沿革 寶榮山と號す、正安三年二月創立。初め宗祖佐渡御在島の砌塚原の配所より眞野御聖廟參拜あらせらるゝや、雜太野和倉に於て屢々白鳥龍燈の奇瑞ありけり。後人茲に一字を創立して白鳥山延龍寺と號す。文祿五年本行院日繼上人現地に延龍寺を再興し、後現寺號を稱す。

本山 根本寺 七等末寺八 新穂村大野 石井 智行

由緒沿革 塚原山と號し四十四ヶ本山の一、宗祖を開山に仰ぐ、創立文永八年十一月一日。宗祖一代の洪化、其安房に起り鎌倉

管理し、十二世日芳上人亦妙覺寺門流に出で、慶長六年より同十七年に至れり。從て妙覺寺對塚原の關係は漸く本末の觀を呈せしが十三世梅檀院日衍上人、同じく妙覺寺の門より出で、芳師の躑を襲ひ銳意寺門を經營するに及ぶ遂によく一山獨立の基礎を確立し、慶長十九年大久保石見守の入國するや五ヶ條の制札を得、特に大檀那味方但馬氏の外護によつて、先づ境内の區劃を改易し、布金壇戒壇塚を築き、祖師堂を再建し、六小院を興す。其他千佛堂の造營、二王門の創建、梵鐘の鑄造等、殿堂門蕪殿かに、山門の面目始めて全し。上人、更に相川に法泉寺、妙體寺を開て塚原末とし、又湊妙法寺を創建す。皆上人開山たり。寛文九己酉年九月、淨信院日行上人入山し、諸國に遊化して淨財を得、同十二年、本堂を創建し、延寶七年庫裡を造營し、其他諸堂修營至らざるなく、面目全く一新す。偶々不受不施の厄あり、當山亦三山輪番の制に據るべき命あり。幸にして阿佛妙宣寺と共に當山は特に一本寺たるの體面を保ち歴世永住となし、たゞ三山輪番所として靈跡を擁護せしめ、明治七年斯制の廢止を見るに至れり。これ一に上人の法功なり。爾來歴世相嗣て法灯を挑げ前住富田日靜(現大崎大學教頭)上人、千佛堂を再建し、三味堂、太鼓堂を修繕し、本堂を瓦葺に改め、庫裡を改築し、現住後を承けて教光益々揚る。靈寶に龍灯祖師尊像、妙見大士像、烏瑟沙摩明王、二王尊、宗祖建治三年の略本尊、朗師像師各本尊、當山唯一の靈寶文永十年四月八日の資始大曼荼羅、其他同細字法華經八軸、同上御清書二軸、朗像兩上畫像、阿佛房最蓮房中興信重各一返首題、宗祖御在島中の器具等を藏し、境内影向の松あり、宗祖謫居の往事を偲び奉るべし。

本山 妙照寺

十等末寺二〇

二宮村 市野澤

遠藤 日治

由緒沿革 妙法華山と號す、開基學靜阿闍梨日靜上人、宗祖を開山に仰ぐ、創立文永九年七月十四日。當山は往昔宗祖大士、佐渡四箇年御在島中三箇年御住居の靈地にして、大士一期の一大事を開顯し玉ひし處なり。初め宗祖文永八年佐渡配流の砌り、十月廿八日當國松ヶ崎の津に着かせ玉ひ、同十一月朔日塚原三味堂に入り、翌文永九年四月七日、鎌倉よりの沙汰として本間左近勝利の副狀を以て、塚原より市之澤なる近藤伊豫守清久の館に移し奉る。其狀に云く此流人日蓮僧非可蔑從鎌倉在制狀堅番衆可申付者也四月七日本間勝利在判 近伊州入道清久(此副狀今に當山に藏す)清久謂らく未だ嘗て弘經の爲め此國へ配流せられし者あるを聞かず獨り此僧あるのみと、熱々大士の尊容を拜し奉るに其凡人ならざるを知り、心竊に歸伏し奉り、翌五月五日夫婦並に其子次郎信重等、宗を改め受戒して諱を法妙院日學と賜る。清久元淨土を宗とし印性房の檀那たり。邸宅の側に阿彌陀堂を建て阿彌陀佛を安置し、常に唱名念佛怠らざりき。依て受戒の後、來年信仰せし彌陀佛を宗祖に奉る。宗祖是を開會して金銅釋迦牟尼佛と稱し奉り點眼まし、て草庵に安置し奉る(今當山の靈寶たり)。同六月七日今の御影堂の地に草庵を建立して宗祖を爰に移し奉る。此草庵人呼て日蓮坊堂或は法華坊堂と號せしとん(是當國本宗梵刹の最初也)。此時清久より種々御供養の贈り物あり、日與上人の筆にて宗祖へ披露の消息今當山に藏す(次郎信重は中興の邑主にして後ち中興入道と云ふ。入道又邸宅の側に法華堂を建立し爰に宗祖を請じ、時々法義を

聽聞せり。或時宗祖爰に水を需め玉ひしに忽然として靈水湧出せり、宗祖此井の水を以て觀心本尊抄の御硯水と爲し玉ふと。故に此處を御硯水の靈場と云ふ。今御井戸庵と稱して當山の境外佛堂たり。里程一の谷を去る一里。同文永九年七月十四日一の谷御草庵に於て宗祖開堂供養を兼ね孟蘭盆會の法要を修し、清久の祖先及び法界の供養を爲し玉ふ(今に當山は七月十四日施餓鬼を修するを例とす)。翌文永十年四月宗祖一期の一大事たる觀心本尊抄を著はし本懷已證の法門を宣へ玉ひ、同七月八日佛滅後二千二百二十餘年の間一闍浮提の内未曾有の大曼荼羅即ち事の一念三千十界勸請總歸命の御本尊を圖し玉へり。茲に於て本門の三大秘法を開顯し、宗祖出世の本懷殘る處なく究盡し玉へり。故に市之澤の地名をハシメテハ、と書せ玉ふと傳ふ。文永十一年三月八日、御弟子日朗上人御赦免狀を頭に掛け當御草庵に到り歡喜の涙と共に宗祖に奉る。其狀に云く日蓮法師御勸氣事有赦免之由所被仰下也早可赦免之由候也依執達如件。文永十一年二月十六日兵部奉行兼承山城兵衛入道殿(此赦免狀當山にあり)。宗祖御赦免に依り御草庵を御弟子學乘坊日靜上人へ御附屬ありて佐渡法華弘通の導師と定めさせ玉ひ、三月十三日御發足、眞浦の津より御歸倉あらせ玉ふ。此時日靜上人御名殘を惜み奉り御姿を鏡に寫し宗祖の尊像を彫刻して鏡の御影の宗祖と稱し奉り當山に安置し奉る(是宗祖御尊像の最初とす)。宗祖御歸倉の翌年建治元年五月朔日妙法華山妙照寺と寺山號を命名せられ、身延の山より常什本尊と共に日靜上人へ送らせ玉ふ(是寺號の本尊とて當山に藏せり)。石田と云ひ一の谷と云ふ、地名も土地も今昔に變る事なし。宗祖の當時を追想せば最と尊とく、こそ

覺ゆるなり(近藤清久の後裔連絡相續して今に當山の檀頭たり二王門の側に住す)。此の如く當山は宗祖大士の御創立にして、三箇年御住居、寺山號をも自ら御命名あらせられし御靈蹟なるが故に、開山宗祖大士、二世日靜上人、三世日明上人と法燈相續し、現今四十六世に及び靈佛靈寶等亦多く、本堂、庫裡、書院、寶藏、祖師堂、七面堂、總門、三門、經藏、番神堂、妙法堂、二王門、鐘樓、土藏等寺觀整備し、地境閑雅の靈跡たり。

實相寺

身延末 緋、一五

二宮村市野澤

本間 日演

由緒沿革 御松山と號す、開基松永坊日心、宗祖を開山に仰ぐ、創立貞治元年。宗祖佐渡御在島中、塚原より此地に移り、時に文永八壬申年四月廿八日、當山の小丘、一株の古松に御袈裟を掛け、手を洗ひ口を漱いで祈念あらせ給ひたる所謂袈裟掛松の靈蹟にして、本堂、祖師堂、妙見堂、庫裡、鐘樓堂、寶藏、二王門、中門、土藏等具備し、寺寶に宗祖曼荼羅等を藏す。

妙經寺

身延末 緋、一六

二宮村中原

飯田 春貞

由緒沿革 法華山と號す、開基清保房日正上人、宗祖を開山に仰ぐ、創立文永九年九月。開基上人は中興左衛門尉清保公(中興次郎入道本間信重)と云ふ。初め順徳院に仕へ奉り忠實至盡の名あり、然るに宗祖佐渡流罪中、文永九年正月十六日塚原問答の事あり、當時公は當地の地頭に於て、當國の守護本間重連の一族なるを以て警固の役にあり。會ま法義を拜聽、て改宗し、公は清保房日正大居士、同室は妙經日住尊の法號を賜ふ。爾來信仰愈々厚く、館(中興にありたり)の傍に庵室を構へ、同年十月一日息女の七回忌に當り、宗祖を請じて丈六の卒塔婆を造

常信寺

妙照寺末 紫、二二

二宮村二宮

遠藤 順正

由緒沿革 妙淨山と號す、開山本山十八世日通上人、創立正保四(或は元)年二月十五日。本山は當山より三丁とす。

安隆寺

京妙顯寺末 緋、一八

小木町 本間 春雄

由緒沿革 昌榮山と號す、開基性善坊日顯上人、開山日朗上人、創立文永十一年三月。當山はもと禪宗に屬し、學法房と稱び元小木村に在り、創立の年三月七日朗師鎌府の命を受け宗祖赦免の狀を奉持して當島に渡る、時に夜陰咫尺を辨せず船體辛うじて元小木村の海濱に着するの刹那誤つて巉岩に突破し舟子皆溺死す。朗師獨り矢島に流着し巉岩を攀登し松茸の下に高聲誦經す。後世此島を經島と呼ぶ。時に學法房經聲を聞いて怪み、村民と共に炬火を點じ舟を舩して自坊に上人を救ひ歸り一宿せしむるや、宿縁の追ふ所受化改宗して弟子となり名を性善坊日顯と云ふ。天文八年三世日秀上人の時山號を公稱し、明暦二年九

世日光上人の時現境内を拓して堂宇を建立す。寺寶に宗祖弘安元年八月十五日の御本尊を始め、向、親、印諸上の本尊、開山獄中の作に係る宗祖尊像、狩野俊信筆宗祖畫像、その他元政上人の安隆寺鐘銘一卷等を藏し、現住は目下元小木村性善坊の舊地に日朗上人舊跡記念碑建設工事中なり。

**法久寺** 根本寺末 素、二四

由緒沿革 妙耀山と號す、開山妙耀院日興上人、創立慶長八年。

**瑞仙寺** 根本寺末 紫、一六

由緒沿革 光營山と號す、開基味方但馬守家重、開山旃林院日衍上人、創立寛永元年四月八日。

**妙法寺** 妙宣寺末 素、等外

由緒沿革 一乗山と號す、開山圓靜院日蓮上人、創立安永二年一月十二日。

**妙圓寺** 妙照寺末 紫、一四

由緒沿革 長光山と號す、開基椎野庄三郎、開山久成院日實上人、創立慶長元丙申年六月廿二日。もと田中村鶴子四十物町に創立す、三世日實上人の時相川町治助町に移り、五世日芳上人の代享保二酉年八月、味方孫太夫土地を求めて現地に轉じ享保二十卯年四月、六世日良上人の時本山廿八世日完上人は當山を永聖跡に列す。後弘化三年十月焼失、直に再建して今日に至る。寺寶に宗祖御歸倉の砌り、朗尊の本尊と共に阿佛房に授與せられたる御本尊、日法上人作宗祖立像の尊像、元政和尚遺墨一軸を藏す。

由緒沿革 東光山と號す、開山旃林院日衍上人、創立寛永元年。

**妙滿寺** 妙宣寺末 緋、二〇

由緒沿革 目黒山と號す、開山中老僧日滿上人、創立延文二酉年。開山は眞淨坊と呼び、順徳上皇御遷幸の砌り供奉せる遠藤左衛門尉爲盛(阿佛坊)の嫡子、遠藤藤九郎盛綱法號豐後坊にして、本山二世たり。寺寶に宗祖、朗、滿各上本尊及開山作祖像等を藏す。

**法宣寺** 根本寺末 素、二五

由緒沿革 目要山と號す、開山正法院日透上人、創立寛永十年七月。

**本光寺** 大光山末 平、三〇

由緒沿革 日朗山と號す、開基妙音阿闍梨日行上人は、その師日朗上人を開山として、文永十一年三月八日創立し、自ら二世たり。宗祖佐渡御在島中、開山の屢々御訪問の際、御休憩ありし舊地にして、「御腰掛石」「赦免松」等あり、當國靈場の一。日朗坂は當山の東五丁に、更にその附近に順徳上皇第一皇子の御陵あり。

**本行寺** 根本寺末 緋、二五

由緒沿革 松ヶ崎山と號す、宗祖を開山に仰ぐ、創立文永八年。

**圓福寺** 大光山末 素、二三

由緒沿革 金寶山と號す、開山究竟院日愼上人の創立。

**妙光寺** 妙宣寺末 平、二五

由緒沿革 開山究竟院日愼上人の創立。

等を藏し、宗祖御使用の盥漱石の靈蹟としてその名高し(年譜参照)。

**蓮長寺** 京妙覺寺末 平、二五

由緒沿革 光秀山と號す、開山日圓上人、創立延寶二年二月。

**妙輪寺** 根本寺末 平、二九

由緒沿革 覺鷲山と號す、開山大乘院日達上人、創立慶長九年二月。

**本敬寺** 京妙顯寺末 平、等外

由緒沿革 長性山と號す、開山大法房日圓上人、創立應永七年六月。

**法華寺** 京妙覺寺末 平、二四

由緒沿革 經王山と號す、開山日學上人、創立天正二年二月。

**玉泉寺** 京妙顯寺末 素、二五

由緒沿革 寶聚山と號す、開山日紹上人、創立慶長十一年六月廿五日。

**圓行寺** 妙宣寺末 平、二五

由緒沿革 光得山と號す、開山日進上人、創立寛永二十年八月。

**法泉寺** 根本寺末 平、等外

由緒沿革 妙榮山と號す、開山旃林院日衍上人の創立。

**妙法寺** 根本寺末 紫、二〇

由緒沿革 法華山と號す、開山妙光院日要上人、創立天文三年中。

●新潟縣 第二部 (蒲原組)

▲新潟市

**長照寺** 京妙覺寺末 緋、一八

由緒沿革 法光山と號す、開基新潟の豪族若狭入道大鹽常安にして土佐守の家老たりしと云ふ。開山極大僧都日健上人(熊本の人)。初め九州長崎にあり、天正三年、十一世日長上人の時、現地に移轉再興す。寺寶に元政上人眞筆草山集の原書、及同上人筆紺紙金泥の法華經八軸等を藏し、寺運隆昌たり。

**本覺寺** 大光山末、中末九 緋、一〇

由緒沿革 安住院日源上人を開山とす、創立貞和五年五月。廿三世合掌院日長上人は京本圓寺に、廿四世妙乘院日昇上人は武州池上本門寺に榮轉す。初め蒲原にあり一世惣持院日繼上人現地に移す。爾來祝融の災に罹る前後六回、現住經營して教光新たり。安政の勤王家竹内式部は累代當山の檀越たり。

**法雲院** 新潟本覺寺末 平、二九

由緒沿革 開山戒善院日尊上人。

**感應院** 新潟本覺寺末 平、三〇

由緒沿革 開山戒善院日尊上人。

妙覺寺

新潟本覺寺末  
平、二四

古町三番町 吉田 快洞

由緒沿革 正道山と號す、開山戒善院日尊上人、創立元祿九年三月。

眞善寺

新潟本覺寺末  
紫、一八

沼垂町寺町 高山 玄龍

由緒沿革 長久山と號す、開山寂靜院日禪上人。

本立寺

新潟本覺寺末  
平、二九

沼垂町流作場 山崎 玄了

由緒沿革 安倍山と號す、開基安倍玄的、開山正心院日遙上人、創立元祿十二己巳年七月。蓋此地寛文延寶の頃までは河沱氾濫の間に露出せる洲嶼にして巨蛇毒蟲の巢窟なりしが、開基此に一字を建て、辨財天を奉祠し、辨天堂と稱せり。後領主牧野侯田甫若干を寄附し、特に明治十二年、開基の遠孫安倍英直は祖先の遺志を繼て更に田島金穀を喜捨し、同年三月廿日寺號を公稱して再興す。寺寶に宗祖、遠乾二師の本尊等を藏す。

▲長岡市

法華庵

新潟妙音寺末  
平、二七

稽古町 樋山 是證

由緒沿革 開基西山魏左衛門、開山妙眼尼、創立嘉永五年。

▲中蒲原郡

妙蓮寺

大光山末、中末六  
緋、一三

金津村東島 本郷 要演

由緒沿革 法久山と號す、開山日朗上人の資摩訶一院日印上人とす。初め眞言に屬す。會々宗祖の法孫たる開山、北陸の遊化

由緒沿革 法流山と號す、開山日蓮上人。

妙本寺

新潟金津妙蓮寺末  
紫、一八

新津町田家 岩橋 順良

由緒沿革 一乗山と號す、開山慈眼院日海上人、創立應安元年八月。初め眞言宗に屬し常行院と稱し新津町山谷普廣寺末たりしが、寶徳元年間改宗妙本寺と改む。其の後火災に罹り、正保年間、中興開山八世日相上人あり、現地に移轉再建す。寺寶に宗祖御本尊及御眞筆斷片一、黄金釋尊像(唐土傳來)、朗師作宗祖御像等を藏す。

蓮光寺

新潟本覺寺末  
平、二三

五泉町三本木 宮澤 順性

由緒沿革 法榮山と號す、開基波多彦左衛門、開山寶珠院日鏡上人、創立元和八年。

本傳寺

新潟本覺寺末  
平、一五

大江山村大淵 眞島 快享

妙勝寺

新潟金津妙蓮寺末  
素、二二

橋田村橋田 金子 要善

由緒沿革 蓮久山と號す、開山日進上人、創立永正年間。

眞如寺

村田妙法寺末  
平、二八

村松町 山崎 泰圓

由緒沿革 法智山と號す、開基八木傳兵衛、開山日種上人。

實相院

本土寺末  
平、二五

龜田町稻葉 坂瓜 順泰

由緒沿革 もと千葉縣東葛飾郡小金町平賀にあり、明治三十二年八月現地に移轉再興す。

妙延寺

本覺寺末  
平、二三

鳥屋野村大島 平澤 潮山

に際し、寺主法久坊、妙蓮坊の二人、改宗して弟子となり、堂宇を建立して奉る、開山乃ち今の寺山號を銘す。これ實に正應元戊子年三月廿八日たり。越後角田妙光寺、三條本成寺は共に開山の創立する所、墳墓を當山に築く。寺は元應元年三月創立し、享保六年五月再建し、明治十五年改築、同廿七年二月焼失、同三十四年竣工し、庫裡は同四十年の改築に係る。寺寶に立像の釋尊、朗印兩上の本尊、宗門中興諸上及光園卿等の眞筆本尊、就中開山の殿中間答記録、同開運大黑尊天等を藏し、寺觀亦整備す。

善住院

新潟金津妙蓮寺末  
平、等外

金津村東島

由緒沿革 開基眞柄富衛、開山日廣上人、創立慶長十八年六月。

惠光寺

身延末  
平、二三

白根町白根 小林 海是

由緒沿革 妙榮山と號す、開山慧光院日勝上人。

常照寺

京妙覺寺末  
平、二〇

菅名村木越 圓山 文明

由緒沿革 木越山と號す、開山日像上人。

大安寺

新潟金津妙蓮寺末  
平、二三

小合村子 本間 詮要

由緒沿革 妙法山と號す、開山寂光院日近上人、創立元和八年四月八日(或明和元年)。

妙泰寺

新潟金津妙蓮寺末  
素、一七

横越村川 坂井 泰旭

由緒沿革 久延山と號す、開山日隨上人、創立寛永十九年二月。

妙傳寺

新潟本覺寺末  
平、一五

横越村小杉 伊藤 泰眞

由緒沿革 榮信山と號す、開山春養院日延上人。

▲南蒲原郡

寶盛寺

村田妙法寺末  
紫、一五

三條町大町 小林 日進

由緒沿革 隨法山と號す、開山日要上人、創立正慶元年三月。

妙榮寺

新潟法華寺末  
紫、一五

中ノ島村 五十嵐英淑

由緒沿革 流川山と號す、開基羽賀有右衛門、開山日遙上人、創立慶長七年八月。

清正庵

村田妙法寺末  
平、等外

中ノ島村中條

由緒沿革 開山日珠上人。

▲西蒲原郡

妙光寺

大光山末、中末三  
緋、一四

角田村角 小川 英淳

由緒沿革 角田山と號す、開山日印上人、創立文保元年(或は正和二年)宗祖佐渡御左遷の砌、文永八年十月廿七日御一泊の舊跡にして、波、岸、岩三箇の題目、七面天女最初御教化の所。寺寶に宗祖直授靈山契約之御判、祖書綱要刪略(日壽上人筆)の原本等を藏し、七面天女窟、浦濱風景、彌彦神社に近し。

京住院

新潟妙光寺末  
平、三〇

角田村角田濱 小川 英林

由緒沿革 開山日通上人、創立寛文三年三月。

蓮久寺

新潟妙光寺末  
平、二七

中野小屋村 藤崎 英教

由緒沿革 伊藤山と號す、開基伊藤大一郎、開山日達上人、創立貞亨元年六月。

常昌寺

村田妙法寺末

地蔵堂町 小河原潮雅

由緒沿革 日英山と號す、創立萬治元年四月十五日。

北蒲原郡

蓮昌寺

大光山末、中末一

新發田町新

佐藤 湊海

由緒沿革 久榮山と號す、開基山莊小左衛門、開山日光上人、創立天文十二年五月。

法華寺

京妙顯寺末、中末二

新發田町

向井 教遠

由緒沿革 松顯山と號す、開基坂井秀政公、開山慈照院日覺上人、創立慶長三年三月。開山は丹波一國の領主大雲寺殿前土佐守法號即心淨眞居士の息、後織田信長公の家臣坂井式部秀政公の猶子となり、本山九世日教上人に從て得度し、加賀大聖寺なる妙海寺に住職たりしが、慶長三年坂井式部の溝口秀勝公の臣となり、當地に隨從するや、式部、秀勝公の命に依て、開山の爲め一字を此地に建立し、法華寺と名けたるものを當山とす。當時境内廣袤、現今隣次せる瑞雲、眞稱、得生、蓮昌の四ヶ寺は皆當山の地を分讓せしものと云ふ（現境内六百九十餘坪）。寛永七年四月溝口伯耆守宣直公は御判田一町貳反餘歩の寄附あり、寺運隆昌せしが、文政十一年四月祝融の災あり、同年八月庫裡を、同七年四月本堂を各々再建して爾來今日に到る。寺寶

妙境寺

身延末

津川町

由緒沿革 事常山と號す、開基宮川留次郎、創立明治十六年二月許可。

岩船郡

經王寺

大光山末、中末一

村上町寺町

相田 是普

由緒沿革 眞光山と號す、開山摩訶一阿闍梨日印上人の嫡弟印藏坊日住上人、應永年中創立。永祿年中角田山より岩船郡猿澤村へ、更に慶長年中現地に移轉す。寺寶に宗祖本尊並に御消息斷片四、御火葬灰、常師明師本尊、法師作祖像、運慶作釋尊像等を藏す。

妙法寺

京妙顯寺末

村上町寺町

小林 是恭

由緒沿革 久遠山と號す、開山日扇上人、創立天正四年五月。

長法寺

新潟經王寺末

村上町寺町

佐藤 讀承

由緒沿革 遠壽山と號す、開山日達上人。

妙性寺

大光山末

村上町小國町

宿波 本浩

由緒沿革 法廣山と號す、開山日晋上人、創立元和元年。

本證寺

大光山末

岩船町三日市

渡邊 桓朗

由緒沿革 海岸山と號す、開山日實上人。

古志郡

日蓮宗寺院 ●新潟縣第二部 ●岩船郡 ●古志郡

に宗祖弘安四年卯月日高へ授與の本尊、享保十六年四月十三日本山より分骨せる宗祖御眞骨、靈元天皇御愛詵水戸光圀公銘の鳳石硯等を藏す。

顯法寺

新潟法華寺末

新發田町上

青木 泰明

由緒沿革 妙榮山と號す、開山將門院日迅上人、創立萬治三年。初め市外荒町に在り、後現地に移る。文政年間十三世平等院日明上人本堂再建、明治廿八年六月類焼、同四十三年七月先住蓮藤仙洲再興、現本堂總樑十間四面あり、大正六年現住屋根を瓦葺に改む。勸請せる鬼子母尊神は利元院日慶上人（寶曆二年寂）の納むる所、運慶の作と傳へられ、詣者常に絶えず。

本妙寺

身延末

水原町

丸山 海信

由緒沿革 遠照山と號す、開基成島類之丞、開山善立院日言上人。

大寶寺

新潟蓮昌寺末

聖籠村藤寄

青柳 光禪

由緒沿革 開山日成上人、創立享保十九年三月。

不空院

新潟金津妙蓮寺末

堀越村中

由緒沿革 開基眞柄茂雄、開山不染院日性上人。

寶泉寺

京妙覺寺末

松ヶ崎濱村

田邊 日雄

由緒沿革 開山等覺院日惠上人、創立元祿二年四月廿八日。

東蒲原郡

圓隆寺

村田妙法寺末

上鹽谷村入

阿部 要識

由緒沿革 開山日運上人、創立康曆四年五月。

妙音寺

大光山末、中末一

富曾龜村

樋山 是證

由緒沿革 寶洞山と號す、開山九老僧日行上人、創立元徳年中。

雲帶寺

大光山末

荷頃村一ノ貝

小林 是隆

由緒沿革 雲慶山と號す、開山日朝上人、創立正和年中。

新潟縣 第三部 (三島組)

三島郡

本山 妙法寺

十五等末寺二九

島田村村田

高田 圓讓

由緒沿革 法王山と號し、四十四ヶ本山の一、開山六老僧日昭上人、創立徳治二年、初め開基信越兩國大守風間信濃守相模頼倉の府に在勤の日、宗祖の嫡弟日昭上人に歸依して檀越となる。開山時に名瀨の妙法寺に在り。信濃守に謀りて曰く、吾祖立宗の初に方り妙鐘を相府に擧げ、法鼓を鎌倉に繋ぐ、故に妙法の弘化關八州に普し、然るに北越は僻陬の地にして法華の極説未だ其名を聞かず、矧や深理をや、幸なる哉吾と仁者と往縁淺からず舊好最も厚し。蓋に本寺を領内に移して一派の本寺と崇め、佛法の靈地となし、妙法を弘布して以て吾師の本體を達せんことを。此に於て信濃守備に力を戮せて妙法寺を此に遷し、日昭上人を開山となし信濃守の弟日成上人を以て二世と爲し、實子

日蓮上人を以て第三世と爲し、元亨三年寺領三百五十石を寄附し、越後一宗の大本寺と爲す。天正十九辛卯年正月六日祝融の災に罹り、古記亦失へり。慶長十八癸丑年松平筑後守、松平大隅守、並に書判と制札とを與ふ。慶安元戊子年二月二十四日將軍徳川家光公は朱印地三十五石を寄せ、元禄十一戊寅年堀式部少輔書判制札を與へ、寛延元戊辰年村雲瑞龍寺殿下より紫衣代代を、大聖寺宮殿下より乘輿を並に許され、又高辻少納言は緋紋白袈裟を寄附し、爾來寺門興隆の極に達す。而して風間信濃守の子孫今猶存す。明治戊辰の亂に際り兵燹に罹り、堂宇悉く焼けぬ、王政復古の時に際り朱印地暨山林は上地を命ぜられしども、末寺二十有九ヶ寺を有し、靈寶に日法上人作宗祖尊像、開山筆法華宗意抄(隨喜品)一冊、日成人讓狀等を藏し、本堂、七面堂、黒門、二天門、庫裡、一切經藏(千佛安置)、朝師堂あり、開創以來法灯一系、能く昭門の正統を傳へて今日に到る。

治曆寺

村田妙法寺末 緋、一五 島田村村田 古寺 潮瑞

金藏坊

村田妙法寺末 素、二〇 島田村村田 高橋 英交

泉藏坊

村田妙法寺末 平、二五 島田村村田 中曾根詮林

信盛坊

村田妙法寺末 平、二五 島田村村田 池浦 英運

安全坊

村田妙法寺末 平、二六 島田村村田 樋山 英周

由緒沿革 開山日鏡上人、創立寛文七年十一月。

大慶寺

村田妙法寺末 緋、一八 西越村大寺 小林 本明

顯本寺

大光山末 素、二五 西越村上野山 宮崎 本通

圓徳寺

大光山末 紫、一九 西越村上中條 濱田 本養

由緒沿革 正榮山と號す、開山日榮上人、創立寶徳二庚午年。正徳二壬辰年山崩あり堂宇大破し、文化十二亥年二月焼失し、現堂宇はその後の經營に成る。初め眞言より改宗せしものなり。

法福寺

京妙覺寺末、中末一 寺泊町 海津 英碩

明聖寺

新瀧法福寺末 平、一九 寺泊町 松井 英文

由緒沿革 善行山と號す、開山日印上人、創立嘉暦元年。初め開山三條本成寺建立後、三島郡小谷村に小谷山妙滿寺を創立す。亂世に遭ひ、當時の住持日就上人、西蒲原郡井田村へ移し、更に慶長四年八月寺泊へ再轉し現本寺客末となれり。

和光寺

池上末 平、二九 寺泊町中曾根 富田 澄月

法立寺

村田妙法寺末 平、三〇 與板町 高野 妙仙

由緒沿革 遠行院日治上人を開山とし、明治十五年創立す。同二十九年九月出願女僧寺たり。

由緒沿革 創立慶長七年二月。

大乘坊

村田妙法寺末 平、二四 島田村村田 松永 實圓

乘光寺

村田妙法寺末 平、二三 島田村坂谷

本行寺

村田妙法寺末 素、二三 島田村村岡 中田 義觀

大榮寺

村田妙法寺末 紫、二四 島田村高森 齋藤 憲妙

蓮念寺

村田妙法寺末 紫、一八 島田村邊張 西山 是端

大光寺

大光山末 素、一九 島田村日野浦 山口 潮正

由緒沿革 妙龍山と號す、開山三位大僧都妙龍院日靜上人。元眞言に屬し、養老三未年行基菩薩の創立、智光山曼荼羅寺と號す。嘉暦三辰年十一月開山當地一泊布教の砌、當時の住職寺と共に改宗す。文明年中現寺號に、正徳二年現山號に改む。寺寶に行基菩薩彫刻世尊像、並番神、宗祖本尊、日法上人彫刻宗祖像、傳教大師彫刻毘沙門天等を藏す。

妙本寺

村田妙法寺末 平、二四 西越村久田 堀田 要隆

善勝寺

大光山末 緋、二〇 出雲崎町尼瀬 河内 憲聽

由緒沿革 大覺山と號す、開基音羽御前、開山日朗上人、弘安年間創立。後鳥羽院の文治年間、佐藤庄司元治が後室、音羽御前、其の子、嗣信忠信の討死を悲み、此地に來り名を妙照と改め釋迦堂に入りて菩提を弔ふ。後宗祖佐州在島中、日朗上人、ここに宿し、正應元年改て現寺山を銘じ跡を弟子日善上人に譲り給ふ。天保八年本山法主北國巡化の節掛錫ありたり。寺寶に名匠春日作釋尊を安置し、境内に同町木工妻孝女の碑あり。

妙福寺

大光山末 紫、二〇 出雲崎町尼瀬 佐々木春清

由緒沿革 銀國山と號す、開山九老僧日範上人、創立嘉元二年三月。會ま寶曆年間十四世日迎上人の時、山崩の爲め堂宇破壊されたるも直に本堂再建す。更に明治十一年類焼の厄あり、同四十二年日親上人再建して今日に到る。寺寶に宗祖本尊、同御消息斷片、重乾遠三師の本尊等を藏し、日本海佐渡島等一眸の下に鐘る。

妙滿寺

池上末 平、等外 桐島村島崎

眞淨寺

東京妙法寺末 紫、二〇 關原村西關原 鈴木 玄孝

由緒沿革 開山妙光院日祐上人、創立延寶五巳年四月、もと妙光寺と稱し靜岡縣富士郡芝富村羽船にあり、同縣庵原郡内房村本成寺末なりしも、明治四十二年十二月現本寺に轉末し、次て大正二年十二月現地に移り現寺號に改め、大正三年五月平僧跡より現格に昇る。

●新潟縣 第四部 (刈羽組)

▲刈羽郡

妙行寺

玉澤末、中末二  
由緒沿革 海岸山と號す、開山慈福院日心上人、創立文永十一年三月。もと天台宗の古刹にして大乘寺と名く。文永年中、宗祖佐渡より歸倉の途次、當時の住持慈福親化に遭ひ、改宗して名を日心と賜ふ。依て改宗開山とす。維新に至り日隆上人亦此に住職せらる。本堂、七面堂、妙見堂等あり、塔中に蓮藏坊、實藏坊あり。寺寶に宗祖本尊三幅、三面大黒天、其他畫曼荼羅、高麗狗の畫等を藏し。附近には明治十一年九月、先帝陛下御野立並に大正六年七月兩皇子殿下御休憩相成りたる塔の輪の絶勝地あり。

蓮藏坊 新潟妙行寺末  
平、二九 柏崎町新今町  
由緒沿革 開山日隆上人、創立元祿年中。  
實藏坊 新潟妙行寺末  
平、三〇 柏崎町新今町  
由緒沿革 開山日用上人、創立永祿八年九月十二日。  
本妙寺 小湊末  
平、二七 柏崎町新島町 持田 光定  
由緒沿革 開山日印上人。  
福泉寺 京妙覺寺末  
紫、二四 枇杷島村 大塚 存妙

由緒沿革 開山日舟上人。

妙覺寺

身延末  
平、二一 北鯖石村藤井 岩瀬 日謀

東城寺

村田妙法寺末  
紫、二四 北鯖石村中田 小林 智豊

萬福寺

玉澤末  
平、二六 北鯖石村畔屋 鈴木 玄頂

妙廣寺

玉澤末、中末一  
紫、一八 北條村廣田 村山 智全

本覺寺

玉澤末  
平、二六 北條村北條 大澤 智要

深光寺

身延末、中末一  
平、一九 西中通村長 本間 英存

玉泉寺

村田妙法寺末  
緋、一八 刈羽村入和田 齋藤 憲孝

妙滿寺

玉澤末  
紫、一〇 刈羽村入和田 塚田 玄明

法華寺

新潟深光寺末  
平、二八 荒濱村 松浦 順清

十一月。

宗林寺

身延末  
平、二七 田尻村安田 片桐 妙源

由緒沿革 源妙山と號す、開山本實坊日授上人、創立天正元年八月十五日。

▲北魚沼郡

清涼庵

新潟妙廣寺末  
平、紫、外 小千谷町

由緒沿革 開山日關上人、創立寶曆十年五月廿八日。

●新潟縣 第五部 (頸城組)

▲高田市

長遠寺

大光山末、中末二  
緋、一九 下寺町 松本 孝珪

善行寺

立本寺末  
紫、二五 下寺町 和田 壽玄

日朝寺

村田妙法寺末  
緋、一九 下寺町 遠藤 本蓮

常國寺

京妙覺寺末  
紫、一九 下寺町 丸山 壽鑑

妙國寺

弘法寺末  
緋、一九 下寺町 福井 教入

日蓮宗寺院 ●新潟縣第四部 ●北魚沼郡 ●新潟縣第五部 ●高田市 ●頸城郡

由緒沿革 開基片山圭永正、開山妙國院日宣上人、創立元文四年。大正四年五月火災に罹る。

常顯寺

大光山末、中末一  
紫、一九 下寺町 押味 春敬

由緒沿革 高顔山と號す、開山中老僧越後阿闍梨日辨上人、創立建治二年四月。開山當國開教の祖命に従ひ、開山作宗祖開眼の祖像及開教の大曼荼羅(廿八枚繼にて天拜又は疫病除の曼荼羅とも稱ふ)とを奉じて、弘通ありたる舊跡にして、往古十六の末寺ありしも、今は一ヶ寺を存するのみ。寺寶に前記の外宗祖御本尊(六)、同御所持の短刀、清正公の矢、土佐大藏卿筆寶塔等を藏す。

淨法寺

大光山末  
緋、二五 中寺町 永井 元泰

法顯寺

身延末  
緋、二四 下職人町 中山 春鶴

▲頸城郡

妙蓮寺

村田妙法寺末、中末一  
緋、一九 柿崎村 阪口 旭昇

一乘寺

新潟柿崎妙蓮寺末  
平、三〇 柿崎村 上下濱 佐藤 旭往

由緒沿革 妙法山と號す、開山田中旭闍上人、創立明治十三年七月一日。



延壽寺 新潟常願寺末 紫、一九 直江津町寄町 兼押味 春敬

由緒沿革 開山日延上人、創立寛文四年五月。

良運寺 新潟長遠寺末 平、二七 大濱村上三 立川 順照

由緒沿革 開山日印上人、創立正應三寅年六月。

正平寺 村田妙法寺末 紫、二三 上米山村小杉 鈴木 泰遊

由緒沿革 開山日運上人、創立正平元年四月。

法興寺 村田妙法寺末 紫、二四 上米山村吉尾 平澤 詮明

由緒沿革 開山日運上人、創立延文三年十月。

妙興寺 村田妙法寺末 緋、一九 米山村鉢崎 本間 海潮

由緒沿革 開山常在院日支上人、創立應安三年四月廿八日。

本住寺 村田妙法寺末 平、二八 米山村 若田部鍊舜

由緒沿革 開山日饒上人、創立慶長元年四月廿八日。

妙泉寺 村田妙法寺末 緋、一九 米山村上輪 山田 嶺哲

由緒沿革 開基法泉妙泉(天古)、開山日翁上人、創立曆應元年二月。

法徳寺 京妙覺寺末 紫、二〇 美守村神田 古河 俊影

由緒沿革 開山日儀上人、創立文安元年。

蓮華寺 新潟妙光寺末 平、二三 美守村末野 薄波 旭豊

由緒沿革 開基小山田五左衛門、開山日達上人、創立元祿四年。

●宮城

▲仙臺市

本山 孝勝寺 九等末寺一三 東九番町 柘植 海壽

由緒沿革 四十四ヶ本山の一、開基伊達公、開山中老日門上人、永仁三年三月廿一日の創立にして、現董寺門を經營し輪奐の美備はる。有名なる政岡の墓は當山にあり。

法輪院 孝勝寺末 平、二〇 東九番町 河上 鍊學

由緒沿革 開山日悟上人、創立萬治二年二月五日。明治年間同地所在同末華光院(開山創立年月同じ)を合併す。

蓮香院 孝勝寺末 平、二七 東九番町 河上 鍊學

由緒沿革 開山日悟上人、創立萬治二年二月五日。

妙音院 孝勝寺末 平、二五 東九番町 立花 遵了

由緒沿革 開山日悟上人、創立萬治二年二月五日。

法運寺 本遠寺末 紫、一五 連坊小路 梅森 寛了

由緒沿革 廣潤山と號す、開山心性院日遠上人、創立寛永十四年五月、開基仙臺藩主二代伊達忠宗公にして從來同家の祈願所たり。維新前祝融の災あり、明治十六年現住嗣職以來本堂庫裡を新築して寺觀大に備はる。

▲刈田郡

日蓮宗寺院 ●宮城縣 ●仙臺市 ●刈田郡 ●伊具郡

四月。

光明寺 大光山末 平、二二 吉川村下町 岡村 順榮

由緒沿革 開基玄妙院日中、開山妙壽尼、創立享和十一年十月十五日。

本仙寺 村田妙法寺末 平、二二 明治村天ヶ崎 本間 存教

由緒沿革 開山日瑞上人、創立元祿十年八月。

▲西頸城郡

經王寺 立本寺末 紫、二〇 糸魚川町新田 播磨 本壽

妙見寺

東京法性寺末 紫、一八 白石町白石 風間 淵靜

由緒沿革 星王山と號す、開基白石豪族上西甚藏、開山下總真間歴世支收院日明上人、創立安政六己未年四月、開山柳島法性寺に在職中、開基同山に參籠して東北の地未だ大法に潤はず、仍て一寺を建立して宗風を宣揚せんことを謀り、遂に當山を創立し、眞間山末に屬す。村雲門跡厚く開山に歸依せられ、特に祈願所とし、紫衣並緋菊紋章の七條を贈られ、緋網代與乗用を許さる。舊領主片倉小十郎氏、亦祈願所となし、永代供田として柳田(現所在地)新柳町新開二ヶ町を附し、畑數丁及毎年供米廿四俵の寄進ありたり。後東京柳島法性寺末となり寺運昌なり。寺寶に宗祖御眞骨、鶴飼供養經石、草山元政上人七律元賢評の眞筆、同草山二世惠明灯師の和歌三首一軸、久遠親師、中興三師の各本尊等を藏し。寺は白石公園(片倉城趾)、縣立中學の所在地にあり、附近に明治維新奥羽征討軍參謀長世良修藏及幕僚埋葬の墓碑、白石嘶宮城の信夫の古跡あり。更に鎌先温泉、小原温泉は里餘にして達す。

▲伊具郡

妙立寺

身延末 紫、一六 北郷村神次郎 伊藤 海秀

由緒沿革 法光山と號す、開基妙圓院日義尊尼、開山妙立院日圓上人、創立正安元年三月廿八日。開基は中森安藝守の息女たり。相州村岡殿に嫁す。村岡殿逝去の後、波木井實長公の後室となる。然るに公亦逝く。仍て尼となる。父の舊領忘れ難く、

日蓮宗寺院 ◎宮城縣 ◎牝鹿郡 ◎登米郡 ◎柴田郡  
當地に歸りて一寺を建立し、夫君實長公を開山とし自ら二世となる。中森の城趾現存して往昔の哀史を語る。初め末寺六ヶ寺を有せしも廢寺となり、内二ヶ寺は他山末となる。十一世の時、盜賊あり寺寶を奪取され、僅に御眞筆二、明師本尊一を藏するのみ。不忘山の遠望船岡温泉に近し。

▲牝鹿郡

久圓寺

孝勝寺末 紫、一五

石卷町石卷 谷川 海慧

由緒沿革 法音山と號し、宗祖の直弟波木井妙圓尊尼の創立に係り、初め本縣下柴田郡舟岡村にあり。元祿十一年故あつて現本山末となる。同十三年現地に移轉再興す、本山日相上人を開基とし開山を久成院日了上人とす。寺寶に日法上人の宗祖像を安置し、寺は牡鹿半島の西端にあり、眺望佳なり。

▲登米郡

心性寺

孝勝寺末 紫、二〇

北方村 乾 海郁

由緒沿革 月照山と號す、開基津田又四郎、開山善性院日近上人、創立寛永十三年四月廿八日。

長光寺

小湊末 平、二八

石森村石森 森 日元

由緒沿革 明治十五年五月創立。

▲柴田郡

蓮華寺

孝勝寺末 素、二〇

船岡村船岡 畠山 海宥

●巖手縣

▲西磐井郡

長昌院

孝勝寺末 素、二三

眞瀧村眞柴 梅森 寛義

由緒沿革 開基田村家、開山明了院日果上人、創立元文四年九月十日。

法泉寺

池上末 平、二四

中里村中里 早川 本榮

由緒沿革 妙光山と號す、開山日調上人。

▲江刺郡

蓮久寺

孝勝寺末 素、二二

岩谷堂町 渡邊 玄惠

由緒沿革 開基菊地吉右衛門、開山立花日讓上人、創立明治十一年十一月。

▲膽澤郡

久成寺

孝勝寺末 平、二六

前澤町前澤 押田 瑞宣

由緒沿革 開基三澤信濃守、開山日深上人。

▲上閉伊郡

智恩寺

孝勝寺末 平、一九

遠野町五地割 織田 貞善

由緒沿革 波木井山と號す、開基玄葉律師にして寛永三年二月創立す。初め千葉縣夷隅郡部田村にあり、同地徳性寺末なりし

日蓮宗寺院 ◎巖手縣 ◎西磐井郡 ◎江刺郡 ◎膽澤郡 ◎上閉伊郡 ◎下閉伊郡

◎宮城縣 ◎牝鹿郡 ◎登米郡 ◎柴田郡 ◎名取郡 ◎本吉郡 ◎栗原郡 四三四

由緒沿革 開基柴田内藏、開山蓮華院日宗上人。

▲名取郡

安國寺

孝勝寺末 平、二六

岩沼町南町 星 寛瑞

由緒沿革 開基佐藤岩五郎、開山立花日讓上人、創立明治十二年二月六日。

▲本吉郡

眞如寺

孝勝寺末 平、二九

御嶽村馬籠 玉木 信解

由緒沿革 實相山と號す、明治十六年十月創立。

▲栗原郡

一乗寺

孝勝寺末 平、二五

藤里村大里

由緒沿革 開基白鳥徳治、開山日讓上人、創立明治十六年六月。

光明寺

小湊末 平、一九

畑岡村大立 久保田敬順

由緒沿革 開山日要上人。

も、明治廿二年十月八日當地に移轉再興し、現本山に轉末す。寺寶に宗祖本尊、波木井公尊像、宗祖立像等を藏す。

蓮乘寺

正法寺末 平、二三

大槌町大槌 遠藤 養泰

由緒沿革 寂照山と號す、開基蓮華日法上人、開山蓮乘院日顯上人、創立天正六年三月。元千葉縣山武郡小西村にあり、明治廿七年八月廿日現地に移轉再興す。

仙壽院

千葉長福寺末 平、二五

釜石町釜石 内山 堯政

由緒沿革 開山本寺二世日瑞上人、創立明應六年八月、明治四十二年八月、千葉縣印旛郡彌富村より現地に移轉再興す。

▲下閉伊郡

本照寺

藻原寺末 平、二二

宮古町舊館 兼荒居 養壽

由緒沿革 もと千葉縣長生郡水上村にあり、明治二十八年現地に移轉再興す。

●山形縣

▲山形市

大寶寺 池上末、中末三 七日町 大山 遵讓

由緒沿革 妙了山と號す、開山大教院日理上人、開基下野國王生城主鳥居彦右衛門尉元忠公の歸依を受け、慶長十丙午年、下總國森土に創立す。開基の嗣子鳥居左京亮忠政公、奥州岩城城に移封するに際し當山を同地に移し大寶寺を建つ。後元和八壬戌年、公、羽州山形城を領するに及び、山形市香澄町字大寶寺に移り、更に現地に轉ず。境内山門、本堂、庫裡、番神堂、塔中宗善院、土藏等あり、千歳山萬松寺へ一里、山寺立石寺へ三里とす。

宗善院 山形大寶寺末 七日町 關根 法鑑

由緒沿革 開山宗善院日修上人、創立元祿十二卯年。

本久寺 山形淨光寺末 七日町 阿部 榮厚

由緒沿革 開山止雄院日述上人、創立寛永八年七月。

淨光寺 身延末、中末三 八日町 石川 海啓

由緒沿革 開基出羽守義公、開山日滿上人、創立天正六戊寅年。

玄妙寺 山形淨光寺末 鐵砲町 畑 榮明

由緒沿革 開山日護上人、創立天正年中。

▲米澤市

善立寺 玉澤末 東寺町

由緒沿革 開基六條少將忠顯、開山大惠院日運上人、創立元亨二年二月十二日。

日朝寺 玉澤末、中末三 東寺町 玉木 晃成

由緒沿革 開基村田大隅守、宗祖を開山に仰ぐ、創立文永十一年。元眞言を宗とし後本宗に改む。

▲北村山郡

常信寺 小湊末 尾花澤村 隴氣 寒河江宣榮

由緒沿革 開山本法院日圓上人。

壽遠寺 大光山末 東根町 東根

由緒沿革 開山日瑞上人、創立明曆四年六月六日。もと新潟縣高田市寺町にあり、大正三年八月現地に移る。

▲南村山郡

妙正寺 山形大寶寺末 上ノ山町 小野 鍊雄

由緒沿革 開山大教院日因上人、創立寛永年中。

本行寺 中山末 西郷村 高松 鈴木 顕光

由緒沿革 もと静岡縣田方郡三島町辰巳にあり、明治三十二年六月現地に移る。

▲西村山郡

▲東置賜郡

常在院 實相寺末 糠野目村

由緒沿革 開山六老日興上人、創立天文年間にして、もと本山所在地にあり、明治年間現地に移る。

▲西田川郡

本住寺 大光山末、中末一 鶴岡町七 島田 本解

由緒沿革 開山觀妙院日受上人、創立永正十三年三月。

蓮乘寺 身延末、中末一 鶴岡町最上町

由緒沿革 開山中老日祐上人。

常福寺 山形本住寺末 加茂町

由緒沿革 開山立善院日道上人、創立慶長五年七月。

▲飽海郡 (羽後國)

眞學寺 山形蓮乘寺末 松嶺町 南新 小林 本澄

由緒沿革 開山日理上人、創立承應元年五月。

法興寺 京本満寺末 稲田村

由緒沿革 觀廣山と號す、開基齋藤興一郎、開山妙光院日圓上人、創立天明四年。もと秋田縣南秋田郡土崎湊町にあり、明治四十二年二月現地に移る。

本壽院 山形大寶寺末 寒河江町 松浦 慈徳

由緒沿革 開基佐藤彌兵衛、開山智清院日靜上人、創立嘉永三年四月廿八日。

蓮成寺 東京法明寺末 西五百川村 大山 遵雄

由緒沿革 長慶山と號し、初め寛文元辛丑年十一月、武藏國北豐島郡高田村雜司ヶ谷法明寺十三世日延上人、同地に創立、自ら開山となり現寺山號を稱す。明治二十八年八月二十四日官許を得、同年九月二十五日現地に移轉す。再興の祖は石川日清上人とす。寺は前に最上川あり、後に翠然たる山あり、山水の景一時に臻る。

▲東村山郡

法傳寺 身延末 高瀬村 中里 工藤 觀全

由緒沿革 明治十三年十月創立す。

妙法寺 山形淨光寺末 天童町 天童 渡邊 海諸

由緒沿革 開山智亮院日紹上人、創立享保十四年八月。もと觀月庵と稱し、明治年中現寺號に改む。

▲南置賜郡

玉泉寺 玉澤末 窪田村 窪田 嶺村 日教

由緒沿革 開基竹田藏人、開山玉澤二世日成上人、創立嘉元元年四月廿八日。

●秋田縣

▲秋田市

久城寺

本満寺末、中末五  
緋、一八

寺町

由緒沿革 顯乘山と號す、開山日有上人とす。

傳法寺

本満寺末、中末二  
紫、二一

寺町 鹿兒島榮穩

由緒沿革 照高山と號す、開山正行院日法上人、創立永祿元年三月。

法華寺

本満寺末、中末二  
紫、二三

寺町

由緒沿革 久遠山と號す、開山久遠院日尊上人、創立文龜二年四月。

本妙寺

身延末、中末四  
緋、一九

寺町 小野 日延

由緒沿革 妙光山と號す、開山妙光院日銀上人、創立永祿三年八月。

▲南秋田郡

見性寺

秋田久城寺末  
紫、一九

土崎湊町清 佐藤 眞亮  
水町

由緒沿革 塚原山と號す、開基字垣十藏秀行、開山見性院日行上人、創立寛永十一戌年。

實成院

秋田久城寺末  
紫、二四

土崎湊町旭町 齋藤 圓海

鬼子母神像(長八尺餘、親師本尊並一切經を腹籠とす)等あり。

本光寺

秋田本澄寺末  
平、二五

森岳村岩瀬 太田 溫靜

由緒沿革 普明山と號す、開山日念上人、創立明治十三年四月。

覺應院

秋田本妙寺末  
平、二六

澤目村水澤 藤井 慈良

由緒沿革 光妙山と號す、開山覺應院日清上人、創立延寶元年七月。

▲北秋田郡

孝音院

本満寺末  
平、二六

米内澤町

由緒沿革 開山本山十五世日宥上人、もと京都市上京區鶴山町にあり、明治二十八年四月移轉再興す。

法華寺

秋田久城寺末  
平、二七

阿仁合町銀山 柴田 寛柔

由緒沿革 金銀山と號す、開基能登の住人山王丸七兵衛、開山本行院日元上人、元和元年四月現地に創立、後明暦年間泉州堺の人阿知子孫右衛門當郡米内沼へ移轉し、更に元祿四年、寺社奉行の取調を受けて舊地現地に復歸す。

安立寺

東京承教寺末  
平、二八

花岡村神山 桑原 耀戒

由緒沿革 もと東京市芝區二本榎にあり、明治卅二年移轉再興。

▲河邊郡

實相寺

秋田本妙寺末  
平、三〇

新屋町 深井 宣教

由緒沿革 眞如山と號す、開山中正院日禪上人、創立元祿元年

由緒沿革 涌出山と號す、開山平等院日慧上人、創立寛政七年八月。

本住寺

秋田傳法寺末  
紫、二五

土崎湊町琴平 村山 一義

由緒沿革 湊圓山と號す、開山本住院日慧上人、創立慶長元年五月。

寶塔寺

秋田久城寺末  
平、二五

寺内村八橋 小野 宣瑞

由緒沿革 塚原山と號す、開山日悟上人、創立寛文十二年。

義林院

秋田久城寺末  
平、二四

船越町 小黒 春要

由緒沿革 法雨山と號す、開山修善院日顯上人、創立天保六年八月。

宗延寺

秋田本妙寺末  
平、二一

五城目町下町

由緒沿革 本光山と號す、開山玉泉院日潤上人。

▲山本郡

本澄寺

身延末、中末一  
緋、一九

能代湊町長 根町

由緒沿革 經王山と號す、開山實成院日慶尼、開基島田治右衛門(心定院と云ひ三代)、天正十八年創立。開山は藩主義宣公の室大樹院の妹たり。享保五年、開基身延に登り、卅一世遠沾亭師より寺山號を受け、自費を投じて七堂伽藍を建立す。明治十四年十月祝融の災あり現堂宇は其後の經營になる。寺寶に宗祖及親師の本尊及藩主佐竹公寄進の三十番神、開基妻タケ女寄附の

六月。

▲由利郡

妙慶寺

身延末、中末一  
紫、二五

龜田町最上 東海林海陽 町

由緒沿革 顯性山と號す、開基岩城伊豫守隆景、開山圓盛院日砌上人、創立寛永六年四月八日。

蓮成院

秋田妙慶寺末  
平、二八

象潟町鹽越 池田 智明

由緒沿革 久遠山と號す、開山蓮成院日正上人、明治七年、本寺妙慶寺に合併せられたる廢寺なりしが、瑞雲院日潤上人の法功により、修得院日竟上人、明治十二年十二月十九日現地に移轉再興す。

高照寺

池上末  
平、無等

本莊町

由緒沿革 長榮山と號す、開山久遠院日涌上人、創立慶長十八年七月。

▲仙北郡

本善寺

本満寺末  
平、二八

刈和野町刈和野 柴田 寛栗

由緒沿革 長榮山と號す、開山久遠院日涌上人、創立慶長十八年七月。

法久寺

秋田法華寺末  
素、二六

大曲町大曲 金森 察祥

由緒沿革 雷祈山と號す、開山大教院日進上人。

本善寺

本満寺末  
平、三〇

六郷町 中田 慈苑

由緒沿革 長應山と號す、開基山崎五兵衛、開山日宣上人、創

立天正十四年。

**學法寺** 身延末、中末二 素、二三 角館町 平元 順詔

由緒沿革 妙榮山と號す、開基若名義勝、開山戒成院日盛上人、創立慶長十三年五月十三日。

**妙德寺** 秋田學法寺末 平、二六 角館町岩瀬

由緒沿革 大塚山と號す、開基磯野吉左衛門及長松谷徳十郎、開山了心院日祐上人、創立元祿九年九月十九日。

**妙法寺** 秋田學法寺末 平、二六 長信田村太田

由緒沿革 惣行山と號す、開基高員三之助(甲斐日淨)、開山妙心院日運上人、創立弘化三年九月、初め妙法庵と稱し、本村惣行にあり。現住再興の志を發し、明治十年九月、本堂庫裡を新築し、同十九年四月、妙法寺と寺號公稱す。會ま同廿九年八月、大震災に罹り、堂宇全潰す。爾來辛醜を嘗め同卅五年十一月、移轉の許可を得、同卅六年六月、現地に再興落成を見たり。

▲平鹿郡

**覺善寺** 玉澤末 素、二五 角間川町 藤原 玄通

由緒沿革 本妙山と號す、開基小國嘉右衛門、開山智玄院日惠上人。

**正法寺** 本滿寺末 素、二四 横手町寺町 金 義鑑

由緒沿革 佛眼山と號す、開基齋藤與一郎、開山正法院日意上人、創立寛永十七年三月。

●福島縣

▲福島市

**東光寺** 池上末 平、二二 森合狐塚 篠塚 惠定

由緒沿革 初め千葉縣夷隅郡西畑村松尾にあり、同郡中川村光福寺末たり、明治四十二年四月現地に移轉し現本山に轉末す。

▲若松市

**淨光寺** 身延末、中末二 紫、二四 天寧寺町 内山 海俊

由緒沿革 法紹山と號す、開基松平肥後守正之、開山日蓮上人、創立寛永二十年九月。

**妙隆寺** 福岡淨光寺末 平、三〇 天寧寺町

由緒沿革 開山日然上人。

**法華寺** 小湊末 平、二二 中六日町 森本 日露

由緒沿革 隆國山と號す、開基加藤左馬之助、開山日榮上人。

**久福寺** 妙宣寺末 素、二五 甲賀町 倉島 智達

由緒沿革 長照山と號す、開山日圓上人、創立元弘二壬申年五月。

**大法寺** 身延末 素、二四 川原町 石原 貞山

由緒沿革 開山日如上人、創立萬治元年五月。

**妙晴寺** 池上末 平、二五 横手町平城 齋藤 純正

由緒沿革 光福山と號す、開山玄學坊、永祿三年三月創立。明治廿三年六月廿七日、千葉縣夷隅郡西畑村庄司より、本郡朝倉村に移り、同廿四年七月六日、更に現地に轉す。同廿七年十月五日、本堂建築し寺運將に盛なり。

**福聚寺** 中山末 平、二六 田根森村田根森

由緒沿革 初め要法山善立寺と號し、千葉縣香取郡滑川町西大須賀にあり、開基宮治良左衛門、開山東泉坊日泉上人、慶長十年九月七日創立し、同郡御門村清龍寺末たりしも、明治年間横濱市北方町妙香寺末たり、後大正二年三月現本山に轉末し、次で現寺號に改め現地に移轉す。

▲雄勝郡

**日善寺** 山形日朝寺末 平、二五 湯澤町浦町 川崎 日榮

由緒沿革 智證山と號す、開基中林多郎左衛門、開山智證院日受上人、創立慶長四年。

**本行寺** 山形日朝寺末 平、二七 横堀町横堀 吉水 義榮

由緒沿革 圓乘山と號す、開山智證院日受上人。

▲鹿角郡

**本光院** 青森妙光寺末 平、二五 毛馬内町 田利 志要

由緒沿革 開基山本久治、開山日宗上人、創立正保二年八月。

▲石川郡

**長福院** 東京妙福寺末 平、等外 澤田村澤井

由緒沿革 開基鈴木藤右衛門、開山亮生院日乘上人、享保十六年十二月創立す。明治廿年四月、増子友右衛門再興開基檀那と成り、同卅一年十二月、神奈川縣都築郡柿生村上麻生より移轉再興す。石造の長二丈餘の毘沙門天あり。

▲東白川郡

**長久寺** 身延末、中末一 緋、一九 棚倉町花園 菅原 海順

由緒沿革 開基太田備中守、開山日享上人、創立寶永四年五月十二日。

▲西白川郡

**妙關寺** 弘法寺末、中末一 紫、一八 白河町金 卷 亮穩

由緒沿革 開會山と號す、開山貞明院日總上人、創立寛保元年辛酉年十月、開山は白河領主松平大和守の香華寺たる永壽寺の住職たり。然るに寛保元年、大和守播州姫路に移り、永壽寺亦共に轉す。當時白河に本宗寺院なし、仍て開山此地に留り、後の領主松平越中守に請ひて永壽寺跡に創立せしものを當山とす。境内鬼子母神堂及百五十一歳の長壽者林利左衛門の碑あり。

▲相馬郡

**佛立寺** 小湊末 素、二五 中村町宇多川町 青木 海宣

日蓮宗寺院 ●福島縣 ●石城郡 ●雙葉郡 ●河沼郡 ●岩瀬郡 ●伊達郡  
由緒沿革 法王山と號す、開基池田直助、開山日領上人、創立  
寛永八年九月。

▲石城郡

本行寺 身延末 素、二四 神谷村上片寄 高橋 宣潮  
由緒沿革 東鶴山と號す、開基片寄六良義忠、開山日辨上人、  
創立正應三庚寅年。

大寶寺

池上末 平、二〇 平町大館 小林 智興  
由緒沿革 妙了山と號す、開山大教院日理上人、開基井上河内  
守、二十三世智修院日義上人中興す。寺寶に宗祖及親師本尊を  
藏す。

安立寺

身延末 平、二六 玉川村岡小名  
由緒沿革 妙覺山と號す、開基見理院日透上人、開山中老日辨  
上人。

善行院

千葉上行寺末 平、二四 小名濱町下町  
由緒沿革 明治四十二年四月、千葉縣夷隅郡東村より現地に移  
轉再興す。

▲雙葉郡

妙勝寺

妙本寺末 平、二九 新山村新山 加藤 海音  
由緒沿革 明治廿九年九月神奈川縣鎌倉より現地に移轉す。

●青森縣 第一部 (青森組)

▲青森市

蓮華寺 京妙顯寺末、中末一 寺町 角田 堯現  
由緒沿革 廣布山と號す、開基信玄院日住上人、開山六老日持  
上人、創立永仁三年三月。

▲弘前市

法立寺 本滿寺末、中末六 新寺町 八戸 隨靜  
由緒沿革 寶幢山と號す、開山玉持院日尋上人、創立天文二年  
五月。

本迹院

南榮院

青森法立寺末 素、二三 新寺町 最上 威誠  
由緒沿革 開山本迹院日運上人、創立正保二年三月。  
青森法立寺末 平、等外 新寺町  
由緒沿革 開山南榮院日淨上人、創立寛文四年四月。

▲南津輕郡

妙經寺

大光山末、中末一 黒石町寺町 最上 威明  
由緒沿革 法輪山と號す、開基惠賢院日饒上人、開山江東院日  
然上人、創立永祿三年八月。初め本郡淺瀬石村を去る南方八丁  
の小丘にあり。弘治二年相州濱殿法華寺日弘上人の資、江東院日

日蓮宗寺院 ●青森縣第一部 ●青森市 ●弘前市 ●南津輕郡 ●北津輕郡

▲河沼郡

妙運寺 身延末 平、等外 氣多宮村船渡口  
由緒沿革 開基平野吉兵衛、創立明治十三年一月。

▲岩瀬郡

妙經寺 長久寺末 平、二三 須賀川町森宿 鈴木 善要  
由緒沿革 長久山と號す、開基釋順察内山半兵衛、開山妙牙院  
日要上人、創立明治十六年五月。

▲伊達郡

妙傳寺 根本寺末 紫、二六 梁川町鶴岡 小田 海耆  
由緒沿革 初め新潟縣佐渡郡にあり、明治二十六年四月現地に  
轉じ、次で同三十二年八月平僧跡より現格に昇る。

然上人の開くところ、淺瀬石城主千徳大和守の祈願所として大  
王山法輪寺と號せしが、慶長二年八世日明上人の時、城主重信  
不幸落城と共に當山亦兵燹に罹る。依て黒石より十八町五輪台  
の地に轉ず。宛も弘前本行寺の日住上人、一字建立の志願あり、  
津輕土佐守信義公より現地を拜領し、弟子日饒に付す。日饒乃  
ち丹精、以て堂宇を營み、本園山妙經寺と號せしが、五輪台の  
法輪寺、久しく無住にて檀家一同の願により、現寺山號を稱し  
て兩山一寺となすもの即ち當山とす。寺寶に中老日辨上人の珠  
數玉、中興三師の本尊等を藏し、庭園の大榎樹高さ數丈、周圍  
一丈二尺五寸、冬期氷柱の此に懸るや、樹枝地に伏して宛も大  
瀑布の如く、一大奇觀を呈す。

法光寺

青森法立寺末 素、二一 藤崎村藤崎 高橋 玄暢  
由緒沿革 梅田山と號す、開山本寺南榮院日淨上人、創立寛文  
十二壬子年五月、初め梅田村にあり。元祿八己亥年八月、本山  
京本滿寺廿五世日念上人、奥州弘通の砌、梅田山法光寺の寺山  
號を贈らる。同九年當山三世智歎院日行上人梅田村より現地に  
移轉再興し、以て今日に至る。寺寶に傳教大師彫刻の鬼子母神、  
津輕信重公の畫軸等を藏す。

日精寺

遠光寺

青森法立寺末 平、二五 大鰐村大鰐 藤田 迥隨  
由緒沿革 本立山と號す、開山日精上人、創立元祿四年二月。  
青森妙經寺末 平、二四 山形村湯場 盛 威山  
由緒沿革 開山日亮上人、創立延寶七年三月。

▲北津輕郡

日蓮宗寺院 ◎青森縣第一部 ◎西津輕郡 ◎東津輕郡 ◎三戸郡 ◎青森縣第二部 ◎弘前市 四四四

**弘法寺**

青森法立寺末 紫、一六

中里村中里 金 泰俊

由緒沿革 薄市山と號す、開山實成院日光上人は本寺七世たり、慶長十乙巳年、當郡薄市村に薄市山實成寺を創立す。四世妙靜院日禪上人は本寺十三世にして、薄市村檀方勤く、中里村に多きを以て延寶元癸丑年現地に移轉再興し、今の寺號に改む。同三年、本堂及庫裡をも新築し、爾來歷世寺門を經營して今日に至る。

**妙乘寺**

青森法立寺末 平、二二

金木村金木 武田 韻淨

由緒沿革 青蓮山と號す、開基本住院日良上人、開山唯法上人、創立正徳四年八月廿一日。

▲西津輕郡

**實相寺**

大光山末、中末二 紫、一五

木造町 間宮 琢秀

由緒沿革 法光山と號す、開山實相院日成上人、創立元祿二年七月。

**永昌寺**

京妙顯寺末 紫、二一

綾ヶ澤町漁師町

由緒沿革 海聚山と號す、開山弘法院日護上人、創立寛文四年八月。

**要心庵**

青森實相寺末 平、二四

館岡村筒木坂 荒關 迥耀

**要法庵**

青森實相寺末 平、等外

稻垣村下繁田

▲南津輕郡

**法嶺院**

青森本行寺末 素、二〇

六郷村上十川 千葉 教善

由緒沿革 寶館山と號す、開基唯乘院日宣上人、開山六老僧日持上人、創立正應四年正月(或寛政年中)。寺寶に傳教大師作妙見大士像、楠公所持の神鈴一個あり、日持上人眞筆寶塔は境内にあり。

▲北津輕郡

**法永寺**

青森本行寺末 素、二一

五所川原町 宮本 泰教

由緒沿革 隆光山と號す、開山通心院日意上人、創立天和九年十月。

**長延寺**

青森本行寺末 紫、二二

板柳村 三上 榮運

**妙光寺**

青森本行寺末 平、二八

小阿彌村柏木 工藤 惠恭

由緒沿革 圓應山と號し、慶長四己亥年五月五日、梅田村に草創す、遠明院日光上人を開山とす。其の後暫く廢寺たりしが、延寶三乙卯年、京都本満寺の閉龍院日應上人當地に來り再興す。元文三戊午年、教應院日勇上人、隣村柏木村に移し中興開山となる。

**正行寺**

青森本行寺末 平、二五

小泊村 工藤 觀明

由緒沿革 法廣山と號す、開山義祐、創立寛永四年七月。

日蓮宗寺院 ◎青森縣第二部 ◎南津輕郡 ◎北津輕郡 ◎中津輕郡

由緒沿革 開基要法法師、創立文政元年三月。

▲東津輕郡

**闍法寺**

蓮華寺末 平、二二

平館村石崎 田中 迥學

由緒沿革 宇田山と號す、開基威鶴、開山日照上人、創立安永八年五月。

▲三戸郡

**妙光寺**

京妙顯寺末、中末一 平、等外

三戸町 梅内 長谷川順靜

由緒沿革 開山顯壽院日宗上人、創立慶長二年五月。

◎青森縣 第二部 (弘前組)

▲弘前市

**本行寺**

大光山末、中末九 緋、一五

新寺町 協 鳳立

由緒沿革 妙法山と號す、開山妙覺院日健上人、創立天正六年三月。

**受源院**

青森本行寺末 素、二四

新寺町 工藤 俊了

**滿行院**

青森本行寺末 平、三〇

新寺町 寺尾 觀秀

由緒沿革 開山滿行院日秀上人、創立延寶五年七月。

▲中津輕郡

**感應寺**

青森本行寺末 素、二五

船澤村富榮 横山 要秀

由緒沿革 七面山と號す、開山圓乘院日眞上人、創立寛保元年五月。

**道圓寺**

青森本行寺末 平、二五

川除村 飛鳥 諦如

由緒沿革 開基道圓日明法師、創立天和元年十二月。

●北海道 第一部 (東部)

▲函館區

實行寺

身延末、中末一二  
八

船見町 山本 顯秀

由緒沿革 一乘山と號す、開基荒木長吉、開山實行院日淨上人、創立正徳四年五月十七日。

常住寺

身延末、中末二  
一〇

相生町 鈴木 鍊榮

由緒沿革 久成山と號す、開基大野六兵衛唐澤善治郎、開山文明院日薩上人、創立明治十六年十一月十六日。

▲松前郡 (渡島國)

法華寺

本満寺末、中末六  
一六

福山町東

貫名 日軌

由緒沿革 妙光山と號す、開基久遠院日尋上人、開山蓮華阿闍梨日持尊者、創立正徳四年(或徳治元年)とす。開山は六老僧の一、俗姓は源氏、甲斐南部の一族、駿河國庵原郡松野の地頭、松野六郎左金吾政行の猶子、京都西花門院源藏人行泰の三男、幼名松千代(行泰は源義經の裔也と)、初め天台に入り能登坊と稱し、後鎌倉に到り宗祖に隨從し名を日持と賜ふ。時に年廿一歳、文筆第一と稱せらる。宗祖鶴林の後、松野に服喪し、正徳四年正月元日、海外布教の大願を發し、弟子日教に後事を付し、飄然發錫、奥羽二州を弘通し、六月一日津輕外ヶ濱石崎より出船、蝦夷地に渡航す(奥州石崎各地に舊蹟あり、今の平館

村の字となる)。已にして渡島國龜田郡(錢龜澤に尊者着船の地、港と云ふあり)に着し、志苦石崎(今に遺蹟あり)等各地に到り、土人を教化して王化を布き、蝦夷内地交通の路を開く(津輕甚平其他を説きて一族を初め移住せしむ)。是より土人又内地よりの渡航者に害を加へず、雜居するに至る。蓋し内地人移住開拓の始ならん(尊者津輕石崎より渡航せし故に此地一般に石崎と稱す、後年各村に別る)。而して未だ付法の器なきを以て、自ら宗祖及諸尊の木像を彫刻し、一字一石と共に土中に埋む、後人これを後生塚と稱す(宗祖像は弘安二年松野に於て他は蝦夷滯錫中の作なり)。當時土人等尊者の名を云はず、たゞ「シヤモ」又は「法華」と呼ぶ(今に内地人をシヤモと呼ぶ沙門の誤稱歟)。尊者渡島に滞在する四年の後、渡唐に際し、函館臥牛山頂の岩石に首題七字、左右に日月二天子を書し(蓋し帝國の元標に備へしもの歟)。惠山の麓より土人の丸太船に乗じ、土人を案内として東海岸を巡り、千島海を横ぎり、樺太州を経て滿洲に航し、進で大元に入ると云ふ。其終る所を詳にせず。尊者出船の地は今の假法華なり。假は渡唐を意味し元渡唐法華なりと云ふ。樺太州には今尙題目碑あり、尊者の建つる所と傳ふ。尊者發船の後十數年、徳治元年、土人檜山郡上ノ國小堀の地、尊者が經石を埋め給ひしを感得し、一の小堂を建つ。これ當山創立の濫觴たり。康正年間堂を改築して初めて法華堂と呼ぶ。享祿元年五月、京本満寺塔頭久遠院日尋上人、奥羽を弘通し、津輕に留錫し、一寺を創建し、後蝦夷地に渡り尊者の遺蹟を追慕し、上ノ國小堀に到り經石を拜し、法華堂を改めて妙光山法華寺と稱し、尊者を開山に、自ら二世となる。松前氏居城を福

山に移すに及て法華寺亦尋て移れり、現今所在地これなり(小堀法華堂は今の江差成翁山十四世成翁院日窓上人分離して之に復し自ら院號を以て山に銘じ、法華寺と稱すこれなり)。六世日安上人の時、本満寺より日尋上人の緣故を以て其請を入れ、慶長四年六月、同寺末となり、別格土席中本寺を以て遇せらる。嘉吉三年、松前家老臣小林三左衛門源良景(安部の孫、津輕を領せしが、南部義政と戦ひ敗れ、此際其黨と共に來航す)、曾て其所領石崎、志苦地方を巡檢せしに、土中より其名を呼ぶこと三度、又數々靈夢あり、依て土中を探るに果して宗祖尊像を得(前記尊者の眞作記名あり)、且住民の説を聞て偉徳を仰ぎ、尊像を感得して改宗す。後四世友治これを當山に納む。天和二年三月領主松前家は佛供米及金若干を永代寄附し(同家轉國後幕府奉行支配中も先規通寄附)、幕府は奥羽二州日蓮宗觸頭を命じ、徳川家大奥より葵御紋法衣並戸扉水引幕等を宗祖尊像に寄附し、小笠原伊勢守松前奉行たりし時、境内地を増付し、文化二年六月村雲瑞龍寺門跡は緋紋白袈裟並網代乘輿を許され、明治廿六年九月永代御祈願所を命じ、御紋章幕燈提並表構筋塀を寄せられ(現住代)同廿八年九月、小松大將宮彰仁親王殿下より本堂額面「北海唱導發軔靈窟」、祖堂額面「願滿殿」の御染筆を拜受す(同代)、中古祝融の災に罹る事前後三回、就中明治五年十一月廿五日の如き、諸堂什具等悉く烏有に歸す。明治十四年六月、現住嗣法するや日夜寺門の再興に努力し、刻苦經營十有三年、遂に同廿六年に至り、本堂、祖師堂、大小書院、支關、方丈、庫裡等を再築し、佛具什器皆備る。元祿三年(十四世日窓代)末寺一ヶ寺あり、明治年間(現住代)末寺六ヶ寺を創立し、寺運益々昌

▲龜田郡

妙應寺

函館實行寺末  
緋、一七

錢龜澤村石崎 長田 啓學

法龜寺

函館實行寺末  
紫、二二

大野村向野 荒木 寛曉

護國寺

函館實行寺末  
平、二六

七飯村軍川 曲山 瑞照

▲檜山郡

法華寺

本満寺末、中末一  
紫、一九

江差町法 龜谷 泰山

法華寺

本満寺末、中末一  
紫、一九

華寺町 龜谷 泰山

法華寺

本満寺末、中末一  
紫、一九

華寺町 龜谷 泰山

法華寺

本満寺末、中末一  
紫、一九

華寺町 龜谷 泰山

法華寺

本満寺末、中末一  
紫、一九

華寺町 龜谷 泰山

法華寺

本満寺末、中末一  
紫、一九

華寺町 龜谷 泰山

法華寺

本満寺末、中末一  
紫、一九

華寺町 龜谷 泰山

法華寺

本満寺末、中末一  
紫、一九

華寺町 龜谷 泰山



▲茅部郡

一妙寺 函館實行寺末 素、二一 森村森 村上 壽温

由緒沿革 法榮山と號す、開基潮養院日有上人、開山養本院日定上人、創立安政四年七月。

龍王寺 函館實行寺末 平、二五 尾札部村川汲 北島 顯信

由緒沿革 八海山と號す、開基加我金左衛門、創立明治十五年十一月七日。

▲上磯郡

妙隆寺 函館實行寺末 平、二五 上磯村久根別 菊池 海達

由緒沿革 旭壽山と號す、開基道夢日經、開山松尾日隆、創立慶應元年三月。

▲爾志郡

十如庵 江差法華寺末 平、二五 乙部村突符

由緒沿革 開基唯能院日從、開山理正院日通上人、創立文政三年七月十八日。

▲壽都郡 (後志國)

法華寺 身延末 紫、二〇 壽都町渡島町 田島 智周

由緒沿革 經王山と號す、開山圓智院乾良日靜上人、創立明治十六年一月。

法華寺 函館常住寺末 平、二二 厚岸町 米澤 玄奈

由緒沿革 日朗山と號す、開基日朗菩薩、明治廿五年八月二十七日寺號を公稱し本堂を新築し、寺運益々隆昌とす。寺寶に宗祖文永九壬申年三月、阿佛坊夫婦へ授與の一返首題を藏し、附近に土人城跡等あり。

▲三石郡 (日高國)

北門寺 函館常住寺末 平、二〇 三石村姨布 飯田 榮苗

由緒沿革 大寶山と號す、初め明治卅一年本寺住職松森靈運上人當地に分教して講社を結び、翌卅二年十一月八日現任教會所を設立し、同卅四年十一月廿六日寺號を公稱し、單身弘法に力を注ぐ。

▲室蘭郡 (膽振國)

妙傳寺 函館實行寺末 平、一八 室蘭町常盤町 廣瀬 惠秀

由緒沿革 創立明治卅八年十月十日。

▲有珠郡

妙榮寺 函館實行寺末 平、一九 伊達村西紋籠 大越 潮學

由緒沿革 創立明治十五年三月十五日。

十四年二月五日。明治維新の頃松丸啓琢なる者原野に妙見堂を創む。明治八年十月小教院の許可あり、同十三年六月竹内乾良交代、大に發展に盡力し、同十五年、身延日鑑上人巡錫の砌、寺山號公稱の手續を爲し、同十七年一月十日許可あり身延末となる。次て三十二年身延日良上人御巡錫に際しては、永代紫金跡を許さる。大正三年現住大に寺門經營に努力し、大正六年九月本堂の新築を見たり。

▲磯谷郡

登順寺 福山法華寺末 平、二四 磯谷村島古丹 清水 辨教

由緒沿革 開基金谷嘉右衛門、明治二十三年一月二十二日新寺建立す。

▲瀨棚郡

龍光寺 身延末 平、二四 瀨棚村瀨棚 關 厚勇

由緒沿革 創立明治四十一年七月廿九日。

▲島牧郡

本光寺 身延末 平、二六 東島牧村本目 出口 義鑑

由緒沿革 創立大正四年六月八日。

▲厚岸郡

法華寺 中山末 紫、二二 濱中村榊町 獅子原善量

●北海道 第二部 (西部)

▲札幌區

經王寺 身延末、中末五 豐平町 松井 日量

由緒沿革 妙法華山と號す、開基大岡助右衛門、開山松井寛義、現住は其資たり、創立明治十三年四月二日。

▲札幌郡 (石狩國)

日登寺 函館實行寺末 平、一九 琴似村琴似 中條 良啓

由緒沿革 義徳山と號す、開基渡邊海深、開山松井寛義、創立明治十五年三月十五日。

光明寺 札幌經王寺末 紫、一八 琴似村新琴似 田中 耀運

由緒沿革 經王山と號す、現住明治卅九年一月廿四日布教に着手し、同年九月十七日身延日良上人を請じて入佛式を擧げ、同四十年八月卅一日創立す。

本龍寺 石狩金龍寺末 平、二一 札幌村 伊藤 瑞玄

由緒沿革 妙見山と號す、開基青野舎也、開山外山貞妙、創立明治四年三月三日。

昌福寺 札幌經王寺末 平(未査定) 廣島村音江別 片岡 道喜

由緒沿革 妙榮山と號す、現住明治廿五年山口縣より來りて開墾に従事し、同卅二年教會所を創設し、四十四年四月廿八日本

日蓮宗寺院 ◎北海道第二部 ◎空知郡 ◎石狩郡 ◎夕張郡 ◎厚田郡 ◎上川郡 ◎小樽區四五〇  
堂建築、大正五年九月廿八日寺號公稱して、寺門經營す。

▲空知郡

東漸寺 身延末 紫、一七 岩見澤村 沼上 光學

由緒沿革 創立明治卅一年十月廿六日。

妙法寺 札幌經王寺末 素、一九 三笠山村幌内 栗原 泰洲

由緒沿革 一乘山と號す、開基瀧昇外六名、創立明治卅七年四月廿一日。

妙法寺 身延末 平、一九 歌志内村神威 安田 寛恭

由緒沿革 創立明治卅八年八月三十日。

法宣寺 夕張廣宣寺末 平、二二 沼貝村光珠内 鈴木 圓超

日勝寺 身延末 平、一九 瀧川町 城守 智順

由緒沿革 城守山と號す、初め明治二十八年七月當町廣小路に妙法講中山結社(深川慈眼寺西村全隆受持)を設立し、同年十一月百崎賢定主任たり。會ま三十一年秋石狩川汎濫して當地一圓流失し、主任は漸く身を以て脱れ、同年十二月更に現地所の無償下付を出願し、同三十二年八月許可あり、一堂宇を建築す。後三世を経て、同三十八年四月、城守智順の赴任するや、専ら寺門を經營して怠らず、殆ど私財を投じて假本堂を建立し、同四十一年一月寺號を公稱して城守山日勝寺と銘す。爾來現住相嗣て寺門の經營に任じ、基本財産を確立し、本堂庫裡を改築し、殆ど面目一新して寺運益々盛なり。

▲石狩郡

金龍寺 函館實行寺末、小末三 石狩町 増田 見猛

由緒沿革 寶珠山と號す、開山明珠院日現上人、創立安政六(或三)年九月。初め金龍庵と稱す、二世明耀院日省上人に至り寺號公稱す、實に明治八年なり。爾來再三火災等の難あり、現住専ら寺門を經營す。寺は石狩川の河口にあり、壯絶比なし。

▲夕張郡

廣宣寺 札幌經王寺末、小末一 由仁村 高橋 智眼

由緒沿革 創立明治卅八年三月十五日。

大法寺 札幌經王寺末 平、二四 登川村 中野 春義

由緒沿革 創立明治四十二年二月十八日。

▲厚田郡

厚龍寺 石狩金龍寺末 平、一九 厚田村

由緒沿革 創立明治廿八年十一月八日。

▲上川郡

妙法寺 身延末 平、一三 旭川町牛朱別 釋 英儀

由緒沿革 創立明治卅八年五月十七日。

▲小樽區 (後志國)

放光寺 本土寺末 平、一五 俱知安町南二線 足立 榮直

由緒沿革 白毫山と號す、明治卅五年十月、現住俱知安村北二線に創立し、大正三年十二月廿二日現地に移轉す。寺寶に養珠院殿御手織の祖像、其他釋迦像等を藏す。

▲中川郡 (十勝國)

妙經寺 身延末 平(未査定) 川合村利別太 百崎 賢定

由緒沿革 創立大正四年五月十日。

▲釧路郡 (釧路國)

法華寺 函館實行寺末 平、一四 釧路町米町

由緒沿革 もと布教山令闍寺と號し、開基村田潮叔、開山潮壽院日隆上人、創立明治十三年十月二十日、大正二年三月現寺號に改む。

▲枝幸郡 (北見國)

妙遠寺 身延末 平、一九 枝幸村 鴻池 了旭

由緒沿革 北見山と號す、現住開基にして明治四十一年七月廿八日創立す。

▲網走郡

大盛寺 福山法華寺末 平、二二 網走町北見町 田畑 惠善

由緒沿革 創立明治卅五年一月九日。

妙龍寺 石狩金龍寺末 平、一二 堺町 廣瀬 啓宣

由緒沿革 大法山と號す、開基西岡龍學、開山貞妙、創立明治六年三月。

妙國寺 身延末 平、一二 入船町 石田 長陽

由緒沿革 最上山と號す、開山惠方院日富、創立明治十六年九月廿四日。

▲岩内郡

蓮華寺 京妙顯寺末 平、一六 岩内町鷹臺町 中川 春亮

由緒沿革 妙殿山と號す、開基高柳智海、開山本山五十二世津川日濟上人、創立明治十一年九月十九日。

▲余市郡

法華寺 函館實行寺末 素、一七 余市町澤町

由緒沿革 妙圓山と號す、開山宮形威寛、創立明治十三年八月廿三日。

▲古平郡

正隆寺 身延末 素、一四 古平町濱町 大石 養淳

由緒沿革 法運山と號す、開山文明院日薩上人、創立明治十六年九月六日。

▲蛇田郡 (膽振國)

日蓮宗寺院 ◎北海道第二部 ◎岩内郡 ◎余市郡 ◎古平郡 ◎網走郡 ◎蛇田郡 ◎中川郡

日蓮宗寺院 ●北海道第二部 ●紋別郡 ●利尻郡 ●苫前郡 ●宗谷郡 ●留萌郡 ●根室郡 ●増毛郡 ●天鹽郡 ●留萌郡 ●四五二

▲紋別郡

妙進寺 身延末 平、二二 紋別村

▲利尻郡

本立寺 本成寺末 平、一八 鴛泊村本泊 小堀 本立

由緒沿革 淨修山と號す、現住の開基にして明治卅六年四月十七日寺號公稱す。寺は遠く北見富士を仰ぎ三里遙々の西南には禮文島あり、北方に宗谷岬を望みて風光可なり。

▲宗谷郡

大慶寺 身延末 平、二一 稚内町山下通 加世 本韻

由緒沿革 創立明治卅五年三月七日。

▲根室郡 (根室國)

常性寺 身延末 紫、一四 根室町光和町 増田 鳳明

由緒沿革 本覺山と號す、開基細川鶴松、折原周造、佐々木重右衛門、開山身延日鑑上人、開拓使設置以來土地の殷盛に伴ひて必要を感じ、明治十五年九月身延所轄の説教所を設け、同二十一年三月寺號を公稱し、三十一年三月本堂を落成し、大正五年一月九日庫裡改築し、爾來寺運盛んに、寺實には重乾遠三師の本尊等あり、境内浩蕩たる大洋を一望に收めて天空海濶の絶景たり。

▲上川郡 (天鹽國)

法華寺 身延末 平(未査定) 名寄町五條通 森角 英進

由緒沿革 經王山と號す、創立大正三年十二月十一日。初め名寄村開村の當時明治卅八年七月、釋英儀宗祖尊像を奉じて旭川より轉住し、同卅九年名寄西一條南四丁目に速成教會を創む。同四十二年七月同師旭川妙法寺に轉住の後を受けて、現住専ら經營の任に當り、同四十三年六月現地を購入し、本堂庫裡を新築し且つ畑地を購入して基礎を確立し、大正三年十二月寺號を公稱す。

▲幌泉郡

大法寺 函館實行寺末 幌泉村

由緒沿革 創立明治廿七年九月十七日。

▲増毛郡 (天鹽國)

白毫寺 大光山末 紫、一六 増毛町暑寒澤 藤田 唯貫

由緒沿革 創立明治廿八年十二月廿七日。

▲天鹽郡

長遠寺 札幌經王寺末 平、二二 遠別村西一線

由緒沿革 創立明治四十一年二月一日。

▲苫前郡

妙宣寺 大光山末 平、二一 苫前村 森 壽桓

由緒沿革 明治卅年新寺創立す。

本澄寺 福山法華寺末 素、二〇 焼尻村

眞淨寺 身延末 平(未査定) 羽幌村南三條 桑門 教圓

由緒沿革 妙光山と號す、大正五年九月三日創立。

▲留萌郡

實相寺 福山法華寺末 平、二一 鬼鹿村

由緒沿革 創立明治卅二年五月廿七日。

法泉寺 身延末 平、二四 留萌町 三浦 義雄

由緒沿革 開基三浦義雄、創立大正三年九月十二日。

日蓮宗寺院 ●北海道第二部 ●上川郡 ●幌泉郡

宗務院直轄 寺院及布教所

▲朝鮮

護國寺	京城府旭町三丁目	加藤 清亮
妙覺寺	釜山西町二丁目	高佐 顯照
頂妙寺	元山旭町二丁目	中山 日運
照國寺	平壤水玉里南門町一丁目	早瀬 孝廉
妙法寺	慶尙南道鎮海面寺町	旭 寬成
仁川布教所	仁川府寺町四二	黒田 惠海
鎮南浦布教所	鎮南浦明岐町	尾崎 日新
郡山布教所	郡山府新興洞	原 默松
京城布教所	京城府新町二丁目	加藤 清亮
咸興布教所	咸興南道咸興東陽里	中山 日運
大邱布教所	大邱府八雲町	志田 慈鳳
木浦布教所	全羅南道木浦府竹洞	清水 玄正
光州布教所	同光州郡光州面西光山町	佐藤 玄靜
榮山浦布教所	同羅州郡榮山面榮山浦	佐藤 玄靜
裡里布教所	全羅北道益山郡裡里日出町	大橋 卽靜

▲滿洲

大田布教所	忠清南道太田郡太田面春日町	鹽澤 玄海
沙里院布教所	黃海道鳳山郡沙里院	石渡 日毅
兼二浦布教所	同 兼二浦	八木 嶺賢
延安布教所	同延白郡龍鳳面延安	深川 文明
水原布教所	京畿道水原郡水原面山櫻里	北村 大成
定州布教所	平安北道定州郡邑部面城外洞	武田 行叔
新義州布教所	同定州郡新義州櫻町	武田 行叔
馬山布教所	馬山府通町四丁目	岡本 潮照
羅南布教所	羅南初瀨町	三木 龍選
城津布教所	同城津町	渡邊 智善
永登浦布教所	京畿道永登浦町	柳原 學玄
開教司監	靜岡縣安倍郡千代田村本山蓮永寺住職	丹澤 日京
蓮華寺	奉天府十間坊	花木 卽忠
大連寺	大連市春日町	宇野 卽成
法華寺	安東縣六番通三丁目	川瀨 潮順

R. Oka. Nichiren Sect Church. 208-8th. Avenue. South, Seattle, Wash. U. S. A.

日清寺	旅順朝日町三丁目	峰松 文成
日蓮宗教會所	青島直隸町	篠田 泰學
同 布教所	鐵嶺敷島町四丁目	青山 慈啓
同	浦鹽斯德市	中山 日運
本國寺別院	上海南濶路十號	杉山 仁雅

▲布	哇	哇
開教司監	ホノルル市	高木 行運
日蓮宗布教院	G. Takagi. P. O. Box 754. Honolulu, Hawaii.	高木 行運
同	マウイ市	大場 玄勇
同	G. Oba. Wailuku, Maui Island. Hawaii.	大場 玄勇
同	パハラ市	布目 潮清
同	C. Numome. P. O. Box 33. Pahala. Kau. Hawaii.	布目 潮清

▲北	米	山下 義靜
法華寺	臺北八甲街	佐野 是秀
妙經寺	臺南草仔寮街	丸井 智選
嘉義布教所	嘉義廳西堡	小笹 海廉
基隆布教所	基隆哨船頭九四	堀部 行省
臺中布教所	臺南大竹里打狗	村上 圓要

日蓮宗布教所	614 East First st. Los Angeles, Calif.	山下 義靜
日蓮宗布教所	丘 龍潮	山下 義靜

大泊布教所	太泊西二條	寺澤 英海
楠溪布教所	太泊楠溪町大通	中井 泰山
豐原布教所	豐原東二條	岡部 乾淨
眞岡布教所	西海岸眞岡山下町五ノ八	島田 泰秀
泊居布教所	西海岸泊王老	寺澤 英海
留多加布教所	大泊郡留多加村	同
野田寒布教所	西海岸大通一ノ七	同
久春內布教所	久春內郡久春內村二ノ一二	同

日蓮宗寺院 ●布哇 ●北米 ●臺灣 ●樺太

日蓮宗寺院 ●鹿兒島縣 ●馬來半島

四五六

▲鹿兒島縣

教王教會所 鹿兒島市松原町

淺野 常瑞

▲馬來半島

布教所

英領馬來半島怡保市 原 智耀

外打捫

C. Hara, c/o Haraguchi.

No. 108, Hughlow Street.

1 poh Perak, F. M. S.

〔六〕日蓮宗名簿

◎總大五山歷世

▲身延山久遠寺歷世

(創立年時)龜山帝文永十一年  
(現今位置)甲斐國南巨摩郡身延村

開山 宗祖日蓮大菩薩

弘安五年十月  
十三日入滅

二世日	向	號佐戶阿闍梨、正安三年九月三日寂
三世日	進	號三位阿闍梨、元德二年十二月八日寂
四世日	善	號大法阿闍梨、正慶元年九月廿二日寂
五世日	臺	號鏡圓阿闍梨、貞治五年三月七日寂
六世日	院	號大法阿闍梨、慶安六年六月廿五日寂
七世日	叡	號上行院、應永七年五月七日寂
八世日	億	號行學院、應永廿九年十一月八日寂
九世日	學	號成就院、長祿三年十二月七日寂
十世日	延	號觀行院、寬正二年四月廿六日寂
十一世日	朝	號行學院、明應九年六月廿五日寂

日蓮宗名簿 ◎總大五山歷世

世十二日	意	號圓教院、永正十六年二月三日寂
世十三日	傳	號寶聚院、天文十七年十二月十七日寂
世十四日	鏡	號善學院、永祿二年四月廿五日寂
世十五日	敍	號法藏院、天正五年五月廿三日寂
世十六日	整	號琳光院、天正六年八月廿日寂
世十七日	新	號慈雲院、天正廿年八月十一日寂
世十八日	賢	號妙雲院、慶長四年閏三月十三日寂
世十九日	道	號法雲院、慶長六年十二月廿日寂
世二十日	重	號一如院、元和九年八月六日寂
世二十一日	乾	號寂照院、寬永十二年十月廿七日寂
世二十二日	遠	號心性院、寬永十九年三月五日寂
世二十三日	祝	號慧眼院、慶長廿年五月七日寂
世二十四日	要	號顯是院、元和九年七月五日寂
世二十五日	深	號妙寂院、寬永五年十二月廿八日寂

四五七

二六世 日 號知見院、慶安元年  
七二世 日 號通心院、萬治二年  
八二世 日 號妙心院、寬文七年  
九二世 日 號隆源院、延寶九年  
三三三 日 號寂遠院、延寶七年  
一三三 日 號一圓院、元祿十一年  
二二二 日 號智寂院、享保六年  
三三三 日 號遠沾院、享保六年  
三三三 日 號見龍院、元文二年  
四三三 日 號誠峯院、享保十九年  
五三三 日 號六牙院、寬延元年  
六三三 日 號薩心院、寬延三年  
七三三 日 號廣演院、寬延三年  
八三三 日 號貞明院、寬延四年  
九三三 日 號圓通院、寶曆四年  
四四四 日 號能治院、寶曆七年  
一四四 日 號

暹 境 奠 蕙 通 脫 省 亨 裕 竟 潮 寬 荅 總 輪 妙

號知見院、慶安元年  
號通心院、萬治二年  
號妙心院、寬文七年  
號隆源院、延寶九年  
號寂遠院、延寶七年  
號一圓院、元祿十一年  
號智寂院、享保六年  
號遠沾院、享保六年  
號見龍院、元文二年  
號誠峯院、享保十九年  
號六牙院、寬延元年  
號薩心院、寬延三年  
號廣演院、寬延三年  
號貞明院、寬延四年  
號圓通院、寶曆四年  
號能治院、寶曆七年

二四世 日 號耐慈院、明和二年  
三四世 日 號理天院、明和六年  
四四世 日 號潮音院、明和六年  
四四世 日 號寂隆院、安永二年  
五四世 日 號守信院  
六四世 日 號領峯院、安永七年  
七四世 日 號亮心院、天明六年  
八四世 日 號光漸院、寬政六年  
九四世 日 號本義院、寬政十二年  
五五世 日 號教山院、寬政十年  
五五世 日 號明靜院、文化五年  
五五世 日 號堅樹院、文化三年  
二五世 日 號上妙院、文化十二年  
二五世 日 號智透院、文化十四年  
五五世 日 號潮文院、文化十三年  
六五世 日 號潮文院、文化十三年  
七五世 日 號大裕院、文政九年

辰 見 寶 應 唱 遙 豐 源 地 沾 全 盛 奏 審 逞 晴

號耐慈院、明和二年  
號理天院、明和六年  
號潮音院、明和六年  
號寂隆院、安永二年  
號守信院  
號領峯院、安永七年  
號亮心院、天明六年  
號光漸院、寬政六年  
號本義院、寬政十二年  
號教山院、寬政十年  
號明靜院、文化五年  
號堅樹院、文化三年  
號上妙院、文化十二年  
號智透院、文化十四年  
號潮文院、文化十三年  
號潮文院、文化十三年  
號大裕院、文政九年

八五世 日 號究竟院、文政十年  
九五世 日 號是雲院、天保十二年  
六六世 日 號圓中院、天保五年  
六六世 日 號一兩院、天保九年  
二六世 日 號智了院、天保十三年  
二六世 日 號雙樹院、天保十五年  
三六世 日 號一乘院、弘化二年  
四六世 日 號不老院、弘化三年  
五六世 日 號不恬院、弘化四年  
六六世 日 號示宣院、嘉永七年  
六六世 日 號智鏡院、安政五年  
八六世 日 號慈祥院、萬延元年  
九六世 日 號事感院、元治元年  
七七世 日 號止明院、明治五年  
七七世 日 號智現院、明治四年  
七七世 日 號獅音院、明治七年  
三十七 日 號

舜 環 詔 潤 心 扇 闌 仲 桂 薪 楹 實 琢 祥 禱 健

號究竟院、文政十年  
號是雲院、天保十二年  
號圓中院、天保五年  
號一兩院、天保九年  
號智了院、天保十三年  
號雙樹院、天保十五年  
號一乘院、弘化二年  
號不老院、弘化三年  
號不恬院、弘化四年  
號示宣院、嘉永七年  
號智鏡院、安政五年  
號慈祥院、萬延元年  
號事感院、元治元年  
號止明院、明治五年  
號智現院、明治四年  
號獅音院、明治七年

七四世 日 號文明院、明治廿一年  
七五世 日 號自厚院、明治十九年  
七五世 日 號心妙院、明治廿四年  
七五世 日 號春應院、明治廿六年  
七五世 日 號鏡行院、明治卅一年  
七五世 日 號智等院、明治卅一年  
八八世 日 號

薩 鑑 修 阜 嚴 良 慈

號文明院、明治廿一年  
號自厚院、明治十九年  
號心妙院、明治廿四年  
號春應院、明治廿六年  
號鏡行院、明治卅一年  
號智等院、明治卅一年

▲興榮兩山歷世

開山宗祖日蓮大菩薩

(創立年時)長興山妙本寺は龜山帝文永十一年、長榮山本門寺は同帝建治元年  
(現今位置)長興山は相州鎌倉、長榮山は武藏國荏原郡池上村

二世 日 號大國阿闍梨、元應元年正月廿一日寂  
三世 日 號大經阿闍梨、延文四年四月四日寂  
四世 日 號大鷲阿闍梨、永徳元年九月七日寂  
五世 日 號上行院、應永七年五月七日寂  
六世 日 號延命院、永享六年六月五日寂

七世日 八世日 九世日 十世日 十一世日 十二世日 十三世日 十四世日 十五世日 十六世日 十七世日 十八世日 十九世日 二十世日 二十一世日 二十二世日

壽 調 純 陽 現 惺 尊 詔 友 遠 東 耀 豐 通 養 玄

號慶劫院、享德元年四月四日寂  
號大運阿闍梨、文龜元年十月八日寂  
號惠眼院、天文十九年三月廿一日寂  
號中道院、天文十九年二月十五日寂  
號佛壽院、永祿四年七月廿一日寂  
號佛乘院、慶長三年七月六日寂  
號蓮乘院、慶長八年三月十六日寂  
號自性院、元和三年四月十九日寂  
號中正院、元和五年六月十四日寂  
號心性院、寬永十九年三月五日寂  
號蓮乘院、慶安元年十一月廿二日寂  
號圓是院、明曆元年十月十二日寂  
號僧那院、寬文九年六月十五日寂  
號寂遠院、延寶七年二月十一日寂  
號一乘院、寬文十三年二月八日寂  
號妙悟院、寬永元年七月三日寂

二世日 三世日 四世日 五世日 六世日 七世日 八世日 九世日 十世日 十一世日 十二世日 十三世日 十四世日 十五世日 十六世日 十七世日 十八世日 十九世日 二十世日 二十一世日 二十二世日

潤 等 韻 芳 章 侃 顯 利 廣 繼 謙 洪 統 勢 觀 棟

號慈雲院、享保二年正月廿七日寂  
號妙玄院、享保十八年十二月二日寂  
號守玄院、寶曆三年十一月三日寂  
號成壽院、寶曆五年三月廿四日寂  
號常求院、寶曆四年三月廿三日寂  
號通光院、寶曆十年十月十八日寂  
號了玄院、明和四年十月十一日寂  
號本壽院、天明五年四月三日寂  
號本慈院、天明三年九月廿一日寂  
號宣示院、安永六年十月廿六日寂  
號信是院、寬政二年二月十八日寂  
號禎詳院、寬政十二年六月廿二日寂  
號體妙院、寬政五年七月十九日寂  
號妙解院、寬政十一年十月十三日寂  
號福聚院、寬政十年七月八日寂  
號妙善院、寬政十二年二月廿六日寂

九世日 十世日 十一世日 十二世日 十三世日 十四世日 十五世日 十六世日 十七世日 十八世日 十九世日 二十世日 二十一世日 二十二世日 二十三世日 二十四世日 二十五世日 二十六世日 二十七世日 二十八世日 二十九世日 三十世日

憲 性 洋 讓 攝 戒 意 詳 教 萬 暉 修 鄰 遵 正 英

號常勤院、寬政十二年十一月四日寂  
號制心院、文化十四年九月八日寂  
號慈明院、文化十四年九月八日寂  
號備光院、文化十一年二月十二日寂  
號靜正院、文政四年六月十三日寂  
號觀是院、文政三年二月廿四日寂  
號歡喜院、文政六年九月十九日寂  
號妙智院、文政八年十月十六日寂  
號輪成院、弘化元年十一月十一日寂  
號妙解院、天保十年十二月十一日寂  
號海慈院、弘化三年八月一日寂  
號支和院、弘化四年十二月十三日寂  
號大覺院、弘化四年正月六日寂  
號諦審院、弘化五年正月廿二日寂  
號玄悟院、嘉永四年正月一日寂  
號真心院、慶應元年五月八日寂

五世日 六世日 七世日 八世日 九世日 十世日 十一世日 十二世日 十三世日 十四世日 十五世日 十六世日 十七世日 十八世日 十九世日 二十世日 二十一世日 二十二世日 二十三世日 二十四世日 二十五世日 二十六世日 二十七世日 二十八世日 二十九世日 三十世日

操 官 傳 需 億 運 大 昇 軌 振 薩 舜 因 龜 與 迦

號順正院、安政五年七月廿八日寂  
號善正院、萬延元年九月二日寂  
號妙義院、文久元年五月十六日寂  
號遠光院、元治元年八月廿三日寂  
號玄慈院、元治二年二月廿三日寂  
號妙慈院、明治十一年一月廿一日寂  
號海蓮院、明治十四年一月二日寂  
號妙乘院、明治廿四年十一月廿日寂  
號大事院、明治五年三月廿七日寂  
號唱導院、明治廿九年九月廿日寂  
號文明院、明治廿一年八月廿九日寂  
號本雄院、明治廿四年十月廿一日寂  
號本良院、明治廿二年十一月廿二日寂  
號妙地院、明治四十四年四月十三日寂  
號文靜院、明治四十二年五月廿六日寂  
號慈秀院、大正五年九月二日寂

七十一日 筵 現 董

龍華院妙顯寺歷世

(創立年時)後醍醐帝元亨元年  
(現今位置)京都市上京區小川頭

初祖 宗祖 日蓮大菩薩

二祖 日朗 菩薩

三祖 日 像

四祖 妙 實

五祖 朗 源

六祖 日 霽

七世 月 明

八世 日 具

九世 日 芳

十世 日 廣

十一世 日 教

十二世 日 堯

十三世 日 紹

號肥後阿闍梨、康永元年十一月十三日寂

號大覺、貞治三年四月三日寂

無號、永和四年正月十八日寂

字通源、應永十二年十一月四日寂

字具覺、永享十二年九月八日寂

無號、文龜元年二月十二日寂

無號、天文三年十月一日寂

無號、天文廿二年八月廿五日寂

無號、天正六年七月廿四日寂

字淳譽、慶長九年閏八月七日寂

字星陽、元和八年六月廿五日寂

十四日 十五日 十六日 十七日 十八日 十九日 二十日 二十一日 二十二日 二十三日 二十四日 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 三十日

衍 饒 豐 延 春 空 耀 宗 利 慧 妙 啓 慈 精 誦 瑛

字春星、慶長十六年十月十六日寂  
號興善院、正保元年九月廿二日寂  
號驚峯院、寬文九年六月十五日寂  
號隆源院、延寶九年正月廿七日寂  
號中道院、元祿十五年正月廿五日寂  
號觀樹院、元祿六年正月廿六日寂  
號勝光院、元祿十年十一月廿日寂  
號境妙院、享保十三年正月廿日寂  
號隆真院、元祿十三年八月朔日寂  
號智定院、享保十五年九月十五日寂  
號南無院、寶永七年十月十六日寂  
號智覺院、享保十三年四月晦日寂  
號近要院、享保廿年十月廿二日寂  
號修光院、元文四年二月十六日寂  
號觀具院、享保十七年五月五日寂  
號靈妙院、延享三年正月朔日寂

三十日 廿九日 廿八日 廿七日 廿六日 廿五日 廿四日 廿三日 廿二日 廿一日 二十日 十九日 十八日 十七日 十六日 十五日 十四日 十三日 十二日 十一日 十日 九日 八日 七日 六日 五日 四日 三日 二日 一日

寬 貞 量 唱 觀 浩 逕 靜 遂 言 褒 冠 玄 行 桓 源

號體具院、延享元年十月四日寂  
號僧祇院、寬延元年十一月三日寂  
號戒心院、寶曆十三年八月十日寂  
號妙行院、明和五年八月七日寂  
號舞淨院、明和九年七月四日寂  
號法妙院、天明四年九月廿二日寂  
號能紹院、寬政十一年七月廿九日寂  
號攝心院、寬政八年正月廿六日寂  
號慈讓院、享和元年十月五日寂  
號顯壽院、文化二年十二月十四日寂  
號隆行院、文政七年十二月十七日寂  
號唱導院、文政四年十一月四日寂  
號寂光院、天保三年八月十一日寂  
號龍進院、天保七年四月廿一日寂  
號境修院、天保十一年七月七日寂  
號龍本院、天保十二年二月廿四日寂

大光山本園寺歷世

(移轉年時)光明帝貞和元年  
(現今位置)京都市下京區柿本町

開山 宗祖 日蓮大菩薩

二世 日朗 菩薩

三世 日 印

四世 日 靜

五世 日 傳

合 柄 壽 恭 文 齊 耀 董 辰

號心境院、文久二年三月十五日寂  
號禪珠院、慶應四年二月廿三日寂  
號本城院、安政五年十月十日寂  
號慈祥院、明治九年一月卅一日化  
號林如院、明治十六年四月九日寂  
號津川院、明治卅三年二月十三日寂  
號鏡琳院、明治卅年五月十四日寂  
號時中院、明治卅八年七月卅一日化  
現 董



六世	日	經	號一意院、應永十八年正月十二日寂
七世	日	嚴	號本高院、應永廿一年四月五日寂
八世	日	聰	號大周院、永享五年正月廿九日寂
九世	日	曉	號妙勝院、正文元年閏二月六日寂
十世	日	圓	號成就院、延德元年七月廿九日寂
十一世	日	堯	號大聖院、永正三年五月廿七日寂
十二世	日	了	號勤行院、永正七年八月廿八日寂
十三世	日	遵	號法性院、大永元年正月二日寂
十四世	日	助	號蓮光院、天文廿二年七月十四日寂
十五世	日	栖	號中道院、天正十一年四月五日寂
十六世	日	禎	號究竟院、元和三年八月廿三日寂
十七世	日	桓	號鷲峯院、正保元年十一月四日寂
十八世	日	運	號乘體院、貞享三年十一月廿五日寂
十九世	日	廷	號一心院、元祿三年八月廿日寂
二十世	日	隆	號隆源院、元祿十一年三月五日寂
二十一世	日	輝	號尊明、正德三年十一月八日寂

二世	日	從	號信解院、寶永五年十二月十七日寂
三世	日	宜	號忍稱院、正德四年三月十六日寂
四世	日	周	號常寂院、享保元年十月六日寂
五世	日	詮	號圓妙院、享保八年五月十一日寂
六世	日	達	號了義院、延享四年二月廿六日寂
七世	日	充	號慈光院、元文二年九月十三日寂
八世	日	銳	號了遠院、寬延元年十月六日寂
九世	日	解	號唯妙院、安永四年十二月廿一日寂
十世	日	誠	號鉢智院、明和四年一月廿五日寂
十一世	日	長	號合掌院、安永二年七月十六日寂
十二世	日	嚴	號鉢具院、天明六年九月廿三日寂
十三世	日	會	號首領院、文化三年二月十七日寂
十四世	日	脫	號唯妙院、享和三年五月廿日寂
十五世	日	陵	號龍興院、文政二年八月十一日寂
十六世	日	運	號妙用院、天保四年七月廿一日寂
十七世	日	要	號本妙院、天保八年九月八日寂

八世	日	妙	號明導院、天保十四年三月八日寂
九世	日	等	號慈互院、嘉永七年四月廿八日寂
十世	日	妙	號本地院、明治十一年十月卅一日寂
十一世	日	滿	號融妙院、文久二年八月十九日寂
十二世	日	詔	號立妙院、元治元年十一月二日寂
十三世	日	瞻	號上妙院、慶應三年八月廿一日寂
十四世	日	暉	號瑞鳳院、明治五年四月廿四日寂
十五世	日	禎	號慈妙院、明治廿六年六月十一日寂
十六世	日	修	號心妙院、明治廿四年五月十七日寂
十七世	日	壽	號雲雷院、明治卅七年五月五日寂
十八世	日	苗	號上正院、大正五年八月八日寂
十九世	日	成	現 董

▲中山法華經寺歷世

(創立年時)龜山帝文應元年 (現今位置)下總東葛飾郡中山村

開山	宗祖日蓮大菩薩		
一世	日	常	號常修院、正安元年三月廿日寂

二世	日	高	號帥阿闍梨、正和三年四月廿六日寂
三世	日	祐	號淨行院、應安七年五月十九日寂
四世	日	尊	應永六年九月七日寂
五世	日	暹	應永廿九年六月七日寂
六世	日	薩	應永廿九年十月二日寂
七世	日	有	文安五年十一月十三日寂
八世	日	院	文龜元年六月六日寂
九世	日	靚	大永四年二月晦日寂
十世	日	院	慶長三年五月廿九日寂
十一世	日	典	元和三年十月十四日寂
十二世	日	珖	號佛心院、慶長三年八月廿七日寂
十三世	日	曉	慶長十年七月二日寂
十四世	日	通	慶長十三年正月十六日寂
十五世	日	統	慶長八年正月十六日寂
十六世	日	述	慶長十二年四月廿二日寂
十七世	日	因	慶長十八年十月廿九日寂

日蓮宗名簿

世十八 日 慈 寬永四年八月五日寂

世十九 日 侃 寬永元年八月九日寂

世二十 日 忠 萬治三年十月十六日寂

世二十 日 現 寬永十年四月四日寂

世二十 日 窓 寬永十二年五月七日寂

世二十 日 龍 寬文九年九月廿三日寂

世二十 日 逮 寬文十年七月朔日寂

世二十 日 長 寬文十六年三月十日寂

世二十 日 仁 寬文三年十月四日寂

世二十 日 演 萬治元年十二月十七日寂

世二十 日 養 明曆三年六月十四日寂

世二十 日 貞 承應元年九月六日寂

世二十 日 俊 延寶三年十一月二日寂

世二十 日 堯 永祿五年十一月三日寂

世二十 日 休 明曆二年九月六日寂

世二十 日 威 延寶七年十一月廿日寂

四六六

世五十一 日 嚴 寶永二年十二月十七日寂

世五十一 日 行 贈祖 享保十七年十一月十九日寂

世五十一 日 怡 享保十三年四月廿九日寂

世五十一 日 啓 享保十六年十一月十五日寂

世五十一 日 亮 寶永五年九月八日寂

世五十一 日 達 享保十五年一月十二日寂

世五十一 日 等 享保七年八月廿五日寂

世五十一 日 圓 元文四年二月十六日寂

世五十一 日 禪 享保五年六月廿一日寂

世五十一 日 瑞 元文二年十二月廿七日寂

世六十一 日 充 元文二年九月十三日寂

世六十一 日 領 寶曆五年九月十三日寂

世六十一 日 宴 享保廿年三月廿九日寂

世六十一 日 遂 延享五年五月十五日寂

世六十一 日 明 寶曆十一年五月廿六日寂

日蓮宗名簿

總大五山歷世

世三十四 日 廷 元祿二年十二月十九日寂

世三十四 日 允 元祿五年十一月十六日寂

世三十四 日 意 元祿二年十二月十九日寂

世三十四 日 德 寬文九年正月十六日寂

世三十四 日 秀 元祿四年三月十三日寂

世三十四 日 相 寶永二年十二月二日寂

世三十四 日 耀 寶永二年十二月二日寂

世三十四 日 完 元祿十年十一月廿日寂

世三十四 日 純 延寶四年八月十八日寂

世三十四 日 述 貞享元年九月十七日寂

世三十四 日 匠 正德三年七月廿七日寂

世三十四 日 近 元祿二年六月廿一日寂

世三十四 日 要 享保八年正月廿五日寂

世三十四 日 潤 寶永三年六月廿二日寂

世三十四 日 住 元祿四年正月廿一日寂

世三十四 日 妙 元祿三年十月六日寂

世三十四 日 妙 寶永七年十月十六日寂

世六十六 日 理 寶曆三年三月十九日寂

世六十六 日 清 延享二年寂

世六十六 日 俊 明和元年九月十八日寂

世六十六 日 侃 寶曆十年十月廿一日寂

世六十六 日 貞 明和元年九月十八日寂

世六十六 日 淳 安永三年三月廿日寂

世六十六 日 巡 安永九年十一月廿九日寂

世六十六 日 昌 明和二年十一月十七日寂

世六十六 日 豐 明和八年六月十日寂

世六十六 日 映 天明二年十一月八日寂

世六十六 日 妙 寬政九年二月十日寂

世六十六 日 顯 安永九年五月十三日寂

世六十六 日 逢 安永八年八月廿七日寂

世六十六 日 是 天明六年四月六日寂

世六十六 日 賢 天明五年八月廿七日寂

世六十六 日 逢 再住、同年十一月十二日寂

四六七

八世十日	道	天明八年八月廿七日退山
八世十日	賢	再住、文化十三年一月朔日寂
八世十日	道	再住、文化五年八月十七日寂
八世十日	虔	寬政九年八月廿七日退山
八世十日	到	寬政十一年六月廿一日寂
八世十日	相	文化五年六月十七日寂
八世十日	領	文化元年六月十八日寂
八世十日	近	文化七年八月廿九日寂
九世十日	選	文政二年正月廿四日寂
九世十日	顯	文政二年三月廿五日寂
九世十日	慎	文政六年九月七日寂
九世十日	利	文政十年六月十八日寂
九世十日	遂	文政六年正月十三日寂
九世十日	亮	文政八年八月廿七日退山
九世十日	要	文政十一年八月廿七日退山
九世十日	輝	天保三年七月廿六日寂

九世十日	亮	再住、天保十二年正月廿四日寂
九世十日	榮	天保十四年十月十三日寂
九世十日	任	天保十一年八月廿七日寂
九世十日	導	天保十四年八月廿七日寂
九世十日	遵	安政五年正月十二日寂
九世十日	英	慶應元年正月六日寂
九世十日	導	再住、嘉永三年三月十七日寂
九世十日	正	安永元年十一月十二日寂
九世十日	泰	慶應元年一月九日寂
九世十日	穩	文久三年七月八日寂
九世十日	習	明治元年十月四日寂
九世十日	謁	元治元年七月十日寂
九世十日	正	明治三年六月十七日寂
九世十日	貫	明治十一年十一月三日寂
九世十日	因	明治卅二年十一月廿二日寂
九世十日	照	明治十一年七月十五日寂

◎管長歷世及總監

四百十日	龜	號妙地院、明治四十四年四月十三日寂
四百十日	顯	號妙修院、明治卅二年八月卅一日寂
四百十日	運	明治四十二年二月六日寂
四百十日	環	號進行院、大正二年十二月十二日寂
四百十日	修	現董

一世 (明治七、四、一)

總本山久遠寺住職 大講義 新居 日薩  
 執事 大講義 福田 日耀  
 同 神保 日淳

二世 (明治九、六、一)

總本山本門寺住職 少教正 石川 日大  
 執事 (同上)

三世 (明治一〇、一、一)

大本山本園寺住職 權中教正 釋 日禎  
 執事 大講義 神保 日淳  
 同 權大講義 協 日照

四世 (明治一一、四、一八)

總本山久遠寺住職 權少教正 吉川 日鑑  
 執事 大講義 福田 日耀

五世 (明治一二、一〇、二二)

總本山久遠寺住職 權大教正 新居 日薩  
 執事 少教正 神保 日淳  
 同 大講義 清水 日運  
 同 同 物部 日嚴  
 同 同 由良 日正  
 同 同 貫名 日運  
 同 同 池田 日典  
 同 同 權中講義 水野 日顯  
 同 同 權大講義 梨羽 日環  
 同 同 大講義 梨羽 日環

六世 (明治一六、一二、四)

大本山妙顯寺住職 權中教正 福田 日耀  
 執事 權大講義 水野 日顯  
 同 大講義 梨羽 日環  
 同 同 小泉 日慈  
 同 同 工藤 日諒  
 同 同 神保 日淳

七世 (明治一七、一〇、一三)

總本山久遠寺住職 大僧正 吉川 日鑑  
 管事 小泉 日慈  
 同 工藤 日諒  
 同 神保 日淳

八世 (明治一八、一一、九)

大本山本園寺住職 大僧正 三村 日修

- 九世 (明治二二、二七) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 小泉日慈  
物部日嚴 神保日淳
- 總本山久遠寺住職 大僧正 三村日修  
監督 物部日嚴  
小泉日慈
- 十世 (明治二四、二五) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 小泉日慈  
物部日嚴
- 總本山妙顯寺住職 大僧正 小林日董  
監督 水野日顯  
藤原日迦
- 十一世 (明治二七、二五) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 藤原日迦  
水野日顯
- 總本山妙顯寺住職 大僧正 小林日董  
監督 水野日顯  
藤原日迦
- 十二世 (明治三〇、二五) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 藤原日迦  
水野日顯
- 總本山本門寺住職 大僧正 鷄溪日舜  
監督 津田日厚
- 十三世 (明治三一、二四) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 津田日厚
- 總本山本門寺住職 大僧正 岩村日轟  
監督 津田日厚
- 十四世 (明治三四、二四) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 津田日厚
- 總本山法華經寺住職 大僧正 濱日連

- 十五世 (明治三六、二五) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 津田日厚  
大僧都 遠藤日洽
- 總本山本門寺住職 大僧正 久保田日龜  
監督 遠藤日洽  
權僧正
- 十六世 (明治三八、一〇、四) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 津田日厚  
大僧都 遠藤日洽
- 總本山久遠寺住職 大僧正 豐永日良  
監督 遠藤日洽  
權僧正
- 十七世 (明治四一、一〇、三) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 津田日厚  
大僧都 遠藤日洽
- 總本山法華經寺住職 大僧正 梨羽日鏡  
監督 佐野前勳  
權僧正
- 十八世 (明治四三、九、六) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 津田日厚  
大僧都 遠藤日洽
- 總本山本門寺住職 大僧正 旭日苗  
監督 佐野前勳  
權僧正
- 十九世 (大正二、八、二七) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 津田日厚  
大僧都 遠藤日洽
- 總本山久遠寺住職 大僧正 小泉日慈  
監督 神保辨靜  
權僧正
- 二十世 (大正五、一、一四) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
監督 津田日厚  
大僧都 遠藤日洽

◎總大五山及本山並御由緒  
 寺院現董

- 大本山本門寺住職 大僧正 藤原日迦  
總監 權僧正 酒井日慎
- 廿一世 (大正五、一〇、五) 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
總監 權僧正 酒井日慎
- 總本山法華經寺住職 大僧正 喜多村日修  
總監 權僧正 酒井日慎
- 總本山 久遠寺 山梨縣南巨摩郡 身延村 小泉日慈
- 大本山 本門寺 東京府荏原郡 池上村 磯野日筵
- 同 妙顯寺 京都市上京區 妙顯寺前町 河合日辰
- 同 本園寺 京都市下京區 柿本町 濱井日成
- 同 法華經寺 千葉縣東葛飾郡 中山村 喜多村日修
- 同 妙法華寺 靜岡縣田方郡 錦田村 小川日貞
- 同 蓮永寺 靜岡縣安部郡 千代田村 丹澤日京
- 同 海長寺 靜岡縣安部郡 不二見村 中野文靄
- 同 本覺寺 靜岡縣安部郡 豐田村 杉田日布

- 同 本立寺 靜岡縣田方郡 葦山村 萬年 素雲
- 同 實相寺 靜岡縣富士郡 岩松村 貫名 日達
- 同 龍口寺 神奈川縣鎌倉郡 川口村片瀨 黒澤 日明
- 同 妙純寺 神奈川縣愛甲郡 下依知村 脇田 堯惇
- 同 弘法寺 千葉縣東葛飾郡 市川町 酒井 日慎
- 同 誕生寺 千葉縣安房郡 湊村小湊 今井 日誘
- 同 本土寺 千葉縣東葛飾郡 小金町平賀 加藤 日榮
- 同 藻原寺 千葉縣長生郡 茂原町 荒居 養壽
- 同 鏡忍寺 千葉縣安房郡 東條村 常岡 諦道
- 同 妙覺寺 千葉縣夷隅郡 清海村 藤田 東撰
- 同 妙宣寺 新潟縣佐渡郡 真野村 遠藤 日運
- 同 妙照寺 新潟縣佐渡郡 二宮村一ノ谷 遠藤 日洽
- 同 根本寺 新潟縣佐渡郡 新穗村大野 石井 智行
- 同 妙法寺 新潟縣三島郡村田 高田 圓讓

同	妙本寺	神奈川縣鎌倉郡	磯野	日筵
同	妙法寺	山梨縣南巨摩郡	關野	日專
同	本遠寺	山梨縣南巨摩郡	釋	日達
同	妙覺寺	京都市上京區	岡田	嶺逞
同	立本寺	京都市上京區	風間	隨學
同	本滿寺	京都市上京區	工藤	日諒
同	本法寺	京都市上京區	伊藤	日修
同	頂妙寺	京都市上京區	添田	日圓
同	妙傳寺	京都市上京區	豐田	心靜
同	正法寺	千葉縣山武郡		
同	日本寺	千葉縣香取郡中村	清水	龍山
同	久昌寺	茨城縣久慈郡	松森	靈運
同	報恩寺	和歌山市真砂町	園岡	日新
同	孝勝寺	仙臺市東九番町	柘植	海壽

日蓮宗宗會及議員

同	妙成寺	石川縣羽咋郡	三津	日慧
同	妙國寺	堺市材木町	神保	辨靜
同	光勝寺	佐賀縣小城郡	神代	智明
同	佛現寺	岩松村松尾	水村	遵祥
同	國前寺	靜岡縣田方郡	正田	英恩
同	妙興寺	廣島市尾長町	香取	玳惠
同	妙顯寺	千葉縣千葉郡	高森	玄碩
同	瑞龍寺	白井村	堀米町	
同	瑞龍寺	栃木縣安蘇郡	村雲	日榮
同	瑞龍寺	堀米町		

▲第一宗會 明治三十四年六月 自十七日(停會) 至十八日

管長	岩村	日厚
監督	津田	日厚
甲部議長	小林	日董
同副議長	池上	日普
同理事	景山	佳雄
同書記	牧口	泰存
乙部議長	印	日燈
同副議長	武田	宣明
同理事	平川	廣德
同書記	宇都宮	惠鐘

▲第二臨時宗會 明治三十六年六月 自九日 至十五日

管長	濱日	運
監督	遠藤	日治
甲部議長	小林	日董
同副議長	池上	日普
同理事	及川	真能
同書記	山田	一英
乙部議長	佐々	通圓
同副議長	武田	宣明
同理事	秋山	文朗
同書記	石井	辨孝

▲第三宗會 明治三十九年五月 自二十一日 至六月四日

管長	豐永	日良
監督	遠藤	日治
甲部議長	久保田	日遙
同副議長	脇田	堯惇
同理事	及川	真能
同書記	山田	一英
乙部議長	園部	日敬
同副議長	加茂	韻透
同理事	秋山	文朗
同書記	柴田	嶺秀

▲第四宗會 明治四十二年六月 自十一日 至十一日

管長	梨羽	日鏡
監督	杉田	日布
甲部議長	脇田	堯惇
同副議長	山田	日偉
乙部議長	武田	宣明
同副議長	加藤	文雅

▲第五臨時宗會 明治四十四年一月 自十九日 至廿一日

管長	旭日	苗
監督	佐野	前勵
甲部議長	脇田	堯惇
同副議長	山田	日偉
同理事	田村	豐亮
同書記	鳥田	勝存
乙部議長	武田	宣明
同副議長	頂岳	龍觀
同理事	田中	義海
同書記	島田	勝存

▲第六宗會 明治四十五年六月 自十九日 至廿四日

管長	旭日	苗
監督	佐野	前勵
甲部議長	山田	日偉
同副議長	酒井	日慎
同理事	柴田	一能
同書記	西村	慈珖
乙部議長	加茂	韻透
同副議長	頂岳	龍觀
同理事	柴田	嶺秀
同書記	橫山	仁秀

▲第七宗會 大正三年六月 自八日 至十三日

管長	小泉	日慈
監督	神保	辨靜
甲部議長	山田	日偉
乙部議長	佐野	貫孝

同副議長 酒井 日慎 同副議長 頂岳 龍觀  
 同 理事 外山 英會 同 理事 柴田 顯秀  
 同 書記 西村 慈珙 同 書記 横山 仁秀

▲第八宗會 大正五年二月 自廿一日 至廿六日

管 長 藤原 日迦  
 總 監 酒井 日慎  
 甲部議長 山田 日偉 乙部議長 頂岳 龍觀  
 同副議長 岡田 教篤 同副議長 宇都宮惠鐘  
 同 理事 外山 英會 同 理事 柴田 顯秀  
 同 書記 西村 慈珙 同 書記 横山 仁秀

▲第九臨時宗會 大正五年四月 自廿二日 至廿七日

管 長 藤原 日迦  
 總 監 酒井 日慎  
 甲部議長 山田 日偉 乙部議長 頂岳 龍觀  
 同副議長 岡田 教篤 同副議長 宇都宮惠鐘  
 同 理事 外山 英會 同 理事 山田 一英  
 同 書記 西村 慈珙 同 書記 横山 仁秀

▲第十宗會 大正六年二月 自二十四日(停會) 至廿四日

管 長 喜多村 日修  
 總 監 酒井 日慎

▲第十一宗會 大正七年三月 自十一日 至十五日

管 長 喜多村 日修  
 總 監 酒井 日慎  
 甲部議長 脇田 堯惇 乙部議長 頂岳 龍觀  
 同副議長 杉田 日布 同副議長 貝山 宣是  
 同 理事 西村 慈珙 同 理事 片野 玄貞  
 同 書記 濱田 慶俊 同 書記 齋藤 惠雄

議員は甲部に於て石川顯觀師失格して次點者今井日誘師就任し、市川日調師特選を辭して武田宣明師の特選を見、乙部に於て水村遵祥師失格して山田良雄師就任し、最上威明師辭職して次點者畑榮明師就任し、鹽出孝潤師辭職して次點者新倉海存師就任したる外、他は第十宗會と同じ。

◎評議員

特磯野 日筵 同市川 日調 同關 日懿  
 甲伊藤 日修 同神代 智明 同松森 靈運  
 同及川 真能 乙柴田 一能 同布施 日健  
 同山本 隆海 同澁谷 文英  
 右の内市川日調師は大正七年二月十四日、他の特印二師は大正六年三月九日、甲印四師及乙印四師は同六年二月廿日就任。  
 同 補充員 (大正六年二月二十日選舉)  
 市川 日調 石川 嶺觀 常岡 誦道

日蓮宗名簿 ◎評議員 ◎會計監査員 ◎宗務院役員

甲部議長 脇田 堯惇 乙部議長 頂岳 龍觀  
 同副議長 杉田 日布 同副議長 貝山 宣是  
 同 理事 西村 慈珙 同 理事 片野 玄貞  
 同 書記 濱田 慶俊 同 書記 齋藤 惠雄

甲部議員 ▲印ハ特選 ●印ハ末寺

伊藤 日修 脇田 堯惇 遠藤 日治  
 杉田 日布 神保 辨靜 貫名 日達  
 荒居 養壽 松森 靈運 黒澤 日明  
 豊田 心靜 岡田 顯逞 石川 嶺觀  
 園岡 日新 丹澤 日京 柘植 海壽  
 小川 日貞 神代 智明 常岡 誦道  
 ▲市川 日調 ▲加茂 顯透 ●岡田 教篤  
 ●近江 正瑞 ●金崎 惠厚 ●及川 真能  
 ●服部 日題 (已上廿五名)

乙部議員

柴田 一能 鹽出 孝潤 田中 海勇 横山 仁秀  
 釋 日雄 布施 日健 島田 勝存 志村 要麒  
 水村 遵祥 加藤 貞信 上田 尙温 村尾 教誘  
 松本 日精 有光 友靜 野村 能忍 山本 隆海  
 戸田 聰察 頂岳 龍觀 足立 日登 松島 正泰  
 澁谷 文英 最上 威明 廣瀬 啓宣 (已上廿五名)

岡田 顯逞 (以上甲部)  
 加藤 貞信 松本 日精 志村 要麒  
 貝山 宣是 (以上乙部)

◎會計監査員

大正四年六月二日就任 加茂 顯透  
 同 七年二月十四日就任 近江 正瑞  
 岡田 教篤

◎宗務院役員

日蓮宗宗務院 東京市芝區二本榎 電話高輪 九五九  
 一ノ一五 口座東京 四八二五  
 管 長 大僧正 喜多村 日修  
 總 監 權僧正 酒井 日慎  
 總務部 部長 酒井 日慎  
 臨時詰 部長 西村 慈珙  
 教學部 部長 佐野 貫孝  
 同 主事 逸見 通漢  
 同 主事 山田 一英  
 同 書記 酒井 寶祐  
 同 庶務部 部長 木村 榮源  
 同 庶務部 部長 増田 海圓

庶理部 主事 遠山英正  
 同 書記 濱田順正  
 同 臨時 片野玄貞  
 同 部長 布施耀玄  
 同 主事 富岡智光  
 同 部 常野堯遠  
 同 書記 佐野堯山  
 同 同 野坂桂彦  
 同 同 三輪隆彦  
 同 同 岸田隆彦

●財團 日蓮宗護法會財團役員

護法協賛會本部 口座東京一六〇〇六番

會長 喜多村日修  
 理事 酒井日慎  
 常務理事 神保辨靜  
 同 及川眞能  
 同 市川日調  
 同 杉田日布  
 同 松森靈運  
 同 岡田嶺逞  
 同 關日懿

●日蓮宗護法會會計監査員

大正七年三月廿九日就任

貫名日深  
 中村是本  
 皆川泰靜  
 岩瀬志妙  
 深川觀察

●日蓮宗大學職員(大正六年十一月現在)

六月五日就任

學長 權大僧正 風間隨學  
 大學科教頭 權僧正 富田海音  
 同 教授 同 富木堯廣  
 同 講師 同 田邊善知  
 同 大學科講師 同 磯野本精  
 同 中等科教授 同 望月歡厚  
 同 大學科講師 同 志水義章  
 同 大學科教頭 同 河邊治六  
 同 大學科講師 同 瀧村斐男

大學科講師 マスター、オア、アーツ 畑功  
 大學科講師 文學士 境野正  
 中等科講師 高島平三郎  
 大學科講師 島地大等  
 同 木内柔克  
 同 土居光知  
 同 田部重治  
 同 安倍能成  
 同 四宮兼之  
 同 鈴木宗忠  
 同 宇野哲人  
 同 境野哲  
 同 新聞智啓  
 同 北尾啓玉  
 同 高田惠忍  
 同 淺井要麟  
 同 僧都 木下一英  
 同 僧都 高田叔二郎  
 同 僧都 賀來助太郎

●錄所職員

●東京府

▼第一部錄所 東京市本所區大平町法恩寺中

錄所 司

電 錄所々在寺住職

錄司補 伊藤 勝漸 吉田 智良 豐田 實清  
協議員 久德 賢湧 沖 鳳亭 刈米 是寬 外山 英會  
田島 日宣 新甫 寬實

▼第二部錄所 豐多摩郡淀橋町常圓寺中

及川 眞能

錄司補 島崎 龍動 金子 慈貞 寺井 存良  
吉田 友理 宮崎 良亨 吉田 勝逞  
橋高 智然  
松森 靈運 堀尾 秀然 平間 壽本  
協議員 矢島 泰通 久保田 日濟

▼第三部錄所 往原郡品川町蓮長寺中

宮崎 隨嚴

錄司補 池田 祥泰 的場 玉雅 田中 日齊  
吉田 玄教 江澤 日恭 富川 玄教  
田中 義海 杉崎 日德 鍋木 詮妙  
小林 顯良 澁谷 朝松

▼第四部錄所 東京市下谷區谷中三崎町大圓寺中

豐田 是能

錄司補 馬場 文明 橋本 練中 西尾 全要  
錄所々々在寺住職  
電話下谷四四〇四番

▼第五部錄所 尾崎 春達

錄司補 古宮 惠詳 末吉 禮敬 中濃 教正  
岩田 泰碩 三宅 惠滿  
協議員 三宅 日鐘 小澤 辨恭 吉橋 日耀  
田邊 辨能 門井 日猛

▼錄所 北足立郡戸田村新曾妙顯寺中

富川 玄快

錄司補 中村 存雅 大橋 寬惠 石田 亮貞  
石塚 日壽 松永 日教 甘樂 日解  
濱島 文眞 中島 日忍 內田 泰如  
田中 謙周 石塚 日壽 石田 亮貞 奧澤 智賢  
協議員 中村 存雅 松永 日教

▼第一部錄所 東茨城郡上中妻村妙德寺中

木 日良

錄司補 吉田 智山  
協議員 飯島 貞靜 酒井 亮通 吉田 智山

日蓮宗名簿 ◎錄所職員

協議員 市川 日調 金山 日普 鹽出 孝潤

▼第一部錄所 橫濱市北方町妙香寺中

加藤 日凝

錄司補 鈴木 海勝 伊藤 修善 松野 顯祐  
田中 海勇 神部 宣遙  
協議員 遠藤 日順 服部 存忠 小林 慈靜  
龍門 通存 藤村 文桂 金子 耀廣

▼第二部錄所 鎌倉郡鎌倉町妙本寺中

田中日肝

錄司補 石井 海誓 三宅 宣秀 櫻井 隆隨  
協議員 磯野 日治 藤田 日進 清田 玄珠  
高原 泰讓 柳澤 日宗

▼第三部錄所 橫須賀市深田町龍本寺中

橫井 龍顯

錄司補 三田村龍泰 伊東 寬祐  
協議員 土岐 泰雄 幸田 日正 島田 亮眞  
中田 英林 飯田 顯山

▼第四部錄所 中郡大磯町妙大寺中

飯久保義學

錄司補 齋藤 智清 平賀 寶壽 望月 靜男  
錄所々々在寺住職

▼第二部錄所 遠藤 靜明 永田 是祥

岩淵 了智

協議員 岩淵 靜勇 河合 了義 淡路川貞仁  
齋藤 貫説

▼第一部錄所 那須郡大田原町正法寺中

中井本儀

協議員 野澤 淳惠 白田 榮潤 齋藤 惠雲  
大關 宣直 大島 嘉長

▼第二部錄所 下都賀郡小山町妙建寺中

吉田 日透

協議員 福岡 玄禰 石川 養泉  
錄所々々在寺住職

▼錄所 高橋市九藏町正法寺中

石橋 要識

協議員 田島 海芳 村野 宣是 岩瀬 存乘  
柳瀬 義行

●千葉縣



第一部録所 東葛飾郡中山村法華經寺中

録司 戸村 慈精

同所安世院住職

録司補 關 觀朗 椎名 禪明 富川 玄明

協議員 富田 堯圓 河野 本碩 吉野 了孝

牛田 戒淳 新井 智龍

島田 勝存 石川 貞心 宇都宮 惠鐘

第二部録所 香取郡豐和村妙慶寺中

録司 栗原 教和

録所々在寺住職

録司補 横井 龍英 那須 體壽 佐伯 榮健

清水 榮隨 本間 本照

津田 壽良 秋山 玄恭 清水 榮隨

第三部録所 長生郡茂原町藻原寺中

録司 荒居 養壽

録所々在寺住職

録司補 齊藤 良州 川島 勝善 高梨 宣明

井上 日昭 齋藤 日壽 鈴木 貫英

吉野 瑞雲 齋藤 日壽 鈴木 貫英

第四部録所 夷隅郡西畑村平澤妙慶寺中

協議員 牧野 日與 蓮見 日殿 滿島 隆旭

第二部録所 南巨摩郡增穂村昌福寺中

録司 深澤 湛善

録所々在寺住職

録司補 都築 海壽 三枝 存貞 中込 學養

協議員 青柳 眞孝 齋藤 見是 内藤 歡祐

第三部録所 中巨摩郡飯野村妙善寺中

録司 望月 義悦

録所々在寺住職

録司補 中島 義妙 藤井 教仁 小林 一運

協議員 中込 日行 小松 義運 藤田 顕翁

野田 義誠 五味 義幹 中込 觀秀

第四部録所 中巨摩郡龍王村法久寺中

録司 保科 日幹

録所々在寺住職

録司補 三國 文秀 脇本 觀靜 川久保 玄隆

井上 日瑞 大森 圓全 泉 玄覺

瀧 寶妙 長澤 順乾 梶島 勵秀

加藤 日騰 瀧 寶妙 梶島 勵秀

第一部録所 下伊那郡飯田町長源寺中

協議員 淺野 文尙 三井 堯翁 井神 海山

録司 岩瀬 志妙

録所々在寺住職

録司補 松本 惠宏 箸木山行孝 岩瀬 海慈

協議員 土橋 了達 山野 宣照 渡邊 玄靜

池田 惠仙 水野 日誓 西川 日賢

小高 了達 磯野 顕收 大倉 泰山

第五部録所 安房郡富浦村南無谷妙福寺中

録司代務 竹内 義詮

録所々在寺住職

録司補 本城 瑞量 竹内 義詮 村田 教温

石田 貞晋 川津 快龍 福本 慈彌

常岡 諦道 星野 貞温 中村 教祐

第一部録所 南巨摩郡靜川村善妙寺中

録司 鈴木 海乘

録所々在寺住職

録司補 望月 日賢 望月 本是 麻生 是忍

天野 智孝 及川 是忍 原 寶秀

深澤 本義 市川 智諦 秋山 智照

樋口 水音 清水 本瑞 押田 智玄

遠藤 是才 遠藤 日照 依田 貞祥

佐野 堯善 竹内 堯惠 依田 貞祥

志村 要麒

第二部録所 長野市妻科原立寺中

録司 加藤 要龜

録所々在寺住職

録司補 重盛 快進 内藤 支勝 山上 日尙

協議員 右田 見序 松井 鍊靜 池田 龍温

細田 智寛 田附 智章 坂本 海亮

井上 堯順

第一部録所 富士郡吉原町妙祥寺中

録司 貝山 宣是

録所々在寺住職

録司補 大古田 睿明 富木 堯壽 横山 政靜

協議員 手島 日詮 上野 日譜 佐野 良遠

玉谷 堯海 窪田 蓮德 遠藤 是妙

杉田 日布 落合 舜長 冷泉 要悖

笹津 海靜 堀内 潮清

第二部録所 田方郡中野村妙本寺中

録司 竹内 遼周

録所々在寺住職

録司補 金原 睿鶴 西田 潮學 阿武野 光長

山崎 海宣 新間 日透 後藤 遠雄

協議員 小川 日貞 萬年 素雲 境川 見徳

長野縣

第一部録所 下伊那郡飯田町長源寺中

日蓮宗名簿 録所職員

▼第三部録所 室伏 日定 松山 靜全  
濱松市傳馬町法雲寺中

録司 壽美 日住  
録所々在寺住職

録司補 志村 本蓮 渡邊 賢雄  
協議員 松下 貞通 宮杉 湛康 杉田 寶全  
北原 親朗 町野 日温

●愛知縣

▼第一部録所 名古屋市中區東橋町首題寺中

録司 服部 日題  
録所々在寺住職

録司補 小崎 辨温 渡邊 潮淳 宇佐美 圓昇  
安藤 榮超 吉田 友文

協議員 加藤 貞信 水野 榮遠 加藤 日到  
常川 日鼎 石川 穰然 武田 潮瑞

▼第二部録所 岡崎市祐金町善立寺中

録司 後藤 潮順  
録所々在寺住職

録司補 船橋 大秀 川口 近亮 齋藤 春勝  
協議員 船橋 大秀 吉田 潮曹 濱島 榮秀  
近藤 風音

●三重縣

▼録所 桑名郡桑名町顯本寺中

協議員 三神 日妙 増井 慈榮 北川 智旭  
鈴木 日演 河本 英周 足立 英教  
岡本 永詮 村山 行詮 川端 英郎  
山本 洪澄 友井 能慈

▼第三部録所 與謝郡日置村妙圓寺中

録司 野村 智秀  
録所々在寺住職

録司補 祖父江 嘉信 石黒 友榮  
協議員 木村 日英 三神 良直 石橋 通然  
下野 英遼 坂本 日義

●石川縣

▼第一部録所 金澤市野田寺町妙法寺中

録司 林 教慎  
録所々在寺住職

協議員 明意 鍊中 三原 本禮 樹下 本亮  
森田 本徹 藤田 快哲

▼第二部録所 羽咋郡富永村妙法寺中

録司 村尾 教誘  
録所々在寺住職

録司補 青野 慈明 中田 圓靜 墨江 義賢  
協議員 北岡 敬順 中田 性如 小堀 本理

●富山縣

▼第一部録所 富山市梅澤町大法寺中

日蓮宗名簿 録所職員

録司 伊藤 如音  
録所々在寺住職

協議員 幡上 教雄 山本 德温 大橋 憲孝

●岐阜縣

▼録所 岐阜市梶川町妙照寺中

録司 田中 曾山  
録所々在寺住職

録司補 野々垣 泰玉 稻熊 圓通 橋 日傳  
協議員 三田村 豐盈 船橋 好禪 祖父江 日誠  
島田 元秀 高木 慈空

●京都府

▼第一部録所 京都市下京區柿本町日蓮宗録所

録司 西村 唯妙  
上京區岡崎町善正寺正職

録司補 目黒 學妙 小屋 眞勇 松井 行英  
大西 行學 石井 見妙 貫名 英吟  
野木 智寛 加藤 觀能 水谷 謙見  
本田 義憲 豐田 心靜 井上 惠進  
上田 尚温 淺野 耀章 深見 耀宏 伊藤 日修  
橋野 祥顯

▼第二部録所 天田郡福知山町常照寺中

録司 栗山 英智  
録所々在寺住職

録司補 花園 英含 岡本 永詮 河本 英周

録司 中村 寬澄  
録所々在寺住職

協議員 吉岡 寬榮 本行 義寛 梨羽 鍊達  
若栗 顯孝 上田 寬龍 川口 快温

▼第一部録所 高岡市利屋町大法寺中

録司 貫名 本壽  
録所々在寺住職

録司補 鷺田 遵了 旗智 潮運  
協議員 野崎 海靜 福井 教入 城能 周妙  
土屋 勝鑑 松野 鍊英

●滋賀縣

▼第一部録所 蒲生郡馬淵村妙感寺中

録司 萩原 日常  
録所々在寺住職

録司補 岩井 孝演 伊藤 慈辨 藤岡 即祐 津田 日進  
協議員 伊藤 慈辨 藤岡 即祐 津田 日進

▼第二部録所 大津市下榮町本長寺中

録司 松尾 良政  
録所々在寺住職

録司補 則武 潮秀 清水 良正 安藤 圓諦  
協議員 上木 良俊 渡邊 行明

●福井縣

第一部録所 武生町曙妙國寺中

録司 林 雲 法  
録所々在寺住職

録司補 關内 良誠 川崎 周哲 大橋 即永  
協議員 安立 一如 松本 日精 貫名 龍山  
櫻屋 良慶 長田 惠量 足利 良海  
福井市若松町教徳寺中

第二部録所 羽野文儀

録司 羽野 文儀  
録所々在寺住職

録司補 松田 學義 天津 泰岳 重山 穩海  
協議員 長谷川龍海 貫名 龍祐 清水 是慶

第三部録所 今井日光

録司 今井 日光  
録所々在寺住職

録司補 上木 即修 堀江 日慶 工藤 即攝  
協議員 内藤 行精 西垣 智眼 梅林 行信 大高 即能  
服部 行健

第一部録所 東區西高津中寺町正法寺中

録司 山田 日行  
録所々在寺住職

録司補 山村 貫立 藤村 惠照 高見 智靜  
協議員 深見 靈照 竹元 龜游 有光 友靜

大阪府

南區難波河原町自安寺住職

録司補 八田 行敏 大塚 行妙 矢野 貞忠  
協議員 寛紀 慈正 松尾 慶温 直江 日祐

第一部録所 神戸市兵庫湊町妙法華院中

録司 新間 日精  
録所々在寺住職

録司補 岩室 逞玉 吉川 體全  
協議員 池田 博輝 野上 泰元 武富 泰善  
佐野 要伯 野口 戒本

第二部録所 藤田惠身

録司 藤田 惠身  
録所々在寺住職

録司補 柳筈 行純 長谷川日禪 榮井 惠能  
協議員 大澤 日妙 置鹽 學進 三好 圓智 溪 惠齊

第三部録所 野村能忍

録司 野村 能忍  
録所々在寺住職

録司補 江龍 英明 横須賀日琬  
協議員 佐竹 英勅 大乗 學禪 長谷川泰導  
平賀 日承 横須賀日琬

和歌山縣

録所 和歌山市吹上寺町妙法寺中

日蓮宗名簿 録所職員

第二部録所 東儀 泰本 鎌田 潮音 三島郡五領村上牧本澄寺中

録司 小野 日熹  
録所々在寺住職

録司補 西川 日遵 西川 慈晃  
協議員 西山 秀妙 熊代 是妙 林 惠妙  
中川 良宏

第三部録所 長井辨融

録司 長井 辨融  
録所々在寺住職

録司補 難波 慈明 高谷 智勇  
協議員 吉野 善達 長田 行學 吉野 善靜  
栗原 顛澄 下浦 觀境 金山 慈政

第四部録所 堺市中之町東三丁妙法寺中

録司 藤井 行本  
録所々在寺住職

録司補 青木 龍雲 山崎 泰昇 小野 好慈  
協議員 原田 海旭 金平 正良 久保 泰直 妙立 英壽  
西坂 遵道 金田 是信 中村 惠妙

録所 磯城郡櫻井町妙要寺中

録司 大島 鳳 旭  
録所々在寺住職

奈良縣

録所 上木 即 隆

録司補 久保 惠光 遠藤 潮泰 廣長 泰堂  
協議員 園岡 日新 山崎 俊榮 山家 惠潤  
川口 惠謙 魚井 龍嚴

第一部録所 邑久郡御幸村福岡妙興寺中

録司 岡田 榮 雄  
録所々在寺住職

録司補 中島 通念 西田 日輝 宮崎 玄養  
協議員 岡 觀廣 田中 義温 岡崎 觀是  
安國 一審 長澤 日恒 日種 廣抽  
高橋 探禪 宮崎 玄養

第二部録所 吉備郡高松町妙教寺中

録司 稻荷 日勝  
録所々在寺住職

録司補 佐伯 隨圓 岡本 隆顯 佐藤 學秀  
協議員 櫻井 元祐 矢吹 是秀 東 寶嚴  
長瀬 圓龍 佐藤 學秀 山本 隆海  
長瀬 日應

第三部録所 小田郡笠岡町妙乘寺中

録司 伊藤 寬 妙  
録所々在寺住職

録司補 門田 孝壽 伊藤 寬 勇 井口 智鏡

協議員 赤木 慈宣 畑野 日利 足立 體隆  
水島 學信 平井 完靜

▼第四部錄所 津山町西寺町妙法寺中

錄所 貫名見祐  
錄所々在寺住職

錄司補 柴山 日慈 蓮海 惠妙  
協議員 大村 學深 淺沼 惠海 瀬川 學進  
渡邊 勵道 土井 見要

●愛媛縣

▼第一部錄所 松山市魚町五丁目大法寺中

錄所 中 臣 日 融  
錄所々在寺住職

錄司補 木村 亨謙 千 顯秀  
協議員 戸田 聰察 二宮 日暢 香川 信妙  
米村 泰淳

▼第二部錄所 北字和郡宇和島町妙典寺中

錄所 上 木 日 妙  
錄所々在寺住職

錄司補 山田 淳正 河端 啓瑞  
協議員 清水 是教 河端 啓成 隱岐 龍海

●香川縣

▼錄所 高松市三番町妙朝寺中

錄所 南 原 義 抽  
錄所々在寺住職

錄司 山 田 英 妙  
錄所々在寺住職

錄司補 住江 智運 飯尾 日曉  
協議員 野崎 學實 日柳 義繼

▼第三部錄所 廣島市左官町本覺寺中

錄所 佐 藤 元 延  
錄所々在寺住職

錄司補 丘 龍 潮

●山口縣

▼錄所 下關市本町通法正院中

錄所 山 本 龍 成  
錄所々在寺住職

錄司補 竹若 觀峰 吉田 日誦 西 智海  
協議員 山本 日耕 桂 泰真 島中 智量  
出口 智勇

●島根縣

▼第一部錄所 安濃郡大田町妙光寺中

錄所 高 林 柔 元  
錄所々在寺住職

協議員 後藤 榮修 山下 義揆 小黒 光本

▼第二部錄所 松江市寺町常教寺中

錄所 佐 藤 日 得  
錄所々在寺住職

錄司補 佐藤 日明 加納 廣淳 小林 亮精  
協議員 岡野 幸惠 橋 泰善 落合 亮運

日蓮宗名簿 ●錄所職員

錄司補 五水井榮俊  
協議員 德見 至學 五水井榮俊

●高知縣

▼錄所 土佐郡潮江村妙國寺中

錄所 蓮 乘 院 日 船  
錄所々在寺住職

錄司補 河野 榮俊 川崎 教中 春藤 智正  
協議員 金澤 誠恩 文野 智妙 釋氏 教澄

●德島縣

▼錄所 德島市寺町壽量寺中

錄所 兒 島 日 顯  
錄所々在寺住職

錄司補 野口 智清 小倉 海靜  
協議員 伊藤 智俊

●廣島縣

▼第一部錄所 深安郡吉津村妙政寺中

錄所 宇 根 海 辨  
錄所々在寺住職

錄司補 井上 日了 佐崎 孝道 友光 文海  
協議員 渡邊 泰隆 小林 林靜 內田 泰現  
補 智教 志田原靈孝 丹原 日隨  
本良 惠戒 鈴木 日運 岡 觀亮  
島崎 惠登 雙三郡三次町法音寺中

▼第二部錄所 高松市三番町妙朝寺中

清原 惠玉 牧野 英徳

●鳥取縣

▼第一部錄所 岩美郡富森村常忍寺中

錄所 奥 野 日 妙  
錄所々在寺住職

協議員 藤田 淳善 河合 啓俊 平岡 日明  
星合 孔章

▼第二部錄所 西伯郡米子町妙興寺中

錄所 酒 井 孝 順  
錄所々在寺住職

協議員 坂本 惠大 石指 惠仙 野村 薩運  
長瀬 惠妙

●熊本縣

▼錄所 飽託郡花園村本妙寺中

錄所 金 崎 惠 厚  
錄所々在寺住職

錄司補 鹽田 惠運 渡邊 圓諦 松田 惠徳  
協議員 塚本 啓達 山口 辨淨 江洲 啓勇  
石見 不染 塚本 啓達 廣川 圓定  
有戸 光善

●長崎縣

▼第一部錄所 長崎市西上町本蓮寺中

錄所 渡 邊 日 運  
錄所々在寺住職

協議員 有戸 光善 廣川 圓定

錄司補 淺井 圓淳  
協議員 末吉 元良 田口 辨得 西林 玄覺  
志水 要秀 松尾 辨我

第二部錄所 西彼杵郡長興村法妙寺中

錄司 丹羽 智靜  
錄所々在寺住職

協議員 鎌田 麗嶽 湯川 泰雅 祖父江亮精  
清水 麗昇

●大分縣

錄所 大分郡鶴崎町法心寺中

錄司 高岡 日虔  
錄所々在寺住職

錄司補 太田 誠鑑 正木 泰山 原 智旭  
協議員 足立 日登 野原 泰隨 原 智旭  
江島 智圓 原 智溫

●佐賀縣

錄所 小城郡岩松村光勝寺中

錄司 神代 智明  
錄所々在寺住職

錄司補 大平 智覺 松野 聚德 前田 龍存  
協議員 石丸 量山 山田 智眞 峰松 日濟 眞木 聚孝  
田中 龍運 藤井 智曉 靜山 聚能  
永井 英修

●福岡縣

第二部錄所 新海市西堀五番町長照寺中

錄司 山田 英源  
錄所々在寺住職

錄司補 高山 玄龍 相田 是誓 岩橋 順了  
協議員 小川 英淳 渡谷 文英 佐藤 溟海  
本郷 要演 小林 日進

第三部錄所 三島郡島田村蓮念寺中

錄司 西山 是端  
錄所々在寺住職

錄司補 濱田 本養 高橋 英文  
協議員 山口 潮正 海津 英舜 佐々木春清  
古寺 潮瑞 小林 本明

第四部錄所 刈羽郡刈羽村玉泉寺中

錄司 齋 藤 憲孝  
錄所々在寺住職

協議員 村山 智全 本間 英存 持田 光定  
大塚 存妙

第五部錄所 高田市下寺町日朝寺中

錄司 遠 藤 本蓮  
錄所々在寺住職

錄司補 山田 顯哲 坂口 旭昇  
協議員 薄波 旭豐 竹内 要滿 松本 孝瑛  
坂口 旭昇

第一部錄所 福岡市博多蓮池町妙典寺中

錄司 西村 觀誠  
錄所々在寺住職

錄司補 渡邊 正道 立野 良瑞 櫻井 日乘  
協議員 栗原 正明 仰木 圓德 高橋 日慈

第二部錄所 久留米市寺町妙正寺中

錄司 藤本 日照  
錄所々在寺住職

錄司補 有田 英暉 里見 智照 津田 辨正  
協議員 石田 孝音 矢次 耀實

第三部錄所 小倉市米町妙法寺中

錄司 延本 敏雄  
錄所々在寺住職

錄司補 山崎 圓淑 本多 正達 大江 慈昇  
協議員 貫名 圓德 松尾 周慶 水上 普泰

●新潟縣

第一部錄所 佐渡郡二宮村妙照寺中

錄司 遠藤 日治  
錄所々在寺住職

錄司補 吉田 宣用 遠藤 順快  
協議員 佐藤 智孝 金子 順義 飯田 春貞

宮城及巖手縣

錄司 柘植 海壽  
錄所々在寺住職

錄司補 梅森 寬義 河上 鍊學 伊藤 海秀  
協議員 風間 淵靜 谷川 海慧 織田 貞善  
久保田敬順

●山形縣

錄所 山形市鐵砲町支妙寺中

錄司 畑 榮明  
錄所々在寺住職

錄司補 小野 鍊雄 島田 本解 玉木 日晃  
協議員 阿部 榮孝 小野 鍊雄 寒河江宣榮 島田 本解  
石川 海啓 鈴木 顯明

●秋田縣

錄所 南秋田郡土崎湊町見性寺中

錄司 佐藤 眞亮  
錄所々在寺住職

錄司補 金 義鑑 小野 宣瑞 鹿兒島榮穩  
協議員 金 義鑑 柴田 寬柔 柴田 寬栗  
鹿兒島榮穩 小野 宣瑞

●福島縣

▼錄所 東白川郡棚倉町長久寺中

菅原海順  
錄司  
錄司補 森本壽支  
協議員 卷亮穩 小田海壽 小林智圓  
梨羽鍊達 倉島智達

●青森縣

▼第一部錄所 青森市寺町蓮華寺中

角田堯現  
錄司  
協議員 金威邦 最上威明  
錄所々在寺住職

▼第二部錄所 弘前市新寺町本行寺中

協鳳立  
錄司  
協議員 宮本泰教 工藤俊了  
錄所々在寺住職

●北海道

▼第一部錄所 函館區相生町常住寺中

鈴木鍊榮  
錄司  
錄司補 廣瀬惠秀 長田啓學 村上壽温  
協議員 栗塚行好 山本顯秀 米澤支奈 菊地海達  
荒木寬曉

布教監

埼玉縣北足立郡南平村領家  
實相寺住職

松永日教

常任布教師

齋藤純正 奧澤智賢 田中謙周  
鈴木慈觀 佐藤海豐 中井本儀 岩淵了智  
吉田智山

第四教區 (千葉縣)

布教監 千葉縣長生郡茂原町本山藻原寺住職

荒居養壽

常任布教師

關觀朗 橫井龍英 富永潮淵  
鹽崎支仁 常岡諱道 星野貞温

第五教區 (山梨)

布教監 山梨縣中巨摩郡鏡中條村長遠寺住職

中村是本

常任布教師

岩間洪勇 秋山智照 藤井教仁  
小山圓泰 小根澤義山 宮原智泰 近藤寬純

第六教區 (静岡縣)

布教監 静岡縣富士郡岩松村本山實相寺  
住職

貫名日達

常任布教師

川手海禪 玉谷堯海 山崎海宣  
金原睿鶴 松下貞通 北原觀朗 水村遵祥  
山田良雄 平井智濟 渡邊慈敏 遠藤是妙

第七教區 (愛知、三重)

布教監 愛知縣海部郡其目寺村萱津實成  
寺內

林鳳宣

常任布教師

石川穰然 天野寶琳 小阪井鳳勇  
山本德温 野々垣泰玉 高木慈空 星野英宣

日蓮宗名簿 ●布教監及常任布教師

▼第二部錄所 札幌區豐平町經王寺中

松井日量  
錄司  
錄司補 齋藤慈明 小堀本立 中條良啓  
協議員 藤田唯貫 廣瀬啓宣 石田長陽 增田見猛  
釋英儀 沼上光學 中川春亮  
中野春義

●布教監及常任布教師

第一教區 (東京府)

布教監

東京市下谷區上野町德大寺住職 關日懿

常任布教師

坂上榮昇 金子慈叡 吉田玄教 堀智珠  
加藤文雄 遠藤宣德 宮田泰岳 金山見善  
土田惠隆 秋山海仁 吉田勝逞 的場玉雅

第二教區 (神奈川縣)

布教監

橫濱市北方町妙香寺住職 加藤日凝

常任布教師

藤田日進 金子耀廣 星野旭泰  
椎名日鏡 名和慈寬 早乙女文妙 古宮惠祥  
高原泰讓 島田堯眞 瀧川文觀 吉橋海要  
吉橋日耀 松野顯祐 片野玄貞 池內禹海  
穴山英靜

第三教區 (埼玉、茨城)

第八教區 (京都府)

布教監

京都市上京區北門前町本山妙傳寺住職 豐田心靜

常任布教師

上田尙温 西村唯妙 長尾榮進  
深見耀宏 明渡惠教 秋山萬明 土屋學慈  
鈴木日演 木村日英 布目潮深 古野實善  
山田龍俊 小川風修 佐竹英教

第九教區 (石川)

布教監

金澤市野田寺町妙法寺住職 林教慎

常任布教師

昇塚木勇 森田本徹 中村寬澄  
越後教隆 酒井元宗

第十教區 (滋賀)

布教監

福井縣敦賀町妙顯寺住職 安立一如

常任布教師

安立一如 川崎周哲 小竹惠教  
兒玉禪戒 萩原日常 工藤即攝 羽栗顯孝

第十一教區 (大阪)

布教監

大阪市東區谷町八丁目長久寺住職 鎌田潮音

常任布教師

深見靈照 三浦顯孝 山村憲善  
永井泰忍 中川良宏 玉谷智善 高橋貫恩  
西阪遵道 妙立英壽 永瀧堯俊 淵田惠綱  
木村行薩 高見智靜

第十二教區 (兵庫)

布教監 兵庫縣神崎郡福崎村蓮華寺住職 榮井 惠能  
常任布教師 野上 泰元 野村 能忍 中井 享運  
山家 惠潤 池田 博輝 平井 學俊 置鹽 學進  
溪 惠齊

第十三教區 (岡山縣)

布教監 岡山縣庭瀬町不變院住職 河村 日燈  
常任布教師 矢吹 是秀 高見 慈悅 中島 通念  
安國 一審 宮崎 玄養 村上 孝俊 谷口 玄靜  
岡田 榮雄 伊藤 寬妙 柴山 日慈 渡邊 泰道  
水島 學信

第十四教區 (愛媛、香川)

布教監 高松市三番町妙朝寺住職 南原 義抽  
常任布教師 野口 智清 戶田 聰察 中臣 泰純  
中臣 日融 金澤 誠愿 石橋 慶照

第十五教區 (廣島、山口)

布教監 廣島市左官町妙頂寺住職 頂岳 龍觀  
常任布教師 志田原靈孝 阪本 惠大 秋田 本定  
白井 秀旭 飯尾 日曉 橋 泰善 星合 孔章  
藤原 周學 中島 龍温 楠 智教 清野 威玄  
加納 廣淳

第十六教區 (熊本、長崎)

常任布教師 增田 風明 沼上 光學 小堀 本立  
中川 春亮 高橋 智眼 鹽島 顯厚 長田 啓學  
山本 顯秀 增田 見猛 關 厚勇 廣瀬 惠秀  
大窪 榮妙 末崎 慶秀 桑門 教圓 加世 本願  
田中 耀運

● 巡回布教師

岡山縣吉備郡庭瀬町信城寺住職 矢吹 是秀  
東京市下谷區上三崎南町感應寺住職 宮田 泰岳  
静岡縣田方郡伊東町本山佛現寺住職 水村 遵祥  
同縣同郡中大見村梅木妙見寺住職 山田 良雄  
長崎縣東彼杵郡彼杵村妙法寺住職 湯川 泰雅  
京都府葛野郡嵯峨村常寂光寺住職 長尾 榮進  
東京府荏原郡池上村根方林昌寺住職 加藤 文雄  
愛媛縣今治町法華寺住職 戶田 聰察  
岡山縣都窪郡加茂村津寺宗蓮寺住職 村上 孝俊  
富山市梅澤町大法寺住職 中村 寬澄  
千葉縣印旛郡白井村妙傳寺住職 小島 宏遠  
兵庫縣飾磨郡御國野村法華寺住職 平井 學俊

● 特殊布教師

佐世保市太田町延壽寺住職(軍港布教師) 柴田 嶺秀

日蓮宗名簿 ● 巡回布教師 ● 特殊布教師 ● 本化門下各教團宗務所

布教監 長崎縣東彼杵郡西大村本經寺住職 祖父江亮精

常任布教師 湯川 泰雅 有戶 光善 廣川 圓定 塚本 啓達  
原 智温 清水 麗昇 末吉 元良 太田 誠鑑  
高岡 日度 足立 日登 志水 要秀

第十七教區 (福岡)

布教監 福岡市蓮池町妙典寺住職 西村 觀誠  
常任布教師 松島 正泰 山崎 誠音 櫻井 日乘 栗原 正明  
藤山 英燐 太平 智覺 矢吹 耀實

第十八教區 (新潟縣)

布教監 新潟縣中蒲原郡金津村東島妙蓮寺 本郷 要演  
常任布教師 信田 完明 村山 智全 鈴木 支孝 小林 是恭  
押味 春教

第十九教區 (宮城、巖手、山形)

布教監 仙臺市東九番町木山孝勝寺住職 柘植 海壽  
常任布教師 八戶 隨靜 風間 淵靜 畑 榮明 菅原 海順  
谷川 海慧 柴田 寬栗 角田 堯現 齋藤 純正  
佐藤 眞亮 最上 威誠 協 風立 高橋 宣潮  
宮本 泰教 東海林海陽 梅森 寬了 小野 鍊雄  
工藤 觀全 森本 日露 伊藤 海秀

第二十教區 (北海道)

布教監 北海道札幌區豐平町經王寺住職 松井 日暈  
橫須賀市深田町龍本寺住職(軍港布教師) 橫井 龍顯  
八王子市上野町本立寺住職(軍隊布教師) 柴田 一能  
京都市上京區北門前町本妙寺住職(同) 木下 一英

● 本化門下各教團宗務所

▼ 顯本法華宗 宗務廳 京都市上京區榎木町 妙滿寺中  
同宗務出張所 京都市外品川町南品川宿 妙國寺中  
管 長 大僧正 本 多 日生  
▼ 本門 宗 宗務院 静岡縣富士郡北山村 本山本門寺中  
同宗務出張所 東京府豐多摩郡野方村沼 袋蓮華寺中  
管 長 大僧正 丹 治 日 梁  
▼ 本門法華宗 宗務廳 東京市本郷區駒込 淺嘉町七五  
管 長 大僧正 釋 日 憲  
▼ 法 華 宗 宗務所 新潟縣南蒲原郡西本 成寺村總本山本成寺中  
同東京宗務出張所 東京市本郷區菊坂町九四  
管 長 大僧正 藤 平 日 學  
▼ 本妙法華宗 宗務所 京都市上京區紺屋町 總本山本隆寺中  
同宗務支所 東京市牛込區西五軒町眞淨寺中

管 長 大僧正 足立 日軌

▼日蓮正宗 宗務所 靜岡縣富士郡上野村 上條總本山大石寺中

同東京出張所 東京市下谷區下谷町一ノ九常在寺中

管 長 大僧正 阿部 日正

▼日蓮不受不施派 事務所 岡山縣御津郡金川町 金川祖山妙覺寺中

同東京出張所 東京市麻布區麻布本村町一八一

管 長 一等上座 釋 日解

▼日蓮宗不受不施 講門派 宗務局 岡山縣御津郡金川町 本山妙覺寺中

管 長 取次 權大僧正 佐藤 日桂

◎宗門各教團雜誌

宗 報 月刊 東京市芝區二本 日蓮宗宗務院 振替東京四八二五 電話芝九五九

大崎學報 月刊 東京府荏原郡大崎町日蓮宗大學 同窓會 振替東京八二三八 電話芝一六五六

日宗新報 月刊 東京府荏原郡池上林昌寺中 日宗社 振替東京二二六八 電話高輪八七五呼出

國柱新聞 旬刊 東京市下谷區櫻木町一番地 國柱新聞社 振替東京一二三五 電話下谷一〇九〇

日本教報 月刊 名古屋市西區本重町二ノ八 日本教報社 振替東京三二二九七 電話長四〇六九

法華 同 東京市牛込區辨天町一七二 法華會 振替東京八八三 電話番町一五九二

統一 同 東京市小石川區白山前町常檢寺中 統一編輯所 振替東京三三三三三

あさひ 月刊 大阪市北區伊勢町一九 あさひ社 振替大阪二一九九八

統一通信 同 東京市麴町區内幸町一ノ五 統一通信社 振替東京二七四〇〇

政教公論 同 橫濱市南太田町二二〇五 政教公論社 振替東京二八八四〇

日蓮 同 岡山市山崎町七六 日蓮鑽仰會

法の響 同 東京市深川區猿江町妙壽寺中 法響社 振替東京六九四〇

大日蓮 同 東京市麻布區我善坊町 日蓮正宗會本部 振替東京三七二五七

日蓮宗寺院 ◎東京市內寺院電話口座番號

天鼓 同 山梨縣中巨摩郡 同支社 千葉縣夷隅郡清海村興津妙覺寺中 振替東京二二八二五

妙教 同 靜岡縣田方郡伊東町 妙教社 振替東京二〇二五六

村雲 同 東京市小石川區白山前町大乘寺中 村雲婦人會 振替東京一九〇五一 電話小石川六四三

布教 同 東京市下谷區谷中町大雄寺中 布教雜誌社 振替東京二六八〇一

日宗新聞 旬刊 東京市京橋區木挽町一ノ一四 日宗新聞社 振替東京二二五〇〇 電話京橋三三七七

大光 月刊 京都市下京區岩上通五條上ル眞如院中 大光社 振替大阪二〇三三一

瑞雲 同 京都市上京區岡崎町福ノ川善正寺中 瑞雲社 振替大阪三四九七四 電話上三五〇二

法の華 同 富山縣下新川郡魚津町眞成寺町三一 法の華社 振替大阪二八四五一

信友月報 同 名古屋市東區櫻木町本遠寺別院中 信友月報社

宣明庵 同 東京市深川區靈岸町 圓隆院

白毫 月刊 東京市牛込區早稲田鶴卷町三六一 白毫社

惠光 同 京都府紀伊郡納所村納所町四三 惠光社

唱導 同 京都市上京區孫橋通東山線西入(要法寺境内) 唱導社 振替大阪三六九二一

興國の青年 同 橫須賀市深田一二二 興國の青年社

護國 同 東京府北豐島郡石神村井上石神井一九五 護國發行所 東京市淺草區淺草町六三 電話下谷八四二

◎東京市內寺院電話番號

電話高輪九五九 芝區二本榎一ノ一五 日蓮宗宗務院 振替東京四八二五

電話高輪九五九 芝區二本榎一ノ一五 日蓮宗協贊會 振替東京一六〇〇六

電話高輪一九六 東京府荏原郡大崎町 日蓮宗大學 振替東京八二三八

電話小石川六四三 小石川區白山前町 大乘寺 振替東京一九〇五一

電話下谷二四四一 下谷區上野町一丁目 大德寺 振替東京二二六七六

電話番町四五七二 市外澁橋町成子 常圓寺 振替東京三〇九二八

電話下谷四四〇四 下谷區谷中三崎町 大圓寺 振替東京三〇九二八



電話	下谷四三七六	下谷區谷中初音町	龍泉寺
電話	神田一二七四	日本橋區小傳馬町	身延別院
電話	芝二三七二	芝區金杉濱町	圓珠寺
電話	本所二七四九	深川區靈岸町	本立院
電話	本所二七四八	深川區靈岸町	淨心寺
電話	池上 六	東京府荏原郡池上	本門寺

### 〔七〕補遺

本書脱稿後、第十一宗會は、大正七年三月十一日より五日間、宗務院に召集せられて其結果宗規宗則を改變せしもの尠からず。殊に多年の懸案たりし二部制度の宗會を一部制度に改め、必ず録司を経由したる課金を宗務院に直納せしむるに決し、大中別置の事實を確保し、日蓮宗大學を財團法人とし、更に私立學校令を定め、當初五十萬圓の基金の募集さへも危ぶまれたる護法會は、今や豫定額を超過せるものから、今回は進で其基金を七十萬圓に改めたる如き、吾人は衷心法悦の情に充ち、欣喜拊舞して宗門萬歳を叫ばずんばならず。乃ちこゝに『補遺』の一篇を設けて其結果を掲記し、將來の法運を祝すると共に敢て本書の改訂に代ふ。

### 一 改正セラレタル宗會法

#### 宗規中改正案

補遺 © 改正セラレタル宗會法

現行第六條中左ノ三字ヲ削除ス(法規二頁)

「乙部」

備考 現行第六條ハ左ノ如シ

第六條 管長ハ宗會ヲ召集シ其開會閉會停會及乙部ノ解散ヲ命ス

現行第三十六條以下第四十七條迄ヲ左ノ通り改正ス(法規六頁)

第三十六條 日蓮宗々會ハ宗會法ノ定ムル所ニ依リ選舉及特選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十七條 宗會ハ宗務院ノ提出スル議案ヲ議決シ及自ラ議案ヲ提出シ又ハ其意見ヲ管長ニ上申シ宗務院ニ建議スルコトヲ得

第三十八條 宗會ハ毎年之ヲ召集ス  
臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テハ定會ノ外臨時會ヲ召集ス

第三十九條 宗會ノ會期ハ管長之ヲ定ム  
第四十條 宗會ヲ解散シタルトキハ宗令ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五ヶ月以内ニ

之ヲ召集スヘシ

第四十一條 宗會ハ其議員二分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス  
第四十二條 宗會ノ議事ハ其出席議員ノ過半數ヲ以テ決ス可ク同數ナルトキハ再議ニ付シ尙同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十三條 宗會ハ宗會法ノ定ムル所ニ依リ本宗僧侶中寺院現任職及准講師以上ノ者ヨリ提出スル請願ヲ受クルコトヲ得

第四十四條 宗務總監及宗務委員ハ何時タリトモ宗會ニ出席シ發言スルコトヲ得

第四十五條 前各條ノ外宗會ニ關スル規定ハ宗則ヲ以テ之ヲ定ム

現行第四十八條以下順次繰上ク

▼宗則第十一號宗會法改正案

第一章 宗會ノ召集成立及開會

第一條 宗規第六章第四十五條ニ依リ本法ヲ定ム

第二條 宗會召集ノ命令ハ集會ノ期日ヲ定メ二十日前ニ之ヲ發布スヘシ  
但緊急ヲ要スルトキハ此限ニ非ス

第十一條 宗會ニ書記長一名書記二名ヲ置ク

書記長及書記ハ管長之ヲ任命ス

第十二條 書記長ハ議長ノ命ヲ承ケ書記ヲ指揮シ事務ヲ處理ス

書記ハ上長ノ命ニ依リ議事録及其他ノ文書案ヲ作り庶務ニ從事ス

但書記長ハ時宜ニ依リ雇員ヲシテ事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十三條 宗會議員ニハ別ニ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ給ス

第十四條 書記長及書記ニハ支給規程ニ準シ旅費及手當ヲ給ス

宗務院職員ニシテ前項ノ職務ヲ兼ネタルトキハ慰勞ヲ給ス

第十五條 宗會ノ經費ハ總テ宗費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三章 委員

第十六條 宗會ノ委員ハ常任委員特別委員ノ二種トス

常任委員ハ豫算及請願ノ事件ヲ審査スル爲メ開會ノ始メニ議員ノ互選ヲ以テ九名ノ委員ヲ定メ

第三條 議員ハ召集ノ命令ニ指定シタル期日ニ宗會ノ議場ニ集會スヘシ

第四條 議長副議長ハ宗會ニ於テ各候補者一名ヲ選舉セシメ管長之ヲ任命ス  
議長副議長ノ任命セラル、マテハ書記長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第五條 宗會成立シタルトキハ管長ハ教旨ヲ下シテ開會ヲ命ス

第二章 議長理事及經費

第六條 議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル  
議長副議長辭職又ハ其他ノ事故ニ由リ闕員トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第七條 議長ハ議場ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ宗會ヲ代表ス

第八條 議長ハ宗會閉會ノ間ニ於テ仍宗會ノ事務ヲ指揮ス

第九條 議長ハ委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但表決ノ數ニ與カラズ

第十條 議長闕員又ハ故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

一會期中其任ニアルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲メ議長ノ指名若クハ議員ノ互選ニ依リ之ヲ定メ特ニ審査ヲ付託スルモノトス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第十七條 常任委員會及特別委員會ハ其委員半數以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス

但委員會ノ決議ニ依リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第十九條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ宗會ニ報告スヘシ

第二十條 宗會ハ宗務院ノ要求ニ依リ又ハ其同意ヲ經テ宗會閉會後ト雖モ委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第四章 會議

第二十一條 議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議場ニ報告スヘシ

議事日程ハ宗務院ヨリ提出シタル議案ヲ先ニス  
ヘシ

但他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ宗務院ノ同意ヲ得  
タルトキハ此限ニアラス

第二十二條 議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ  
但宗務院ノ要求若クハ議員五名以上ノ要求ニ由  
リ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタ  
ルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十三條 凡テ議案ヲ發議シ及議案ノ修正動議  
ヲ發スルモノハ五名以上ノ贊成アルニ非サレハ  
議題ト爲スコトヲ得ス

第二十四條 宗務院ハ何時タリトモ既ニ提出シタ  
ル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第二十五條 凡テ議決シタル議案ハ議長ヨリ宗務  
總監ヲ經由シテ管長ニ上申スヘシ

第二十六條 宗務院ノ要求又ハ議長若クハ議員五  
名以上ノ發議ニ由リ秘密會ヲ可決シタルトキハ  
議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシムヘシ  
但此發議ノ場合ハ討論ヲ用キスシテ可否ノ決ヲ  
取ルヘシ

第二十七條 秘密會ノ議事ハ刊行スルコトヲ得ス

第三十五條 上申又ハ建議ノ動議ハ七名以上ノ贊  
成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十六條 議員ハ五名以上ノ贊成ヲ得テ宗務院  
ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署  
シ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第三十七條 質問主意書ハ議長之ヲ宗務院ニ回附  
シ宗務院ハ口頭又ハ書面ヲ以テ之カ答辯ヲ爲シ  
若答辯ヲ爲サルトキハ其理由ヲ明示スヘシ

第八章 請願

第三十八條 宗會ニ提出スル本宗僧侶ノ請願書ハ  
總テ議員ノ紹介ニ依リ議長之ヲ受理ス

第三十九條 請願書ハ委員ニ付シ之ヲ審査セシメ  
規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ヲ經テ之ヲ紹  
介議員ニ返付スヘシ

第四十條 請願書ハ委員ノ要求又ハ議員五名以上  
ノ要求アルトキハ其請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第四十一條 宗會ニ於テ採納スヘキコトヲ議決シ  
タルトキハ意見書ヲ付シ之ヲ宗務院ヘ送付スヘ  
シ

第四十二條 宗會ハ左項ニ該當スル請願ハ之ヲ受

第五章 宗務役員

第二十八條 宗務總監及宗務委員ノ發言ハ何時タ  
リトモ之ヲ許スヘシ

但之カ爲メ議員ノ辯論ヲ中止セシムルコトヲ得  
ス

第二十九條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クト  
キハ每會委員長ヨリ宗務院ニ通告スヘシ

第三十條 議事日程及議事ニ關スル報告ハ議員ニ  
配附スルト同時ニ之ヲ宗務院ニ送附スヘシ

第六章 停會閉會

第三十一條 管長ハ必要ト認メタルトキハ三日以  
内ニ於テ停會ヲ命ス

議會停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事  
ヲ繼續スヘシ

第三十二條 宗會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願  
ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス

但第二十條ノ場合ニ於テハ此限りニアラス

第三十三條 閉會ハ管長ノ命ニ由リ之ヲ舉行ス  
第七章 上申建議及質問

第二十四條 宗會ハ文書ヲ以テ管長ニ上申シ又ハ  
宗務院ヘ建議スルコトヲ得

クルコトヲ得

一 宗規ヲ變更セントスルモノ

一 誹毀侮辱ノ語ヲ用キタルモノ

一 總代ノ名ヲ以テスルモノ

第九章 退職及議員資格審査

第四十三條 宗會議員ニシテ本法ニ依リ議員タル  
コトヲ得サル職務ニ任セラレ又ハ本法ニ規定シ  
タル被選資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第四十四條 宗會ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生  
シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審  
査セシメ其報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第四十五條 宗會議員ハ其資格ナキコトヲ證明セ  
ラル、ニ至ルマテハ議席ニ列シ及發言ノ權ヲ失  
ハス

但自身ノ資格ニ關スル會議ニ對シテハ辯明スル  
コトヲ得ルモ其表決ニ與ルコトヲ得ス

第十章 請假辭職及補闕

第四十六條 宗會議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ  
請假ヲ申出テ其許可ヲ得ルニ非サレハ會議又ハ  
委員會ニ缺席スルコトヲ得ス

第四十七條 宗會ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ

得

但閉會中ニ在リテハ議長之ヲ處決シ次ノ宗會ニ報告スヘシ

第四十八條 宗會議員ニ缺員ヲ生シタルトキハ議長ハ選舉長ニ通牒シ補闕ノ手續ヲ求ムヘシ

第十一章 紀律及懲誠

第四十九條 會議中議員ニシテ本法ノ規定ニ違反シ其他議場ノ秩序ヲ紊ストキハ議長ハ之ヲ警戒シ若クハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ従ハサルトキハ當日ノ議事ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシムルコトヲ得

第五十條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ一時議事ヲ中止シ又ハ當日ノ會議ヲ閉ツルコトヲ得

第五十一條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシムルコトヲ得

第五十二條 宗會議員ハ議場ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヒ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十三條 宗會ハ議員ニ對シ懲誠ノ權ヲ有ス

第五十四條 懲誠事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ懲誠委員ニ付シテ審査セシメ宗會ノ議決ヲ經テ

之ヲ宣告ス

委員會ニ於テ懲誠事犯アルトキハ委員長之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第五十五條 懲誠ハ左ノ如シ

一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

第五十六條 懲誠ノ動機ハ十名以上ノ贊成ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 宗會議員ハ正當ノ理由ナク召集ニ應セス又ハ正當ノ理由ナク會議若クハ委員會ニ缺席シ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發スルモ仍故ナク出席セサル者ハ懲誠ニ付ス

第十二章 議員ノ種類及選舉區

第五十八條 宗會議員ハ之ヲ分テ本山末寺及特選ノ三種トシ其選出議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種 本山現任職中ヨリ選舉セラレタル者十七名

第二種 一、寺祿等級十等以上ノ末寺現任職中

第十二區 廣島 山口 一名

第十三區 熊本 長崎 大分 宮崎 鹿兒島 沖繩 一名

第十四區 佐賀 福岡 一名

第十五區 新潟 澁田 一名

第十六區 宮城 山形 秋田 岩手 福島 青森 一名

第十七區 北海道 一名

第十三章 選舉人被選舉人ノ資格

第六十條 第一種議員ノ選舉人被選舉人ハ俱ニ總本山大本山本山現任職ノ者タルヘシ

第六十一條 第二種第一項議員ノ選舉人被選舉人ハ俱ニ寺祿等級十等以上ノ末寺現任職ノ者タルヘシ

第二種第二項議員ノ選舉人ハ其選舉區内ニ於ケル末寺現任職タル者被選舉人ハ其選舉區内ニ於テ寺祿等級廿五等以上ノ末寺現任職ニシテ年齢滿三十歳以上ニ達セル准講師以上ノ者タルヘシ

第六十二條 第三種議員ハ宗門ニ功績アリ又ハ學

德アル本宗僧侶ニシテ管長ヨリ特選セラレタルモノトス

ヨリ選舉セラレタル者 三名  
二、寺祿等級二十五等以上ノ末寺現任職中ヨリ選舉セラレタル者 十七名

第二種 管長ヨリ特選セラレタル者 二名

第五十九條 第二種第二項議員ノ選舉區及選出議員數ハ左表ヲ以テ之ヲ定ム

(選舉區)	(府)	(縣)	(議員數)
第一區	東京	東京	一名
第二區	神奈川	川	一名
第三區	埼玉 茨城 栃木 群馬 千葉	茨城 栃木 群馬 千葉	一名
第四區	山梨 長野	山梨 長野	一名
第五區	靜岡	岡	一名
第六區	愛知 岐阜 三重	愛知 岐阜 三重	一名
第七區	京	都	一名
第八區	石井 富山 福井 滋賀	石井 富山 福井 滋賀	一名
第九區	大坂 奈良 和歌山 兵庫	大坂 奈良 和歌山 兵庫	一名
第十區	岡山 愛媛 香川 高知 徳島	岡山 愛媛 香川 高知 徳島	一名
第十一區			一名

第六十三條 左ニ掲クル者ハ宗會議員ノ被選舉人タルコトヲ得ス

- 一 宗務院職員
- 二 日蓮宗大學教職員
- 三 布教院職員
- 四 兼務住職
- 五 各學校ノ學生並ニ宗費ノ補助ヲ受ケ就學中ノ者

第十四章 選舉長及名簿

第六十四條 第一種議員及第二種第一項議員ノ選舉ヲ行フトキハ宗務總監ヲ以テ選舉長トス

第六十五條 第二種第二項議員ノ選舉ヲ行フトキハ管長ハ選舉區内ノ錄司一名ヲ指定シテ選舉長トス

第六十六條 宗務院ハ毎年四月一日ヲ期トシ總本山大本山本山及寺祿等級十等以上ノ末寺現住職ノ名簿ヲ作製シ之ヲ備ヘ置クヘシ

第六十七條 錄司ハ毎年四月一日ヲ期トシ其管内寺祿等級十等以下ノ末寺現住職ノ名簿二本ヲ調製シ同月十五日迄ニ其一本ヲ選舉長タル錄司ヘ差出スヘシ

第六十八條 名簿ニハ住所、寺號、寺祿等級、僧階、氏名、生年月日ヲ記載スヘシ

第六十九條 選舉長タル錄司ハ四月三十日迄ニ各錄司ヨリ差出シタル名簿ヲ合シテ該選舉區全體ノ名簿二本ヲ調製スヘシ

第七十條 各選舉長ハ五月一日ヨリ十日間ヲ期シ名簿ノ閱覽ヲ許シ若シ誤記脱漏ノ申立ヲ爲シタル者アルトキハ其理由及證據ヲ審査シ五月二十日迄ニ之ヲ訂正シ其由申立人ニ通知スヘシ但閱覽期限後前項ノ申立ヲ爲スモ無効トス

第七十一條 選舉長タル錄司ハ前條ノ閱覽期限後五月末日限り其名簿一本ヲ宗務院ヘ差出スヘシ第七十二條 前各條ニ依リ確定シタル名簿ハ次年ノ名簿確定マテ有效トス

第七十三條 名簿確定後住職寺ニ移動ヲ生シタル者ハ選舉人被選舉人タルコトヲ得ス

第十五章 選舉

第七十四條 選舉ハ七月一日ヲ以テ之ヲ行フモノトス

但補闕選舉又ハ再選舉若クハ解散後總選舉ヲ行フトキハ宗令ヲ以テ其期日ヲ定ム

第七十五條 第一種議員及第二種第一項議員ノ選舉場ハ宗務院トシ第二種第二項議員ノ選舉場ハ各選舉區ニ於テ選舉長便宜之ヲ指定スヘシ

第七十六條 第一種議員ノ選舉人ハ別記第一號様式ニ第二種第一項議員ノ選舉人ハ同第二號様式ニ第二種第二項議員ノ選舉人ハ同第三號様式ニ依リ選舉長ヨリ配布セル用紙ヲ以テ各投票ヲ作リ六月三十日限り選舉場ヘ差出スヘシ投票ヲ郵便ニテ送附スル者ハ書留郵便ト爲スヘシ

第七十七條 第一種議員及第二種第一項議員ノ選舉ハ連記投票トス

投票ハ總テ一人一票ニ限ル

第七十八條 選舉長ハ投票ノ到着順ニ日時及番號ヲ受付簿ニ記入シ嚴重ニ保管スヘシ

第七十九條 選舉長ハ何等ノ理由アルモ投票ヲ受理シタル後ハ之ヲ選舉人ニ還付スルコトヲ得ス

第十六章 開票

第八十條 投票ハ選舉當日午前十時ヨリ選舉長及選舉人立會ノ上開封審査スルモノトス

第八十一條 選舉長ハ選舉人ノ中ヨリ三名若クハ五名以上ノ選舉立會人ヲ指定シ選舉期日前ニ之

補遺 改正セラレタル宗會法

ヲ各本人ニ通知スヘシ

指定立會人開票時刻ニ參會セサルトキハ選舉長ハ選舉人中ヨリ臨時補闕員ヲ指定シ立會ハシムヘシ

第八十二條 選舉人ハ開票ノ場合參觀ヲ求ムルコトヲ得

但其選舉人不穩ノ舉動ヲ爲シ若クハ爲サントスル虞アルトキハ選舉長ハ之カ退去ヲ命シ又ハ參觀ヲ拒絕ス

第八十三條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

- 一 名簿ニ記載ナキモノ
- 二 投票期間内ニ到着セサルモノ
- 三 所定ノ様式ニ違反シ若クハ選舉長ヨリ配布ノ投票用紙ヲ用ヒサルモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 字體ノ認知シ難キモノ
- 六 代理人ノ名ヲ以テ爲シタルモノ
- 七 自選シタルモノ

第八十四條 投票效力ノ有無ニ付疑義ヲ生シタルトキハ選舉立會人ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ判定ス選舉長ノ判定ニ對シテハ其會場ニ於テ異議ヲ

申立ルコトヲ得ス

投票ハ一ケ年間選舉長ニ於テ之ヲ保存スヘシ  
第八十五條 選舉立會人ハ前條ノ疑義ニ付管長ノ  
裁定ヲ申請スルコトヲ得

第八十六條 選舉長ハ選舉ニ關スル事項ヲ記載セ  
ル願末書ヲ作り選舉立會人ノ連署ヲ得テ之ヲ保  
存スヘシ

第十七章 當選

第八十七條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選  
人トシ之ニ次キ投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ次  
點者トス

次點者ノ得票ハ當選人ノ得タル投票數ノ二分ノ  
一以上ニ達スルヲ要ス

總テ投票同數ナルトキハ教師等級ノ高キ者ヲ採  
リ同級ナルトキハ敍任ノ順次ニ由リ同敍任ノト  
キハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八十八條 當選人ニシテ其當選ヲ辭シ又ハ死亡  
若クハ失格シタルトキハ次點者ヲ以テ當選人ト  
ス

第八十九條 當選人確定シタルトキハ選舉長ハ本  
人ニ對シ直ニ當選ヲ通知スヘシ

依ル

第九十七條 補闕選舉又ハ再選舉若クハ解散後ノ  
總選舉ヲ行フ手續ハ總ヘテ通常選舉ノ例ニ依ル

附則

第九十八條 本法ヲ施行スルニ必要ナル細則ハ宗  
令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十九條 本法ハ現在議員ノ任期終了シ次ノ選  
舉ヲ行フ時ヨリ之ヲ施行ス

宗則第十六號評議員會規則中  
改正並削除案

現行第二條各號中一、二ヲ合シテ左ノ通り改ム  
(法規一四三頁)

一、宗會議員中互選ニ係ルモノ八名

現行第三條中宗會ノ下「乙部」ノ二字ヲ削除ス

現行第四條中宗會ノ下「甲部」ノ二字ヲ削除ス

現行第五條中宗會ノ下「各部」ノ二字ヲ削リ選舉  
スルトキハノ下「各部四名」ヲ單ニ「八名」ト改ム

備考 本則ハ宗會法ニ關聯セル自然ノ結果トス

第九十條 當選人ニシテ當選ノ通知ヲ受ケタルト  
キハ十日以内ニ其諾否ヲ選舉長ニ申告スヘシ前  
項ノ期日內ニ承諾ノ申告ヲ爲サ、ルトキハ當選  
ヲ辭シタルモノト見做ス

第九十一條 選舉長ハ當選人ヨリ承諾ノ申告ヲ受  
ケタルトキハ其由宗務院へ届出ツヘシ

第九十二條 宗務院ハ前條ノ届出ヲ受ケタルトキ  
ハ其氏名ヲ宗內ニ告示スヘシ

第九十三條 當選人ニシテ其當選ヲ承諾セス又ハ  
死亡若クハ失格シタルトキハ再ヒ選舉ヲ行フモ  
ノトス

第十八章 議員ノ任期及補闕選舉

第九十四條 宗會議員ノ任期ハ選舉ノ日ヨリ起算  
シテ滿四ケ年トス

但再選スルモ妨ケナシ

第九十五條 第一種及第二種議員ニ關員ヲ生シタ  
ルトキハ四十日以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

但第八十七條ニ依リ其前議員ノ次點者アルトキ  
ハ之ヲ以テ補闕當選人トシ選舉長ハ第八十九條

第九十一條ノ手續ヲ行フモノトス

第九十六條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ殘任期ニ

二 布教監布教師並ニ開

教地寺院ニ關スル宗

規宗則

宗規中追加案

現行第十八條ニ左ノ但書ヲ加フ(法規四頁)

但開教地ノ創立寺院ハ宗務院ノ直轄トスルコト  
ヲ得

宗則第五號布教條例中改正並  
追加案

備考 現行第五條第二項ハ左ノ如シ  
「布教監ハ教區ノ僧侶中ヨリ管長之ヲ選任ス」

現行第五條第二項「管長之ヲ」ノ下左ノ十二字ヲ  
加フ

「選任シ其任期ヲ三ケ年トス」(法規五二頁)

現行第十八條中「當該教區ノ選舉ニ依リ」ヲ左ノ  
通り改ム(法規五四頁)

布教監ノ推選ニ依リ

備考 現行第十八條ハ左ノ如シ

第十八條 各教區ノ常任布教師ハ五名以上トシ當該教區  
ノ選舉ニ依リ管長之ヲ任命シ其任期ヲ三ケ年トス

現行第二十六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

(法規五五頁)

第二十七條 開教地ニ於テ創立シタル寺院ノ住職ハ開教司監ノ申請ニ依リ管長之ヲ任命ス  
現行第二十七條以下條項順次繰下ク

### 三 財團法人日蓮宗大學 寄附行為制定案

可決セラレタルモノ左ノ如シ

#### ▼財團法人日蓮宗大學寄附行為 制定案

##### 第一章 目的

第一條 本財團ハ日蓮宗僧侶ヲ教育スルヲ以テ目的トス

##### 第二章 名稱並事務所

第二條 本財團ヲ日蓮宗大學ト稱ス

第三條 本財團ノ事務所ヲ東京市芝區二本榎一丁目十八番地ニ置ク

##### 第三章 資 産

第四條 本財團ノ資産ハ左記財産ヨリ成ル

一 設立者ノ寄附スル別紙寄附財産目録ニ記載セル財産

二 將來有志者ヨリ寄附スル資財

三 所有財産ヨリ生スル果實及雜收入

四 日蓮宗管長ヨリ毎年交付スル金錢

第五條 本財團ノ資産ヲ左ノ二種ニ分ツ

一 基本金

前條第一號第二號ニ依ル寄附金及同第三號ニ依ル收得金ヲ以テ組成ス

二 常用財産

前條第一號第二號ニ依ル寄附物件及同第四號ニ依ル交付金ヲ以テ組成ス

第六條 基本金及常用財産中ノ物件ハ之ヲ費消シ又ハ處分スルコトヲ得ス

第七條 非常特別ノ場合前條ノ資産ヲ以テ支辨スヘキ必要ヲ生シタルトキハ日蓮宗管長ノ指示ニ由リ協議員ノ議決ヲ經テ之ヲ支出シ又ハ處分スルコトヲ得

但日蓮宗管長ハ其指示ニ就キ豫メ日蓮宗々會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第八條 基本金ハ確實ナル銀行ニ預入シ保管スル

第十七條 役員任期中辭職又ハ死亡若クハ不都合ノ所爲アリテ罷免セラレ補闕ノ爲メ指定セラレタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期ニ依ル

第十八條 理事長ハ本財團ヲ代表シ事務ヲ總理ス

第十九條 理事ハ理事長ヲ補佐シ常務ヲ處理ス

第二十條 協議員ハ此規程ニ依ル事項其他理事長ニ於テ必要ト認めタル事件ニ就キ議決ヲナスモノトス

第二十一條 協議員會ハ理事長之ヲ召集ス其議事ハ協議員三分ノ二以上ノ多數ニ依リ之ヲ決ス

第五章 補 則

第二十二條 本財團ハ法律命令ノ規定若クハ解散ノ事由發生シタル場合ニアラサレハ解散セス

第二十三條 本財團解散スルニ至リタルトキハ其財産ヲ日蓮宗ニ於テ經營スル事業ニ對シ寄附スルモノトス

第二十四條 將來此寄附行為ヲ變更セントスルトキハ協議員ノ議決ニ依リ日蓮宗管長ノ承認ヲ得

但日蓮宗管長ハ此承認ヲ與フルニハ日蓮宗々會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

モノトス

第九條 基本金ハ國債證券又ハ地方債證券ニ換ヘ保管スルコトヲ得

但證券ノ賣買交換ハ日蓮宗管長ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第十條 常用財産ハ第一條ノ目的及本財團事務所ノ使用並經費ニ充ツルモノトス

第十一條 常用財産ノ管理及其支出方法ハ協議員ノ議決ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 本財團ハ負債ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第十四條 本財團ハ毎會計年度ノ終リニ於テ收支計算表及財産目錄ヲ作製シ主務大臣並ニ日蓮宗管長ニ報告スルモノトス

第四章 役 員

第十五條 本財團ノ役員任免ハ總テ日蓮宗管長ニ於テ指定スルモノトス

第十六條 本財團ニ理事長一名理事二名協議員六名ヲ置ク

役員ノ任期ハ總テ三ヶ年トス

遺 ◎財團法人日蓮宗大學寄附行為制定案

備考 本宗大學ハ宗門唯一ノ教育機關ニシテ其敷地建物等ハ固ヨリ宗有財産ナリト雖モ宗門ハ法定上權利主體タルコトヲ認メラズ仍テ大學ヲ財團法人ト爲シ其資財ヲ將來確實安全ニ保管セント欲シ本則ハ議決セラレタリ

### 四 私立學校規則

#### 宗内私立學校認可規則制定案

- 第一條 宗内ノ僧侶又ハ寺院若クハ團體ニシテ私立學校ヲ設立シ管長ノ認可ヲ受ケントスルトキハ明治三十二年八月二日勅令第三五九號私立學校令ヲ遵守シ更ニ其設立事項ヲ記載シタル書類ヲ添へ出願スヘシ
- 第二條 私立學校ニ於テハ學校長若クハ學校ヲ代表シ校務ヲ處理スル者ヲ定メ本人ノ履歷ヲ添へ管長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 私立學校ニ於テ設立者又ハ設立代表者ヲ變更シ竝ニ教職員ヲ任免シタルトキハ其都度管長ニ届出ツヘシ
- 但新任ノ場合ハ其履歷ヲ添フヘシ
- 第四條 私立學校ハ毎學年ノ終末ニ於テ學事報告

ヲ調製シ四月中ニ宗務院ニ差出スヘシ

- 第五條 私立學校ノ設立事項、學事報告、學課目其他必要ナル施行規則ハ宗令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム
  - 第六條 私立學校ノ設備授業其他ノ事項ニシテ教育上不適當若クハ有害ナリト認ムルトキハ管長ハ之ヲ變更ヲ命シ又ハ其認可ヲ取消スコトヲ得
  - 第七條 私立學校ヲ廢校セントスルトキハ其事由竝ニ生徒處分法ヲ具シ管長ニ届出ツヘシ
  - 第八條 總テ管長ニ提出スヘキ書類ハ管轄録司ヲ經由スヘキモノトス
- 本則施行細則ノ宗令ニ記載スヘキ事項
- 一 設立事項
  - 二 名 稱
  - 三 學 則
  - 四 教科書目
  - 五 生徒定員數
  - 六 編制及設備ニ關スル事項
  - 七 維持方法及年度ノ收支豫算表
  - 八 設立者又ハ設立代表者ノ履歷
  - 一 學 事 報 告
  - 一 訓育ニ關スル事項

- 二 教職員ノ氏名、資格、受持學科及俸給額
- 三 生徒ノ現在數及學年間ノ異動數
- 四 學校ノ設備ニ關スル事項
- 五 教科書目
- 六 卒業生ノ氏名
- 七 前學年度ノ經費決算及翌年度ノ豫算表
- 八 其他ノ重要事項

- 一 學課目ノ標準
- 宗 乘
- 乘 乘
- 餘 乘
- 修 身
- 國 語
- 漢 文
- 地 理
- 歷 史
- 數 學
- 理 科
- 習 字
- 作 文
- 法 要 式

#### 宗則第二十一號僧階叙任規則中改正並追加案

現行第二條第一號中「宗内私立學校」以下ヲ左ノ

補遺 宗費徵集ニ關スル改正案

通り改ム(法規一六三頁)

管長ノ認可セル私立學校ニ於テ滿二年以上修業シタルモノ

備考 本則ハ四級試補ニ敘セラレトモノ

現行第二條第二號中「合格シタル者」ノ下ニ左ノ通り追加ス(法規一六三頁)

又ハ管長ノ認可セル私立學校ニ於テ滿四年以上修業シタル者

備考 本則ハ二級試補ニ敘セラレトモノ

### 五 宗費徵集ニ關スル改正案

#### 宗則第三號錄所職制中改正案

現行第七條中「第八項」ヲ削除シ以下順次繰上ク

(法規二二頁)

現行第八項 左ノ如シ

八 錄所ハ宗規宗則其他命令ノ定ムル所ニ據リ管内寺院僧侶ヨリ一定ノ宗費ヲ徵集ス

同條第十項 保管名簿中「賦課金徵集原簿」ヲ削除ス

備考 本則ノ改正ハ次ノ宗則ニ關スルモノトス



▼宗則第十二號宗費賦課徵集規則  
中改正並追加案

現行第五條ヲ左ノ通り改ム(法規一三二頁)

第五條 住職義納ハ寺祿ニ從ヒ左表ニ依リ住職出願ノ際之ヲ納付スヘシ

等級	收入六分	等級	收入六分
一等	四八〇,〇〇〇	二等	三九〇,〇〇〇
三等	三五〇,〇〇〇	四等	二四〇,〇〇〇
五等	一八〇,〇〇〇	六等	一五〇,〇〇〇
七等	二〇〇,〇〇〇	八等	九〇,〇〇〇
九等	七二,〇〇〇	十等	六〇,〇〇〇
十一等	五四,〇〇〇	十二等	四八,〇〇〇
十三等	四二,〇〇〇	十四等	三七,五〇〇
十五等	三三,〇〇〇	十六等	三〇,〇〇〇
十七等	二七,〇〇〇	十八等	二四,〇〇〇
十九等	二二,〇〇〇	二十等	一八,〇〇〇
廿一等	一五,六〇〇	廿二等	一三,二〇〇
廿三等	一〇,八〇〇	廿四等	九,〇〇〇
廿五等	七,二〇〇	廿六等	六,〇〇〇

前項ノ督促ヲ受ケタル後二十日以内ニ尙納付セザルトキハ宗費不納者トシテ處分ス

第十四條 宗費ハ正當ノ理由アルモノヲ除ク外納付ノ猶豫ヲ出願スルコトヲ得ス

第十五條 前二條ニ對シ特ニ其實審査ノ必要アリト認ムルトキハ當該録司ヲシテ調査セシメ又ハ宗務職員ヲシテ臨時出張セシムルコトアルヘシ

現行第十三條ヲ第十六條トス

現行第十四條ヲ第十七條トシ左ノ通り改正ス

第十七條 天災事變其他避クヘカラサル災害ニ罹リタルトキハ審査ノ上期限ヲ付シ宗費負擔ノ全部又ハ幾分ヲ免除シ或ハ徵集ヲ猶豫スルコトアルヘシ

現行第十五條及第十六條順次繰下ク

現行第十六條ヲ第二十條トシ左ノ通り改正ス

第二十條 第九條ノ施行期日并本則ノ施行ニ必要ナル規定ハ宗令ヲ以テ之ヲ定ム

▼度牒義納金ノ廢止

宗則第十二號宗費賦課徵集規則第三條第三項及

廿七等	四、八〇〇	廿八等	四、二〇〇
廿九等	三、六〇〇	三十等	三、〇〇〇
等外	一、五〇〇		

兼務住職出願ノ際ハ前表ノ半額トス

現行第九條以下左ノ通り改正ス

第九條 宗費賦課金ハ前條ニ定ムル期間内ニ於テ宗務院ニ直接納付スヘシ

第十條 宗費賦課金ノ納付ハ現金直納ノ外ハ宗務院財務部ノ加入セル振替貯金口座ニ拂込ムヘシ但地方ノ便宜ニ依リ録所ニ於テ取纏メ納付セシムルコトアルヘシ

第十一條 宗務院ハ第八條ニ定ムル期限ニ先チ各寺院僧侶ニ交付スヘキ宗費納付通知書、宗費納付書用紙及郵便振替貯金拂込用紙ヲ各録司ヘ送付スルモノトス

第十二條 録司ハ宗務院ヨリ前條ノ用紙ヲ送付セラレタルトキハ第八條ニ定ムル納期十五日以前ニ各寺院ヘ之ヲ配付スルモノトス

第十三條 各寺院僧侶ニシテ前條ノ用紙ヲ受取リ指定ノ納付期日ヲ經過スルモノ納付セザルトキハ宗務院ハ更ニ集金郵便ヲ以テ督促ス

第六條ハ削除セラレタリ。是レ從來得度セルモノハ得度届出ノ際金一圓ヲ度牒義納トシテ納付シ來リシヲ今回之ヲ廢止セラレタルモノトス

▼特別宗費賦課徵集規則中改正案

現行第二條中「四ヶ年」ヲ「六ヶ年半」ト改メ、現行第四條中「大正九年」ヲ「大正十一年」ニ、同「第一期」ヲ「第二期」ト改ム(法規一六七頁)

備考 本則ハ日蓮宗大學再築賦課金ニシテ大正五年會計年度第二期ニ始マリ同九年會計年度第一期ニ終ル四ヶ年徵集スヘキ法文ナリシヲ今回大學建築豫算増額ノ結果徵集年度ヲ延長セルモノトス、大學建築追加豫算案左ノ如シ

▼大學建築特別豫算追加案

一金六萬壹千〇拾六圓貳拾五錢也

内 譯

金參萬六千六百七拾七圓五拾錢也

大學部建築費不足額

金貳萬四千參百參拾八圓七拾五錢也

中等科建築費不足額

總 額

大學中等科建築費支出豫算表 (第一號表)

一金拾貳萬六千參百六拾四圓四拾壹錢也

支出豫算總額

第一項

一金參萬〇七百〇壹圓也 第一期工事費

內 譯

金貳萬九千八百八拾貳圓也

校舍一棟(地坪二百二十三坪 壹百參拾四圓)

金參百九拾壹圓五拾錢

立 關(建坪八拾七圓 五合)

金貳百四拾圓也 便 所(建坪四拾圓)

金壹百八拾七圓五拾錢

渡廊下(建坪六坪二合五勺 一坪參拾圓)

第二項

一金五萬壹千壹百六拾圓也 第二期工事費

內 譯

金貳萬〇五百圓也

講 堂(木造 平家建、建坪二百五坪 一坪壹百圓也)

金壹千〇八拾圓也

渡廊下(木造 平家、二十七坪 一坪四拾圓)

金貳萬壹千八百四拾圓也

寄宿舎(木造 二階建、地坪二百七十三坪 一坪八拾圓)

金五千九百圓也

同附屬家(木造 平家建、百十八坪 一坪五拾圓)

金六百四拾圓也

同渡廊下(木造 平家建、十六坪 一坪四拾圓)

金壹千貳百圓也

同便所(木造 平家建、二十四坪 一坪五拾圓)

第三項

一金八千參百貳拾圓也

諸 工 事 費

內 譯

金四百貳拾圓也

門衛所(建坪七坪 一坪六拾圓)

金壹千六百圓也

周圍塀 模樣替等臨時工事費

金貳千圓也

土工費 舊教場一棟位置變更改築費

金參千圓也

外便所二ヶ所(建坪六坪 一坪五拾圓)

第四項

一金貳萬八千五百六拾五圓四拾壹錢也

諸 費

內 譯

金貳千五百圓也

器具並機械購入費

金四百圓也

井 (但ポンプ共)

金貳千貳百圓也

設計並工事監督費

金七千五百圓也

附屬地所購入費

金壹萬五千九百六拾五圓四拾壹錢也

設計並雜費

第五項

一金七千六百拾八圓也

特別 諸 費

內 譯

金七千圓也

假教場、假寄宿舎并器具 其他燒跡整理費

金六百拾八圓也

バラック教場見積代 古材料トシテ寄宿舎へ供給

收入豫算

一金拾萬貳千〇貳拾五圓六拾六錢也

收入 總 額 (現行豫算)

收支差引

金貳萬四千參百參拾八圓七拾五錢也

不 足 額

大學部校舍並寄宿舎建築支出豫算表(第二號表)

一金四萬八千六百七拾七圓五拾錢也

支出豫算總額

第一項

金壹萬五千貳百六拾圓也

校舍一棟(建坪二一八坪 坪當リ七拾圓)

第二項

金壹萬四千六百貳拾五圓也

寄宿舎一棟(建坪二九二坪五合 坪當リ五拾圓)

第三項

金壹千七百參拾圓也

食堂及炊事場(四十三坪 坪當リ四拾圓)

第四項

金四百八拾圓也

附 屬 家(十二坪)

第五項

金貳千圓也

講堂設備費

第六項

金八千圓也

現在建物位置變更等諸費

第七項

金六千五百八拾貳圓五拾錢也

諸雜費

收入豫算

一金壹萬貳千圓也 收入總額 (現行豫算)

收支差引

金參萬六千六百七拾七圓五拾錢也

不足額

備考

大學建築特別豫算ハ大正五年五月臨時宗會ニ提案シタル決議ノ順序ニ依ルハ勿論ナリト雖モ愈實行期ニ入ルト同時ニ時價頓ニ激烈ナル暴騰ヲ來シ爲ニ工事設計ニ對シテハ相當割増ノ要求アリ且ツ新設工事ノ關係ヨリ現行豫算編成ノ當時ニ毫モ豫期セサル幾分ノ模倣替等ヲ生シタル結果本豫算ニ膨脹ヲ來シ第一號表ニ於テ實ニ貳萬四千參百參拾八圓七拾五錢ノ不足ヲ告ルニ至リ、更ニ大學部建築費ノ如キ亦如上ノ理由ニヨリ到底本豫算ヲ以テ實行ニ着手スルコト能ハス殊ニ大學部トシテハ相當體面ヲ保持スルノ必要アリ依テ茲ニ第二號表トシテ本豫算ヲ作成シタル結果是レ亦實ニ參萬六千六百七拾七圓五拾錢ノ不足ヲ告ルニ至ル。此ノ如何トモ爲ス能ハサル趨勢ニ對シ第十一宗會ハ、實ニ宗門教學ノ爲メ快ク本案ヲ承認セルモノトス。

### 六 護法會基金ノ增額改正

日蓮宗護法協贊會規則中改正案

現行第三條及第四條中『基金五拾萬圓』ヲ『基金七拾萬圓』ト改正ス(法規一八六頁)

### 七 大正七年ノ宗門豫算

大正七年度歲入歲出豫算案

一金七萬五千四百六拾貳圓貳拾錢也

歲入總額

一金七萬五千四百六拾貳圓貳拾錢也

歲出總額

歲入部

一金七萬五千四百六拾貳圓貳拾錢也

總額

第一款

一金參萬八千九百拾貳圓貳拾錢也

寺院賦課金

第二款

一金壹千壹百五拾六圓也

雜給

第三款

旅費

第四項

一金貳千四百四拾五圓也

院內費

第一目 金參百六拾圓也

薪炭費

第二目 金四百八拾圓也

用紙

第三目 金五拾圓也

官報新聞

第四目 金壹百八拾圓也

點燈

第五目 金六百四拾圓也

郵便

第六目 金參拾圓也

筆墨

第七目 金參百圓也

印刷

第八目 金八拾圓也

電話

第九目 金壹百貳拾五圓也

納稅、地代

第十目 金貳百圓也

保險

第五項

一金七百圓也

營繕、器具

第六項

一金七百圓也

賞與、慰勞

補遺 ◎大正七年ノ宗門豫算

一金七千圓也

僧階義納金

第三款

一金參千參百圓也

住職義納金

第四款

一金五百圓也

修法者義納

第五款

一金五百五拾圓也

教會所義納

第六款

一金貳百圓也

雜收入

第七款

一金貳萬五千圓也

護法財團受納金

歲出部

一金七萬五千四百六拾貳圓貳拾錢也

總額

第一款

一金壹萬九千二百貳拾壹圓也 宗務院費

第一項

一金九千五百貳拾圓也

役員俸給

第二項

- 第七項 一金壹千八百圓也
  - 第一目 金壹千圓也 交際、臨時費
  - 第二目 金八百圓也 各宗交際費
- 第八項 一金壹百圓也 雜費
- 第九項 一金壹千四百圓也 宗報發行費
- 第十項 一金壹千圓也 護法會事務費
- 第二項 會費
  - 第一項 會費
    - 第一目 金參千九百五拾圓也 宗會費
    - 第二目 金壹千五百參拾圓也 議員手當
    - 第三目 金壹千圓也 旅費
    - 第四目 金四百圓也 各員手當
    - 第五目 金壹百圓也 原案起草費
    - 第六目 金貳百五拾圓也 用紙、印刷、速記費
    - 第七目 金五拾圓也 資具
  - 第一項 會費
    - 第一目 金壹千九百五拾圓也 宗會費
    - 第二目 金壹千五百參拾圓也 議員手當
    - 第三目 金壹千圓也 旅費
    - 第四目 金四百圓也 各員手當
    - 第五目 金壹百圓也 原案起草費
    - 第六目 金貳百五拾圓也 用紙、印刷、速記費
    - 第七目 金五拾圓也 資具

- 第八目 金四百七拾圓也 諸雜費
- 第二項 金四百圓也 評議會費
- 第三項 金貳萬九千參百拾貳圓也 大學費
- 第一項 金貳萬貳千五百圓也 俸給
  - 第一目 金貳萬壹千圓也 教職員給
  - 第二目 金壹千五百圓也 雜給
- 第二項 金五千參百拾貳圓也 諸慰勞費
  - 第一目 金六百圓也 慰勞費
  - 第二目 金五拾圓也 法式費
  - 第三目 金壹百五拾圓也 公租、水道費
  - 第四目 金五百圓也 試驗費
  - 第五目 金貳百圓也 修學旅行費
  - 第六目 金五拾圓也 衛生費
  - 第七目 金五百圓也 營繕費
  - 第八目 金貳百圓也 保險費
  - 第九目 金五拾圓也 郵便費
  - 第十目 金五百圓也 圖書費

- 第十一目 金參百圓也 機械、標本、藥品費
- 第十二目 金貳百圓也 器具費
- 第十三目 金壹百五拾圓也 筆墨紙費
- 第十四目 金五拾圓也 印刷費
- 第十五目 金五拾圓也 官報、新聞代並廣告費
- 第十六目 金六百圓也 薪炭補助費
- 第十七目 金貳百五拾圓也 點燈補助費
- 第十八目 金壹百圓也 雜費
- 第十九目 金四百圓也 臨時費
- 第二十目 金五拾圓也 帳簿費
- 第二十一目 金貳百圓也 旅費
- 第二十二目 金壹百貳拾圓也 電話費
- 第二十三目 金四拾貳圓也 借地費
- 第三項 研究院補助
  - 一金壹千五百圓也
- 第四款 宗費生補助費
  - 一金壹千五百圓也
- 第五款 布教費
  - 一金壹萬五千四百五拾圓也
- 第一項 文書布教費
  - 一金七百圓也
- 第二項 以上

- 第三項 特派布教費
  - 一金五百圓也
- 第四項 巡回布教費
  - 一金四千圓也
- 第一目 金貳千五百圓也 教區補助費
- 第二目 金貳千圓也 布教補助費
- 第五項 講習會補助費
  - 一金五千圓也
- 第六項 開教地布教費
  - 一金五百圓也
- 第七項 聖典翻譯準備費
  - 一金壹千圓也
- 第八項 布教院費
  - 一金壹千圓也
- 第九項 布教豫備費
  - 一金壹千貳百五拾圓也
- 第六款 慈善獎勵金
  - 一金壹千五百圓也
- 第七款 災害宗費免除額
  - 一金五百圓也
- 第八款 未刊宗典編纂費
  - 一金壹千八百圓也
- 第九款 備費
  - 一金壹千八百貳拾九圓貳拾錢也豫備費

大正七年八月八日印刷  
大正七年八月十一日發行



編輯人

東京市芝區二本樺町二丁目十五番地

西村 慈 珖

發行人

東京市外淀橋町柏木九十八番地

井上 泰 岳

印刷人

東京市小石川區新諏訪町二番地

田中 源 四 郎

發行所

東京市小石川區新諏訪町二番地

日蓮宗大觀刊行會

印刷所

東京市小石川區新諏訪町二番地

日本宗教印刷株式會社

(正價金參圓)

325

309

325-309



終